

所ニ依ルヘシ

第五十條 銀行局ニ常務課調査課及報告課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第五十一條 常務課ハ左ノ規程ニ依リ各銀行營業上ニ關スル事ヲ掌ル

- 一、各銀行本支店ノ廢置移轉分合又ハ資本金増減等其他諸文書ヲ處辨スヘシ
- 二、銀行ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ
- 三、國立銀行頭取取締役ノ誓詞ヲ檢按シ支配人以上ノ姓名ヲ登録シ其印鑑ヲ保存スヘシ
- 四、諸銀行及之ニ類似スル會社營業上ニ關スル一切ノ事務ヲ處理スヘシ
- 五、銀行ノ營業停止及鎖店處分ニ關シ其方案ヲ起草スヘシ
- 六、諸銀行及之ニ類似スル會社營業上犯則ノ所爲アルトキハ之カ

處分案ヲ起草スヘシ

七、銀行紙幣日本銀行兌換券ニ係ル事件ヲ調理スヘシ

第五十二條 調査課ハ左ノ規程ニ依リ各銀行ノ景況ニ就キ統計報告ノ事ヲ掌ル

- 一、諸報告及簿記計算等ニ關スル告示及達案ヲ起草調査スヘシ
 - 二、諸報告及簿記計算ニ關スル一切ノ文書ヲ調理スヘシ
 - 三、各銀行及交換所ノ報告及考課狀等ヲ調査スヘシ
 - 四、各銀行交換所及兌換券ニ係ル諸帳簿ノ記入法并ニ諸報告計表樣式ノ創定又ハ改正ヲ要スルトキハ其文案ヲ起草スヘシ
 - 五、銀行鎖店ノ場合ニ際シ其資産及負債ヲ精査シ實際ノ損益ヲ證明スヘシ
 - 六、諸銀行ノ金庫帳簿諸證書及營業ノ實況ヲ檢査スヘシ
- 第五十三條 報告課ハ左ノ規程ニ依リ各銀行ノ景況ニ就キ統計報告ノ事ヲ掌ル

一、各銀行營業上貸借金ノ員額種類資本及諸手形ノ多寡増減其他ノ事項等各銀行ノ報告書考課狀ニ依リ毎半季ニ區分統計シ其景況考察ノ用ニ便スヘシ但參考ノ爲メ歐米銀行業務ノ景況等ヲ調査スルコトヲ得

二、交換所ニ於テ其交換ノ高ヲ調査シ手形ノ種類等ヲ區分統計スヘシ

第五十四條 預金局ニ勘査課收支課及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第五十五條 勘査課ハ左ノ規程ニ依リ各種預金ニ關スル運用利殖等ノ事ヲ掌ル

- 一、預金運用利殖ノ方案ヲ立ツヘシ
- 二、預金ノ利子額ヲ定メ或ハ之カ更正ヲ考案スヘシ
- 三、日本銀行ヘ交付スル手数料ヲ勘按スヘシ
- 四、日本銀行ヘ定期及ヒ當坐預ケ入金ノ順序ヲ定ムヘシ

五、所管ニ屬スル正貨交換ノ方案ヲ立ツヘシ

六、所管ノ帳簿ヲ整理スヘシ

第五十六條 收支課ハ左ノ規程ニ依リ各種預金ノ出納ニ關スル事ヲ掌ル

- 一、預ケ入金領收交付ノ順序ヲ定メ及之ヲ處分スヘシ
- 二、驛遞局貯金ヲ受入レ及拂渡方ヲ處辨スヘシ
- 三、預ケ入金ノ通帳ヲ整理スヘシ
- 四、預ケ入金利子交付ノ順序ヲ爲スヘシ
- 五、預ケ入金ヲ國庫ニ納入シ及受取方ヲ處辨スヘシ
- 六、所管ノ諸帳簿ヲ整理スヘシ

第五十七條 計算課ハ左ノ規程ニ依リ各種預金ノ計算簿記ノ事ヲ掌ル

- 一、預金收支ノ計算ヲ總轄整理スヘシ
- 二、預金ノ種類ヲ區別スヘシ

- 三、公債證書及大藏省證券ノ價值ヲ類別シ其計算ノ方法ヲ立ツヘシ
- 四、所管ノ諸帳簿ヲ整理スヘシ
- 第五十八條 記録局ニ編輯課及照查課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第五十九條 編輯課ハ左ノ規程ニ依リ省中一切ノ諸公文原書及書籍ヲ保管スル事ヲ掌ル
 - 一、支出傳票ノ原書及省中ノ諸公文原書ヲ保存スヘシ
 - 二、各局ノ諸原書ヲ採輯スルハ其主任局ニ於テ事務完結後三十日以内タルヘシ但計算出納ニ屬スル原書ハ決算報告書完結ノ後タルヘシ
 - 三、保存ノ原書類ハ各局ニ區別シテ之ヲ編輯シ其主任局課ノ需メニ應シ直ニ參觀ニ供スヘシ
 - 四、本省所管ノ書冊ハ其目錄ヲ調製シ内閣記録局ヘ勸合スヘシ
 - 五、省中需用ノ書籍ヲ購收スル事務ヲ處理スヘシ

- 六、本省外各廳ノ官吏ニシテ保管書類ノ借覽ヲ請求スルモノアルトキハ大臣ノ允許ヲ得テ之ヲ借覽セシムヘシ
- 七、省中ノ官吏ニシテ書籍ノ借覽ヲ請フモノアルトキハ其規約ヲ嚴ニシテ貸附スヘシ
- 八、總テ保存ノ書類簿冊等ハ其管守ノ法ヲ嚴正ニスヘシ
- 第六十條 照查課ハ左ノ規程ニ依リ各種公債證書紙幣及大藏省證券ノ押印又ハ消印ノ事ヲ掌ル
 - 一、各種紙幣公債證書大藏省證券等ハ其種類記號番號ヲ照查シ其面ニ押印スヘシ又紙幣證書證券等ノ支消或ハ損傷若クハ抽籤等ニテ引上ケタルモノハ検査ノ後之カ消印ヲ了シ燒棄ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 二、國立銀行紙幣ノ損傷交換等ニ係ル事務ヲ處理スヘシ
 - 三、諸證書證券等其種類ヲ變換スルカ爲メ新舊引換ノモノアルトキハ検査ノ後新證書類ヘハ例規ノ押印ヲナシ舊證書類ヘハ檢

查後二日以内ニ消印ヲ了シ直ニ燒棄スヘシ但其手續順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

四、各公債證書ノ利札ハ検査後燒棄スヘシ其手續順序ハ前條ノ如シ

○府縣稅務監查規則大藏省令第十三號
府縣稅務監查規則左ノ通相定ム

府縣稅務監查規則

第一條 府縣ノ稅務ハ時々主稅官ヲ派出シテ之ヲ監查セシム
第二條 主稅官ハ左ノ件々ニ就キ各府縣ノ稅務ヲ監查スルモノトス

各種內國稅

印紙類賣捌方及取扱方

検査區畫

検査員配置計畫及検査事務取扱方

內國稅徵收費支辨ノ實況

稅務諸帳簿ノ整否

收稅事務取扱ノ得失

第三條 主稅官ハ府縣ノ稅務ニ關シ意見アルトキハ直チニ府知

事縣令ニ協議ヲ爲スコトヲ得

第四條 監查上時宜ニ依リ郡區役所及ヒ戶長役場ニ就キ稅務ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第五條 府縣廳ニ於テ協議ヲ遂ケタル事項及ヒ監查上ノ實況ハ之ヲ大藏大臣ニ具申スルモノトス

○稅關官制明治十九年三月勅令第七號

朕稅關官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

稅關官制

第一條 各稅關ハ大藏大臣ノ管轄ニ屬シ職員ヲ置クコト左ノ如シ
稅關長

稅關副長

鑑定官(二十年勅令第六十九號ヲ以テ本項追加)

屬

監吏

鑑定吏

第二條 税關長ハ奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ海關稅及諸収入ノ事ヲ掌理ス

税關長ハ其主務ニ就キ關稅局長ト協辨スルコトアルヘシ

第三條 税關副長ハ奏任トス横濱神戸ノ兩税關ニ限り之ヲ置ク

税關副長ハ税關長ノ事務ヲ佐ク税關長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

鑑定官ハ奏任二等以下トス税關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物鑑定ノ事ヲ掌ル(二十年勅令第六十九號ヲ以テ本項追加)

第四條 屬ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ニ從フ

第五條 監吏ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ密商脫稅監視ノ事ニ從フ

監吏ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第六條 鑑定吏ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ貨物鑑定ノ事ニ從フ

鑑定吏ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七條 各税關ニ検査課鑑定課收稅課倉庫課監視課文書課製表課及會計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第八條 検査課ハ輸出入貨物ノ検査ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第九條 鑑定課ハ輸出入貨物ノ性質價直其他鑑定ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十條 收稅課ハ輸出入貨物ノ税金及船舶倉庫等ノ諸收入金收納ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十一條 倉庫課ハ倉庫上屋ヲ管守シ其開閉及貨物ノ出納ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十二條 監視課ハ密商脫稅監視ノ事ヲ掌ル

第十三條 文書課ハ内外諸文書及職員ノ取扱免狀證書等捺印ノ事ヲ掌ル

第十四條 製表課ハ貿易ニ關スル諸表編製ノ事ヲ掌ル

第十五條 會計課ハ關稅諸收入及經費ノ豫算決算並經費ノ出納買上品官沒品ノ取扱財産ノ管守其他諸傭人ノ身分ニ關スル事ヲ掌ル

○造幣局官制 明治二十年十二月 勅令第六十號

朕造幣局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造幣局官制

第一條 造幣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣鑄造及賞牌製造ノ事ヲ掌ル

第二條 造幣局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

局長

局次長

技術官

屬

第三條 局長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 局次長ハ一人奏任トシ現任局長ノ次等以下トス局長ノ事務ヲ佐ク

第五條 技術官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス

第七條 造幣局ニ總務部會計部鑄造部試金所精製所ヲ置ク

第八條 總務部ハ内外ノ諸公文書類諸報告ノ取扱監察ノ事務職員ノ取扱及諸雜件調理ノ事ヲ掌ル

第九條 會計部ハ各地金及成貨ノ出納計算營業費ノ豫算決算及其出納各工場諸官舎等所屬建物ノ營繕ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 鑄造部ハ貨幣ノ鑄造極印ノ彫刻鐵工銅工等ノ工事ヲ掌ル

第十一條 試金所ハ地金及貨幣ノ品位ヲ試驗スルノ工事ヲ掌ル

第十二條 精製所ハ金銀ヲ精製スルノ工事ヲ掌ル

第十三條 大藏省構内ニ造幣局東京出張所ヲ置キ各地金ノ受入及代リ貨幣拂渡ノ手續ヲ分掌セシム

○印刷局官制 明治十九年四月 勅令第十七號

朕造幣局印刷局ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印刷局官制

二十年勅令第六十號ヲ以テ造幣局官制改正

第一條 印刷局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ諸印刷抄紙ノ事ヲ掌ル

第二條 印刷局ニ職員ヲ置クト左ノ如シ

事務長

事務次長

技術官

屬

第三條 事務長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 事務次長ハ一人奏任トシ現任事務長ノ次等以下トス事務長ノ事務ヲ佐ク

第五條 技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス

第七條 印刷局ニ總務部會計部印刷部及抄紙部ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

造幣局ノ項ハ二十年勅令第六十號ヲ以テ官制改正ニ付消滅シ三池鑛山局ハ二十二年八月拂下ニ付消滅シ二十二年三月閣令第十三號ヲ以テ佐渡生野兩鑛山局ヲ廢ス

○印刷局分掌規程大藏省令第十八號
造幣局印刷局三池鑛山局佐渡鑛山局及ヒ生野鑛山局ノ分掌規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

印刷局分掌規程

- 第一條 總務部ハ諸公文書類ノ取扱各部業務ノ監督帳簿金錢物品ノ檢査職員ノ取扱及ヒ全體ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル
- 第二條 會計部ハ營業費ノ豫算決算及ヒ其出納事務諸物品ノ購買發賣并ニ諸機械ノ製作修補所屬建物ノ營繕ニ關スル事ヲ掌ル
- 第三條 印刷部ハ彫刻活版銅版石版其他印刷製肉製本ニ關スル一切ノ工事ヲ掌ル
- 第四條 抄紙部ハ抄紙ニ關スル一切ノ工事ヲ掌ル

二十一年五月陸軍省令第十號ヲ以テ參謀官官制改正ニ付參謀本部長トアルハ總ヲ參謀ト改正セラレ百ヲ示ス

○軍事參議官條例明治二十年五月勅令第三十號

朕軍事參議官條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍事參議官條例

- 第一條 軍事參議官ハ之ヲ帷幄ノ中ニ置キ軍事ニ關スル利害得失ヲ審議セシム
- 第二條 軍事參議官ハ左ノ如シ
陸軍大臣
海軍大臣
〔參謀本部長〕
監軍
- 第三條 凡ソ事陸軍ニ關スルモノハ陸軍大臣〔參謀本部長〕監軍之ヲ審議シ海軍ニ關スルモノハ海軍大臣〔參謀本部長〕之ヲ審議ス
- 第四條 凡ソ事陸海兩軍ニ關スルモノハ各參議官ニ於テ之ヲ審議ス

○陸軍省

沿革略記

明治五年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ陸軍省
 問、造兵、武庫ノ三司ヲ管ス。○同年三月第八十六號達ヲ以テ御
 親兵ヲ廢シ近衛兵ヲ置キ條例ヲ定ム。○同年四月廿四日陸軍
 省達ヲ以テ諸寮司局並會計監督條例ヲ定ム。○同年同月第百
 十八號ヲ以テ糾問司ヲ廢シ更ニ陸軍裁判所ヲ置キ長、正、權、評
 事、參、坐、大、中、少、主、理、大、中、少、錄、事、等ノ職員ヲ置キ等級ヲ定ム。○
 六年三月十二日陸軍省職制并條例ヲ定ム。○同年同月第百十
 三號ヲ以テ陸軍省職制ヲ改定シ卿官房及七局ヲ置キ職員ヲ
 定ム。○同年五月第百五十四號ヲ以テ武官官等ヲ改定ス。○同
 年同月第百五十七號ヲ以テ中少尉ヲ委任官トシ等級舊ニ依
 ル。○同年同月第百六十號ヲ以テ武官官等表、中軍醫部ノ官名
 ヲ改ム。○同年同月十五日武官表ヲ定ム。○同年同月第百七十
 二號ヲ以テ軍醫寮ヲ廢ス。○同年同月廿四日陸軍省達ヲ以テ
 大、中、少、尉、准、心、得、等ヲ廢シ更ニ少尉試補ヲ置キ判任官ト爲ス
 ○同年七月十五日陸軍省無號達ヲ以テ喇叭隊諸官員ノ等級

表ヲ制定ス。○同年八月第二百九十七號ヲ以テ裁判所ノ管轄
 書記ノ兩官ヲ廢ス。○同年十一月十四日軍醫部中ニ軍醫試補
 ヲ置ク。○同年同月第三百九十四號ヲ以テ會計軍醫馬醫部ノ
 中少尉相當官ノ者ヲ委任トス。○七年二月陸軍省第七十一號
 達ヲ以テ馬醫部中ニ馬醫試補ヲ置ク。○同年十月陸軍省第三
 百六十七號達ヲ以テ會計部ニ軍吏試補ヲ置ク。○同年十一月
 第百廿一號布告ヲ以テ武官表ヲ改定ス。○八年二月第十二
 號布告ヲ以テ造兵武庫ノ二司ヲ廢ス。○同年五月陸軍省第百
 三十八號達ヲ以テ兵部山學校幼年學校ヲ本省ノ直轄トス。○同
 年九月第百四十五號達ヲ以テ武官表ヲ改正ス。○九年一月第
 一號達ヲ以テ陸軍省職制及事務章程ヲ更定ス。○十年一月第
 三號達ヲ以テ諸寮并大少丞以下ヲ廢シ更ニ書記官屬官ヲ置
 キ等級ヲ定ム。○同年同月第四號達ヲ以テ四等官以下ノ等給
 ヲ改定ス。○同年同月第十五號達ヲ以テ陸軍裁判長以下ノ官
 等ヲ定ム。○同年二月十六日陸軍省號外達ヲ以テ電信取扱所
 ヲ置キ第一局ニ屬ス。○十一年三月陸軍省乙第三十四號達ヲ
 以テ少尉試補會計軍吏試補軍醫試補馬醫試補ヲ十等官相當
 准士官上席ト定ム。○同年十二月第五十號達ヲ以テ參謀本部
 ヲ置キ條例ヲ同部ヘ達ス。○同年同月第五十一號達ヲ以テ參
 謀本部ニ參謀本部長次長ヲ置ク。○同年同月第五十二號達ヲ
 以テ監軍本部ヲ置キ條例ヲ同部ヘ達ス。○十二年十月第三十
 九號達ヲ以テ陸軍職制ヲ定メ陸軍省職制事務章程并ニ陸軍

武官官等ヲ改正ス○同年同月陸軍省乙第八十三號達ヲ以テ
 陸軍軍醫本部ヲ置キ陸軍本病院ヲ管ス○十三年一月第一號
 達ヲ以テ軍用電信技手ヲ置キ等級ヲ定ム○同年四月十四日
 參謀本部條例中ヲ改正ス○同年十一月二十五日參謀本部條
 例中ヲ改正追加ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ陸軍職制
 事務章程中ヲ改正ス○同年同月廿七日監軍本部條例中ヲ改
 正ス○十四年一月第四號達ヲ以テ陸軍部内ニ憲兵ヲ置ク○
 同年五月第三十九號達ヲ以テ陸軍職制陸軍省職制事務章程
 中ヲ改正ス○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章
 程ヲ廢シ各省事務章程通則ヲ定ム○十五年一月十六日參謀
 本部條例中ヲ改正追加ス○同年二月二十五日參謀本部條例
 中ヲ改正ス○同年五月第二十三號達ヲ以テ省中理事理事補
 審事審事補錄事ヲ置キ官等俸給ヲ定ム○同年七月陸軍省乙
 第五十一號達ヲ以テ陸軍臨時建築署條例ヲ定ム○同年九月
 第五十七號達ヲ以テ陸軍裁判所ヲ廢ス○十六年五月第二十
 一號達ヲ以テ陸軍武官官等表ヲ改ム○十七年一月第十四號
 達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正シ又七軍管區域ヲ
 改ム○同年五月十四日陸軍下士官等ヲ改正ス○十八年二月
 第六號達ヲ以テ陸軍武官官等表中軍醫部上長官士官及馬醫
 部上長官以下ヲ改正ス○同年五月第十七號達ヲ以テ陸軍武
 官官等屯田兵ノ項ヲ設ケ軍樂長ノ等級ヲ改ム○十八年十二
 月第六十九號達ヲ以テ各省卿職制ヲ廢シ更ニ陸軍大臣ヲ置

ク○十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年三月勅
 令第四號ヲ以テ武官官等表ヲ改定ス○同年同月十八日勅令
 ヲ以テ參謀本部條例ヲ改定ス○同年四月勅令第三十七號ヲ
 以テ武官官等ヲ更定ス○同年七月閣令第二十七號ヲ以テ監
 軍本部ヲ廢ス○同年十月勅令第六十八號ヲ以テ陸軍諸學校
 ニ文官教員ヲ置ク○同年同月勅令第七十六號ヲ以テ臨時砲
 臺建築部官制ヲ定ム○二十年五月勅令第十八號ヲ以テ監軍
 部條例ヲ定ム○同年同月勅令第十九號ヲ以テ陸軍省官制ヲ改
 正ス○同年同月勅令第二十號ヲ以テ軍事參議官條例ヲ定ム
 ○同年六月勅令第二十五號ヲ以テ陸軍士官學校官制ヲ定ム
 ○同年同月勅令第二十六號ヲ以テ陸軍幼年學校官制ヲ定ム
 ○同年十月勅令第五十三號ヲ以テ陸軍大學校條例ヲ定ム○
 同年同月勅令第五十四號ヲ以テ陸軍戶山學校條例ヲ定ム○
 同年十二月勅令第七十一號ヲ以テ陸軍砲兵射的學校條例ヲ
 定ム○同年同月勅令第八十一號ヲ以テ陸軍將校生徒試驗委
 員條例ヲ定ム○二十一年二月勅令第四號ヲ以テ陸軍大學校條
 例第二條ヲ改正ス○同年同月勅令第五號ヲ以テ陸軍戶山學
 校條例第三條ヲ改正ス○同年三月勅令第十三號ヲ以テ陸軍乘
 馬學校條例ヲ定ム○同年同月勅令第十五號ヲ以テ軍馬育成
 所官制ヲ定ム○同年五月勅令第二十四號ヲ以テ參謀本部條
 例ヲ廢シ參軍官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十五號ヲ以テ陸
 軍參謀本部條例陸軍參謀職制陸地測量部條例ヲ定ム○同年同

月勅令第三十四號ヲ以テ陸軍大學校條例中ヲ改正ス○同年
 同月勅令第三十六號ヲ以テ監軍部條例中ヲ改正ス○同年六
 月勅令第四十八號ヲ以テ武官々等表中ヲ改正ス○同年同月
 勅令第五十號ヲ以テ陸軍重症病馬治療所官制ヲ定ム○同年七
 月勅令第五十二號ヲ以テ千住製絨所官制ヲ改正シ該所ヲ陸
 軍大臣ノ管理ニ屬ス○同年十一月勅令第七十七號ヲ以テ陸
 軍省法官部官制ヲ定ム○二十二年二月勅令第二十號ヲ以テ
 戶山學校條例中ヲ改正ス○同年三月勅令第廿五號ヲ以テ參
 軍官制陸軍參謀本部條例ヲ廢シ更ニ參謀本部條例ヲ定ム○
 同年同月勅令第廿六號ヲ以テ陸軍參謀職制中ヲ改正ス○同
 年同月勅令第二十七號ヲ以テ陸軍大學校條例中ヲ改正ス○
 同年同月勅令第二十八號ヲ以テ陸地測量部條例中ヲ改正ス
 ○同年同月勅令第三十四號ヲ以テ陸地測量官々制ヲ定ム

○參謀本部條例明治二十二年三月
勅令第二十五號

朕參軍官制陸軍參謀本部條例海軍參謀本部條例ヲ廢シ參謀本部條例
 ノ制定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

參謀本部條例

- 第一條 參謀本部ハ之ヲ東京ニ置キ出師國防作戰ノ計畫ヲ掌トリ及
ヒ陸軍參謀將校ヲ統轄シ其教育ヲ監督シ陸軍大學校陸地測量部ヲ
 管轄ス
- 第二條 陸軍大將若クハ陸軍中將一人ヲ帝國全軍ノ參謀總長ニ任シ
 天皇ニ直隸シ帷幄ノ軍務ニ參シ參謀本部ノ事務ヲ管理セシム
- 第三條 參謀次長一人ヲ置キ陸軍中將若クハ陸軍少將ヲ以テ之ニ補
 シ參謀總長ヲ補佐ス但之ヲ置クハ事務ノ繁閑ニ從フ
- 第四條 凡ソ戰略上事ノ軍令ニ關スルモノハ專ラ參謀總長ノ管知ス
 ル所ニシテ之カ參畫ヲナシ親裁ノ後半時ニ在テハ直ニ之ヲ陸軍大
 臣ニ下シ戰時ニ在テハ參謀總長之ヲ師團長若クハ特命司令官ニ傳
 宣シテ之ヲ施行セシム
- 第五條 參謀本部ニ副官部ヲ置キ部内ノ庶務會計經理ノ事ヲ管掌シ
 兼テ陸軍文庫ヲ管理セシム

第六條 副官大(中)佐一人佐尉官三人ヲ置キ其下ニ部員尉官二人軍吏二人及書記屬ヲ附ス

第七條 文庫主管尉官一人ヲ置キ其下ニ屬ヲ附ス

第八條 參謀本部ニ左ノ二局一課ヲ置キ部事ヲ分擔セシム
第一局

- 一 出師計畫及團隊編制
- 二 交通法ノ調査

第二局

- 一 國防及作戰計畫並ニ陣中要務ノ規定
- 二 外國軍事ノ調査
編纂課

一 内外地誌外國政誌及戰史ノ纂輯

二 外國書ノ翻譯

第九條 各局長參謀大佐各一人各局員ハ參謀中少佐大尉ノ内各八人

ヲ置ク但定員ノ外大中尉若干ヲ附屬シ出仕將校トシテ局務ニ從事セシムルコトヲ得

第十條 編纂課長中(少)佐一人ヲ置キ其下ニ課員佐尉官或ハ文官四人及之ニ屬ヲ附ス

二十二年勅令第二十五號
ヲ以テ陸軍參謀本部條例
ヲ廢ス

○參謀職制陸地測量部條例 明治二十一年五月 勅令第二十五號

朕陸軍參謀本部條例參謀職制陸地測量部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(二十二年勅令第二十六號ヲ以テ陸軍參謀トアル陸軍ノ二字ヲ削ル以下倣之)

參謀職制

第一條 參謀將校ハ高等將帥ノ職務ヲ輔佐シ殊ニ戰術及ヒ戰略ニ關スル機務ヲ參畫スルヲ任トス

第二條 參謀將校ハ參謀總長之ヲ統轄シ陸軍參謀本部監軍部近衛及

ヒ師團參謀部ニ於テ服事セシム(二十二年勅令第廿六號ヲ以テ本條中改正)

第三條 參謀本部ノ參謀將校ハ參謀總長ニ隸シ出師ノ計畫國防及作戰ノ計畫並外國軍事ノ調査ニ係ル事務ヲ分擔ス(二十二年勅令第廿六號ヲ以テ本條中改正)

第四條 監軍部ノ參謀將校ハ監軍ニ隸シ部事ヲ擔任ス

第五條 近衛及師團參謀將校ハ都督師團長ニ隸シ該司令部ノ事務殊ニ師團出戰整備並機動演習ニ關スル事務ヲ整理スルヲ任トス

第六條 參謀本部附屬參謀將校ハ其所屬長官ニ隸シ各其定ムル所ノ職務ニ服ス

第七條 參謀ノ職ニ補シ得ル者ハ諸兵科ノ大尉以上ヲ以テスルヲ例トシ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ選拔ス

其一 陸軍大學校ヲ卒業シタル參謀適任ノ將校ニシテ卒業後一年以上隊附服務ヲナシタルモノ

其二 全軍中才能衆ニ秀タル將校ニシテ本職ニ適任ナルモノ

第八條 參謀將校ハ時々軍隊ニ轉任セシメ其伎倆卓越ナルハ所要ニ

應シ再ヒ參謀部ニ轉入セシム

第九條 參謀將校ヲシテ職務ニ完熟セシムル爲メ參謀本部監軍部ノ參謀將校ト近衛及師團參謀將校トハ便宜交任セシムルヲ法トス

第十條 參謀將校ノ進級ハ陸軍武官進級條例ニ依テ之ヲ律ス

參謀官定員表

官等	官等				計
	大	佐中	佐少	佐大	
參謀本部	二		十		六
監軍部	一				一
近衛參謀部	七		七		七
師團參謀部					七
合計	四十二				二十一

備考

一 本表定員ノ外陸軍大學校長同校兵學教官陸軍省總務局第三課長屯田兵本部參謀及各國公使館附將校ハ參謀本部附屬參謀將校トス

二 戰時ハ各師團參謀部ニ大尉一名ヲ增加ス之カ爲メ參謀本部ノ人員ヲ減スルコトヲ得而テ此缺員ハ必要ナレハ出仕將校ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得

陸地測量部條例

第一條 陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シテ兵要及一般ノ國用ニ充ツ可キ内國圖ヲ製造スル所トス

第二條 陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分テ又別ニ修技所ヲ置ク

第三條 陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	各兵大佐	一人
科長	各兵中少佐	三人
班長	各兵大尉或相當技術官	十人
班員	各兵中少尉或相當技術官 准士官下士或相當技術官	若干人 若干人
副官	各兵大尉	一人
材料主管	各兵大中尉	一人
計官	軍吏	一人
科僚	各兵中少尉	三人

修技所幹事

各兵大尉

一人

修技所教官

各兵士官或相當技術官

若干人

修技所助教

准士官下士或相當技術官

若干人

第四條 部長ハ參謀總長ニ隸シ部事ヲ整理シ其責ニ任ス(二十二年勅令第二十八號ヲ以テ本條中改正)

第五條 部長ハ懲罰權並部内官僚ノ休暇附與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ

第六條 三角科ハ三角測量ヲ施行シテ地圖製造ノ基礎ヲ設爲シ地形科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造シ製圖科ハ原圖ニ由リ諸地圖ヲ製造シテ之ヲ製版スルコトヲ掌リ及班ハ科内ノ業務ヲ分掌ス

第七條 科長ハ各其科ノ事業ヲ管理ス

第八條 班長ハ各其班ノ業務ヲ管理ス

第九條 班員ハ諸掛ニ分テ各其業務ヲ掌ル

- 第十條 副官ハ部内ノ庶務ヲ掌ル
- 第十一條 材料主管ハ材料及圖籍ノ保管出納ヲ掌ル
- 第十二條 計官ハ測量費ノ會計ヲ掌ル
- 第十三條 科僚ハ科内ノ庶務ヲ掌ル
- 第十四條 科長ハ技術官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 第十五條 修技所ハ陸地測量ノ業務ニ充ツ可キ技術官ヲ養成スルノ所ニシテ若干ノ生徒ヲ置ク
- 第十六條 修技所幹事ハ生徒ノ養成ニ任シ所内ノ庶務ヲ掌ル
- 第十七條 修技所教官及助教ハ教授ヲ掌ル
- 第十八條 修技所教官及助教ハ各科ノ官僚ニ於テ兼勤ス
- 第十九條 第三條ニ掲クル職員ノ外下士或陸軍屬ヲ置ク

○陸軍大學校條例 明治二十年十月 勅令第五十三號

朕陸軍大學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大學校條例

- 第一條 陸軍大學校ハ各兵科中少尉ノ學術才能衆ニ超ユル者ヲ選拔シ以テ軍事諸般ノ教育ヲ完全ナラシメ且高等兵學ヲ教授シ將來參謀官、高等官衙副官及教官ニ充ツルヲ目的トシ並ニ高等職務ニ堪ユルキ學事上ノ基礎ヲ修習セシムル所トス(二十一年勅令第三十四號ヲ以テ改正)
- 第二條 陸軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク(二十一年勅令第三十四號ヲ以テ各項共改正)
 - 校長 參謀大佐 一人
 - 幹事 各兵科中佐若クハ少佐 一人
 - 兵學教官 參謀佐官若クハ同大尉 七人(二十二年勅令第二十七號ヲ以テ四人ヲ七人ト改ム)
 - 教官 各兵科佐官若クハ同大尉五人 監督部上長官若クハ監督補一人 軍醫部上長官若クハ一等軍醫一人 陸軍教授

課僚	各兵科士官	十二人
廐長	騎兵科士官	一人
軍吏		一人
獸醫		一人

教官ハ右定員ノ外他ニ本職アル者ヲシテ兼務セシムルヲ得

第三條 校長ハ參謀總長ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス
(二十一年勅令第三十四號ヲ以テ改正シ二十二年勅令第二十七號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第四條 校長ハ懲罰權並ニ校附官僚、學生ノ休暇付與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ

第五條 幹事ハ校長ヲ輔佐シ庶務ヲ擔任ス

第六條 教官ハ教授ヲ擔任シ又時トシテ翻譯ノ事ニ從ハシム

第七條 課僚ハ文書掛學事掛ニ分テ各其事務ヲ分掌ス

第八條 廐長ハ校廐一切ノ事ヲ統轄ス

第九條 第二條ニ掲クル職員ノ外下士及陸軍屬ヲ置ク

第十條 陸軍大學校ノ學生ハ毎年二十名以内ヲ入學セシム

第十一條 陸軍大學校ニ入學ヲ許スヘキ者ハ其志願者ニシテ二年以上兵隊ニ屬シ將校ノ職務ヲ奉シ勤務上秀逸ノ能力アル者ニ限ル但此年數ハ毎年五月三十一日ノ調査ニ據ル

第十二條 入學志願者ハ順序ヲ經テ聯隊長(聯隊ヲ成サ、ル隊ニ在テ其所屬長官以下做之)ニ願出聯隊長之ヲ適當ト確認スルトキハ陸軍大學校學生候補名簿ヲ作り順序ヲ經テ之ヲ所管長官ニ呈ス

聯隊長ハ志願者ノ品行才能ニ就テハ特ニ擔保ノ責ニ任ス

所管長官ハ候補者ヲ取捨シ候補名簿ニ署名捺印シテ毎年六月二十日マテニ之ヲ參謀總長ニ進達ス(二十一年勅令第三十四號ヲ以テ本號ヲ以テ參軍ヲ參謀總長ト改ム)

第十三條 參謀總長ハ志願者ノ學識ヲ試驗スル爲メ試驗委員ヲ編成シ毎年七月ニ於テ密封ノ問題ヲ所管長官ニ送付シ所管長官ハ參謀

或ハ次長ノ監視ヲ以テ志願者ニ筆記ノ答解ヲナザシム但此試験ハ
全國同一ノ日ニ行フ其日限ハ參謀總長時々之ヲ告達ス(二十一年勅
令第二十七號ヲ以テ字句ヲ改正シ二十二年勅
令第二十七號ヲ以テ字句ヲ改正)

所管長官ハ八月三十一日マテニ其答解書ヲ參謀總長ニ進達スヘシ
參謀總長ハ之ヲ試験委員ニ下シ審査セシム

第十四條 參謀總長ハ所管長官ヨリ進達スル所ノ候補名簿ト試験委
員ノ審査トニ基キ再審査ニ附スヘキ者ヲ定メ之ヲ所管長官ニ通
知ス(二十一年勅令第三十四號ヲ以テ改正シ二十二年
勅令第二十七號ヲ以テ參謀總長ト改ム)

第十五條 再審査検査ヲ受クヘキ者ノ内東京外ニ在ル者ハ所管長官之
ニ出京ヲ命スヘシ(二十一年勅令第三
十四號ヲ以テ改正)

第十六條 再審査検査ハ試験委員ニ命シテ之ヲ行ハシム(二十一年勅令
第三十四號ヲ
以テ改正)

第十七條 參謀總長ハ試験委員ノ呈出スル再審査検査成績報告ニ依リ
入學ヲ許可スヘキ者ヲ決定シ之ニ入學ヲ命ス(二十一年勅令第三十
四號ヲ以テ改正)

十二年勅令第二十七號ヲ以
テ參謀總長ト改ム

第十八條 入學ノ期ハ毎年十二月初旬トシ修學期限ヲ三箇年トス而
シテ毎年十二月ヨリ翌年十一月マテヲ逐次第一第二第三學年ト稱
ス

每學年中概ネ十二月ヨリ翌年六月マテハ校内授業、七月八月ハ隊
附服務、九月ハ校内授業、十月十一月ハ野外作業ノ時期トス但第二
學年ノ終ニ於テハ其年附屬セシ兵隊ノ秋季野外演習ノ時期ニ於テ
再ヒ之ニ附屬セシム

第十九條 入學ノ後品行上或ハ學力才能上本校ノ目的ニ適セサル者
アルトキハ校長ノ具申ニ依リ參謀總長之ニ歸隊ヲ命ス(二十一年勅
令第三十四
號ヲ以テ改正シ二十二年勅令第
二十七號ヲ以テ字句ヲ改正)

第二十條 病氣等ノ故ヲ以テ缺課多キ者ハ更ニ一年間滯學ヲ命スル
コトアルヘシ

第二十一條 學生入學中ノ願届其他業務ニ關スル件ハ總テ校長ノ管

理ニ屬ス而シテ其俸給ハ原所管ヨリ毎月初ニ該校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受渡ヲナス

第二十二條 學生ハ校外ニ居住シ通學セシム

各自ノ學用品ハ授業ニ要スル書籍ノ外一切自辨タルヘシ但器具類ノ内種類ニヨリ貸與スル物アルヘシ

第二十三條 學生隊附服務中ノ勤務上ノ事ハ總テ其隊長ニ隸ス而シテ學生隊附服務ヲ畢レハ其隊長ハ其服務中ノ成績ヲ校長ニ通報ス學生隊附服務中ノ犯行ニシテ懲罰ニ觸ル、者ハ隊長之ヲ罰スヘシ但故意ニ係ルモノハ其犯行並處分ヲ直チニ校長ニ報ス

第二十四條 學生ハ進級ノ爲メ別ニ學術檢査ヲ行ハス故ニ實役停年最下限ヲ經過シタルトキハ決定候補名簿ニ登載スル者トス但其人名ハ參謀總長之ヲ陸軍大臣ニ移ス(二十一年勅令第三十四號ヲ以テ改正シ二十二年勅令第二十七號ヲ以テ參謀總長ト改ム)

第二十五條 各學年ノ終リニ於テ校長首座トナリ教官ヲ會同シ會議

ヲ開キ其學期中學術ノ進歩ヲ調査シ及ヒ第三學年學生ノ卒業當否ヲ議定シ卒業學生ノ伎倆證明書ヲ作ル此證明書ニハ當該教官署名捺印スヘシ

校長ハ伎倆證明書ニ其職務ニ適任ナル意見ヲ與書シ署名捺印シテ之ヲ參謀總長ニ呈ス(二十一年勅令第三十四號ヲ以テ本項ヲ改正シ二十二年勅令第二十七號ヲ以テ字句ヲ改正ス)參謀總長伎倆證明書ヲ受クレハ尙校長ノ意見ト本人ノ伎倆トヲ審案シ以テ參謀官高等官衛副官教官等ニ適任ト認ムル者ハ其證明書ニ與書シ署名捺印ス(二十一年勅令第三十四號ヲ以テ本項ヲ改正シ二十二年勅令第二十七號ヲ以テ字句ヲ改正ス)伎倆證明書ハ參謀總長之ヲ格納シ高等官衛副官及ヒ教官適任者ノ伎倆證明書ハ其寫ヲ陸軍大臣ニ移牒ス(二十一年勅令第三十四號ヲ以テ本項ヲ修正シ二十二年勅令第二十七號ヲ以テ字句ヲ修正ス)

第二十六條 卒業者ニハ卒業證書及ヒ之ヲ表章スル徽章ヲ付與ス此徽章ハ定規ノ服裝ニ於テ上衣右乳部ノ下方ニ附着セシム

第二十七條 學生卒業ノ上ハ隊附ノ者ハ必ス原隊ニ復歸セシム其隊

外ノ者ハ直ニ隊附職務ヲ命シ共ニ一箇年以上隊附職務ニ服セシム
(名簿並證明書書式略之)

○陸軍省官制明治二十年五月
勅令第十九號

朕陸軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍省官制

第一條 陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部
ヲ監督ス

第二條 陸軍省職員ハ武官ヲ以テ之ニ補ス其文官ヲ任用スルトキハ
各省官制通則ニ依ル

第三條 陸軍大臣官房ニ秘書官四人ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外傳
令便二人ヲ置ク

第四條 陸軍省總務局及各局中各課ニ課員若干員ヲ置キ課務ヲ掌ラ
シム課員ニ限リ文官ヲ以テ之ニ任スルコトヲ得ス

第五條 陸軍省總務局ニ書記官ヲ置カス武官ヲ以テ各課長ニ補シ別
ニ傳令使一人理事事二人ヲ置ク

第六條 陸軍省總務局ハ通則ニ依ラス第一課第二課第三課人事課制
規課及獸醫課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第七條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、 本省ニ到達スル公文書ノ接受開封記簿及送達ノ事項

二、 諸文書ノ起案審査其他省院廳府縣及陸軍諸官廳等ヘノ往
復ニ關スル事項

三、 文官名簿編纂ノ事

四、 判任官以下文官選舉ニ關スル事項

五、 退職罷役共ニ後備軍
ニアラサル者ノ上長官士官名簿調査ニ關スル
事項

- 六、滿期下士ノ文官請願ニ關スル事項
- 七、人民ノ請願ニ關スル事項
- 八、建白書並諸獻納願書ニ關スル事項
- 九、省内電信取扱所ノ管理ニ關スル事項
- 十、官報ニ關スル事項
- 十一、驛遞飛信送達取扱ノ事
- 十二、新聞紙發兌ノ諸社ト通報ノ事
- 十三、諸報告並統計ニ關スル事項
- 十四、陸軍諸官廨ノ報告調査ニ關スル事項
- 十五、記室ノ管理並書類出納ニ關スル事項
- 十六、諸公文書ノ聚輯保存ノ事
- 十七、日記類聚編纂ニ關スル事項
- 十八、徵發物件一覽表調査ニ關スル事項
- 十九、靖國神社及遊就館ニ關スル事項

- 二十、服忌ニ關スル事項
 - 二十一、陸軍埋葬ニ關スル事項
- 第八條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、徵兵一切ノ制規ニ關スル起案及其徵集ニ關スル事項
 - 二、豫備兵及後備兵ニ關スル制規調査ノ事項
 - 三、近衛入兵ニ關スル事項
 - 四、徵集猶豫ノ許可免役歸休轉役等ニ關スル事項
 - 五、豫備兵後備兵復習ニ關スル事項
 - 六、豫備兵後備兵並國民軍人員調査ニ關スル事項
 - 七、補充兵並豫備徵兵人員調査ニ關スル事項
 - 八、再役兵ニ關スル事項
 - 九、廢兵ニ關スル事項
 - 十、志願兵ニ關スル事項
 - 十一、徵兵並豫備兵後備兵召集費用調査ニ關スル事項

- 十二、 憲兵歩兵屯田兵人員調査並其將校名簿調整ニ關スル事項
- 十三、 豫備役及後備軍驅員憲兵歩兵名簿編纂ニ關スル事項
- 第九條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、 軍隊ノ建制及編制ニ關スル事項
 - 二、 出師準備ニ關スル事項
 - 三、 檢閲ニ關スル事項
 - 四、 要塞衛戍其他軍隊ノ勤務及内務ニ關スル事項
 - 五、 軍隊教育及諸演習ニ關スル事項
 - 六、 軍隊ノ儀式及陸軍禮式ニ關スル事項
 - 七、 軍人服制及陸軍徽章ニ關スル事項
 - 八、 一般ノ儀式禮典並鹵簿ニ關スル事項
 - 九、 憲兵歩兵屯田兵ニ關スル事項
 - 十、 陸軍諸學校及教導團ニ關スル事項
 - 十一、 武學生ニ關スル事項

- 十二、 海外留學生ニ關スル事項
- 十三、 陸軍諸生徒武學生ヲ除クノ制規及教則ニ關スル事項
- 十四、 雇外國教師ニ關スル事項
- 十五、 外國語通辯ノ事
- 十六、 外國文書翻譯ノ事
- 十七、 省中備附ノ洋書譯書管守ニ關スル事項
- 十八、 軍樂隊ニ關スル事項並其人員名簿調整ニ關スル事項
- 第十條 人事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、 上長官士官下士ノ人事ニ關スル事項
 - 二、 待命及非職ノ上長官士官ノ人事ニ關スル事項
 - 三、 人事ニ關スル公文書ノ接受開封記簿等ニ關スル事項
 - 四、 拔擢名簿候補名簿ニ關スル事項
 - 五、 決定候補名簿ニ關スル事項
 - 六、 上長官士官補職命課訓條並特達辭令及判任以下任免辭令

- 喚狀ニ關スル事項
- 七、士官下士轉科ニ關スル事項
- 八、出師名簿編纂ニ關スル事項
- 九、將官名簿編纂ニ關スル事項
- 十、陸軍職員錄調整ノ事
- 十一、刑法治罪法監獄則懲罰令ニ關スル事項
- 十二、陸軍軍法會議ノ裁判及其事務ノ監查ニ關スル事項
- 十三、陸軍軍法會議ノ諸員及其名簿調査ニ關スル事項
- 十四、陸軍警察規則ニ關スル事項
- 十五、軍法會議及普通裁判所ノ處分ヲ受ケタル者ニ關スル事項
- 十六、民事ノ詞訟ニ關スル事項
- 十七、懲治隊ニ關スル事項
- 十八、俘虜ニ關スル事項
- 十九、軍人軍屬勳功調査ニ關スル事項

- 二十、叙勳及從軍記章ニ關スル事項
- 二十一、勳章並從軍記章授與式ニ關スル事項
- 二十二、帶勳軍人軍屬ノ名簿並從軍記章授與ノ名簿調整ニ關スル事項
- 二十三、軍人軍屬恩給並寡婦孤兒扶助料ニ關スル事項
- 二十四、軍人軍屬ノ褒賞ニ關スル事項
- 第十一條 制規課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、大臣又ハ總務局長ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ニ關スル事項
 - 二、法律勅令閣令省令訓令並諸達ニ係ル事項及各令ノ見解質議應答ニ關スル事項
- 第十二條 獸醫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、近衛「鎮臺」獸醫部ニ關スル事項及官廨ニ屬スル獸醫務ニ關スル事項

- 二、 獸醫部人員ニ關スル事項
- 三、 獸醫部士官以上名簿調整ニ關スル事項
- 四、 獸醫部豫備役後備軍驅員及其名簿調整ニ關スル事項
- 五、 獸醫部出師準備ニ關スル事項
- 六、 獸醫官學術監査ニ關スル事項
- 七、 獸醫官學術上ノ景況調査ニ關スル事項
- 八、 獸醫部教育ニ關スル事項
- 九、 獸醫生徒ニ關スル事項
- 十、 馬療並ニ育養ニ關スル制規調査ニ關スル事項
- 十一、 獸類衛生上ノ調査ニ關スル事項
- 十二、 獸類衛生費ノ調査並獸醫事統計ニ關スル事項
- 十三、 病獸ニ關スル事項
- 十四、 藥物器械ノ良否及保存ノ適否検査ニ關スル事項
- 十五、 藥物器械ノ發明ニ關スル事項

- 十六、 軍馬ノ體格及診斷書ニ關スル事項
 - 十七、 斷訟紀事ニ關スル事項
 - 十八、 諸分析及理化學ニ關スル諸検査並紀事ニ關スル事項
 - 十九、 獸類傳染病並流行病ノ豫防及風土病ノ紀事ニ關スル事項
 - 二十、 治驗録ノ調整ニ關スル事項
- 第十三條 陸軍省中左ノ諸局ヲ置ク
- 騎兵局
 - 砲兵局
 - 工兵局
 - 會計局
 - 醫務局
- 第十四條 騎兵局ニ第一課及第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十五條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、 騎兵隊人員調査ニ關スル事項

- 二、 騎兵科將校名簿調整ニ關スル事項
- 三、 騎兵科豫備役後備軍驅員及其名簿調整ニ關スル事項
- 四、 騎兵ノ出師準備ニ關スル事項
- 五、 牧馬場ニ關スル事項
- 六、 馬政ニ關スル事項
- 七、 調馬隊及其人員調査ニ關スル事項
- 八、 調馬隊費用調査ニ關スル事項
- 九、 陸軍所用馬匹ノ支給並交換ニ關スル事項
- 十、 陸軍所用ノ馬匹牝騾其他駄馬ニ供スヘキ畜獸買入ニ關スル事項
- 十一、 陸軍將校乗用ノ馬匹拂下又ハ買上ニ關スル事項
- 十二、 蹄鐵學舎ニ關スル事項
- 十三、 蹄鐵工長以下並同生徒人員調査ニ關スル事項
- 第十六條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、 輜重兵隊並輜重輸卒ノ人員調査ニ關スル事項
- 二、 輜重兵科將校名簿調整ニ關スル事項
- 三、 輜重兵科豫備役及後備軍驅員ニ關スル事項並其名簿調整ニ關スル事項
- 四、 輜重ニ關スル出師準備ノ事項
- 五、 輜重ノ編制ニ關スル事項
- 六、 輜重車輛其他ノ器具製造及備付ニ關スル事項
- 七、 輜重ノ材料及器械ノ經費豫算ノ調査ニ關スル事項
- 八、 運輸船舶ニ關スル事項
- 九、 輜重兵隊駄駕車輛其他器具備付ニ關スル事項
- 第十七條 砲兵局ニ第一課及第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十八條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、 砲兵隊人員調査ニ關スル事項
- 二、 砲兵科將校名簿調整ニ關スル事項

- 三、 砲兵科豫備役及後備軍驅員ニ關スル事項並其名簿調整ニ關スル事項
 - 四、 砲兵ノ出師準備ニ關スル事項
 - 五、 砲兵諸工生徒ニ關スル事項及其人員調査ノ事項
 - 六、 砲兵會議ニ關スル事項
 - 七、 砲兵射的學校ニ關スル事項
- 第十九條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、 砲兵方面並砲兵工廠ニ關スル事項
 - 二、 砲工輜重ノ製造ニ關スル事項
 - 三、 要塞海岸各砲臺ノ砲煩兵器備付ニ關スル事項
 - 四、 諸兵隊ノ兵器備付ニ關スル事項
 - 五、 彈藥ノ支給輸送ニ關スル事項
 - 六、 陸軍所用ノ兵器馬具製造ニ關スル事項並經費豫算調査ニ關スル事項

- 七、 軍旗並其他陸軍旗號製造ニ關スル事項
 - 八、 砲兵所用廨舎ノ創建修理並經費豫算調査ニ關スル事項
 - 九、 砲兵所屬ノ土地家屋受領交換ニ關スル事項
- 第二十條 工兵局ニ第一課及第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二十一條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、 工兵隊人員調査ニ關スル事項
 - 二、 工兵科將校名簿調整ニ關スル事項
 - 三、 工兵料豫備役後備軍驅員及其名簿調整ニ關スル事項
 - 四、 工兵ノ出師準備ニ關スル事項
 - 五、 工兵會議ニ關スル事項
- 第二十二條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、 工兵方面ニ關スル事項
 - 二、 陸軍諸建築方案並圖面等調査ニ關スル事項
 - 三、 陸軍諸工作ノ製圖ニ關スル事項

- 四、 工兵所屬ノ土地家屋其他ノ建築物授受交換ニ關スル事項
 - 五、 諸工業材料ノ經費豫算調査ニ關スル事項
 - 六、 歩兵工兵ニ屬スル工具及工兵科ノ器械材料調査及其經費豫算調査ニ關スル事項
 - 七、 城堡要塞圖誌調査並諸地圖工具圖及圖誌庫管理ニ關スル事項
- 第二十三條 會計局ハ通則ニ依ラス第一課第二課第三課及第四課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二十四條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、 監督部軍吏部人員ニ關スル事項
 - 二、 監督部軍吏部名簿調整ニ關スル事項
 - 三、 監督部後備軍驅員及軍吏部豫備役後備軍驅員及其名簿調整ニ關スル事項
 - 四、 諸定額ニ關スル事項

- 五、 金錢給與ニ關スル事項
 - 六、 支出額仕譯書調整ニ關スル事項
 - 七、 監督部軍吏部ノ檢閱ニ關スル事項
 - 八、 出師準備ニ關スル費額調査ニ關スル事項
 - 九、 本課ノ收支命令ニ關スル事項
 - 十、 中央司契部金櫃審查ニ關スル事項
 - 十一、 中央司契部ノ決算帳檢査ニ關スル事項
 - 十二、 出納報告書檢査ニ關スル事項
 - 十三、 決算報告ニ關スル事項
 - 十四、 簿記證書ノ様式調査ニ關スル事項
- 第二十五條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、 糧食ノ豫算調査ニ關スル事項
 - 二、 糧食給與ニ關スル事項
 - 三、 馬飼料給與ニ關スル事項

- 四、 本課ノ收支命令ニ關スル事項
 - 五、 糧倉ノ管理ニ關スル事項
 - 六、 糧食ノ出師準備ニ關スル事項
 - 七、 要地ノ糧食準備ニ關スル事項
 - 八、 各地產出糧食品調査ニ關スル事項
 - 九、 戰時糧食品試驗ニ關スル事項
 - 十、 戰時糧食ノ器具調査ニ關スル事項
 - 十一、 軍吏部補員試驗ニ關スル事項
 - 十二、 軍吏學舍ニ關スル事項
 - 十三、 各國軍隊給養法調査ニ關スル事項
- 第二十六條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、 被服給與ニ關スル事項
 - 二、 被服豫算調査ニ關スル事項
 - 三、 被服定額表調整ニ關スル事項

- 四、 被服ノ出師準備ニ關スル事項
 - 五、 被服見本品調整ニ關スル事項
 - 六、 被服廠事務管理及検査ニ關スル事項
 - 七、 被服廠ニテ購買スヘキ被服品締約ニ關スル事項
 - 八、 被服廠ノ被服購買命令ニ關スル事項
 - 九、 被服金及被服廠經費收支命令ニ關スル事項
 - 十、 被服廠物品收支ノ決算書検査ニ關スル事項
 - 十一、 被服金及被服廠ニ關スル經費決算帳検査ニ關スル事項
- 第二十七條 第四課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、 陸軍用地ニ關スル事項
 - 二、 陸軍屯營家屋其他諸建物砲兵工兵科ニ屬スルモノヲ除クニ關スル事項
 - 三、 營繕費豫算調査ニ關スル事項
 - 四、 田畑償損ニ關スル事項
 - 五、 陣營具ニ關スル事項

- 六、 陣營具豫算調査ニ關スル事項
- 七、 各隊消耗品ニ關スル事項
- 八、 用度ニ關スル事項
- 第二十八條 醫務局ニ第一課第二課及第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二十九條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、 近衛「鎮臺」軍醫部官廨ノ醫務ニ關スル事項
 - 二、 軍醫部人員ニ關スル事項
 - 三、 軍醫部下士以上名簿調整ニ關スル事項
 - 四、 軍醫部豫備役後備軍驅員及其名簿調整ニ關スル事項
 - 五、 軍醫部ノ檢閲ニ關スル事項
 - 六、 軍醫部ノ出師準備ニ關スル事項
 - 七、 兵營病院囹圄等ニ關スル衛生事項
 - 八、 被服糧食飲水等ニ關スル衛生事項
 - 九、 軍人身材ノ調査並紀事ニ關スル事項

- 十、 各地ノ地質氣象ノ紀事並轉地療養上ノ調査及紀事ニ關スル事項
- 十一、 傳染病並流行病ノ豫防及風土病ノ紀事ニ關スル事項
- 十二、 衛生費ノ調査並醫事統計ニ關スル事項
- 十三、 軍醫藥學生徒ニ關スル事項
- 十四、 恩給並賑恤金ニ係ル診斷書調査ニ關スル事項
- 十五、 斷訟醫事ノ紀事ニ關スル事項
- 十六、 撰兵及其紀事ニ關スル事項
- 十七、 内外國恤兵諸會社ニ關スル事項
- 第三十條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、 軍醫官學術監査ニ關スル事項
 - 二、 軍醫官學術溫習指導ニ關スル事項
 - 三、 軍醫官學術上ノ景況調査ニ關スル事項
 - 四、 軍醫官藥學生徒教育ニ關スル事項
 - 五、 軍醫部下士卒教育ニ關スル事項

- 六、軍醫學舎ニ關スル事項
 - 七、軍陣醫事並雜誌ニ關スル事項
 - 八、軍陣醫學參考品ニ關スル事項
 - 九、醫學上ノ新發明紀事ニ關スル事項
 - 十、教育ニ關スル圖書調査ニ關スル事項
- 第三十一條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、藥劑ニ關スル事項
 - 二、藥物器械ノ良否及保存ノ適否検査ニ關スル事項
 - 三、藥物器械ノ新發明紀事ニ關スル事項
 - 四、理化學上ノ諸検査並紀事ニ關スル事項

○陸軍省法官部官制 明治二十一年十一月
勅令第十七號

朕陸軍省法官部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍省法官部官制

- 第一條 陸軍官中ニ法官部ヲ置ク
- 第二條 法官部ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 部長 一人 理事 勅任
 - 部員 三人 理事 奏任
 - 書記 若干人 錄事
- 第三條 部長ハ部中ノ事務ヲ總理シ各法官部及旅團出仕ノ理事錄事ヲ管轄ス
- 第四條 法官部ノ職員ハ高等軍法會議ノ事務ニ服ス
- 第五條 法官部ニ於テハ左ニ記載スル事務ヲ掌ル
 - 一 刑法治罪法其他法律ニ關スル事項
 - 二 懲罰令監獄則及監獄ニ關スル事項
 - 三 陸軍軍法會議ノ裁判及事務ノ監查ニ關スル事項

- 四 各法官部ノ諸員及其名簿調査ニ關スル事項
- 五 軍法會議及普通裁判所ノ處分ヲ受ケタル者ニ關スル事項

○ 陸地測量官官制 明治二十二年三月 勅令第三十四號

朕陸地測量官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量官官制

- 第一條 陸地測量ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸地測量官ヲ置ク
- 第二條 陸地測量官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ陸地測量部長ノ指揮監督ヲ承ク
- 第三條 陸地測量官ヲ分テ陸地測量師及陸地測量手トス
- 第四條 陸地測量師ハ奏任トシ陸地測量手ハ判任トス

○ 陸軍衛生會議條例 明治二十一年十二月 勅令第九十五號

朕陸軍衛生會議條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍衛生會議條例

- 第一條 陸軍衛生會議ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省醫務局長ニ隸シ陸軍ノ衛生事項ヲ議定スル所トス
- 第二條 會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長	軍醫監	一人
事務官	一等軍醫若クハ二等軍醫	二人
議員		若干人
- 第三條 議長事務官ハ各本職アル者ヲ以テ兼補ス
- 第四條 議員ハ衛生部上長官ニシテ本職アル者ヲ以テ兼補ス但第五條第二項ノ事ヲ議スルニ方リ醫務局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ

各兵科並ニ監督部獸醫部上長官或ハ陸軍教授陸軍技師ニ臨時議員
ヲ命セラレシムトテ陸軍大臣ニ具申シ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命ス臨
時議員ハ其議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第五條 議事ヲ別テ二種トス

一 衛生部内又ハ醫學的ニ關スル事項

二 軍部一般ニ涉ル衛生ノ事項

第六條 議長ハ議事ヲ整理シ會議諸般ノ事務ヲ總理ス

第七條 事務官ハ會議ニ關スル庶務ヲ分擔ス

第八條 議事ニ當リ議長不在ナルトキハ議員中衛生部上長官ニシテ

高級ノ者議長ノ代理ヲ爲スヘシ

第九條 議案ハ醫務局長ヨリ發スルモノ又ハ會議ノ立案ヨリ成ルモ

ノトス但會議ノ立案ニ係ルモノハ豫メ醫務局長ノ承認ヲ受クヘシ

第十條 凡ソ議事ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長

ノ決スル所ニ依ル

第十一條 議決ノ上ハ其議決書ヲ醫務局長ニ進達スルモノトス

第十二條 物件ノ試験又ハ摸範等製造ノ爲メ費用ヲ要スルトキハ其

理由ヲ悉シ豫算書ヲ添ヘテ醫務局長ニ具申スヘシ

第十三條 會議常用ノ諸物品ハ醫務局長ヨリ之ヲ支給ス

○

○陸軍軍醫學校條例明治二十一年十二月
勅令第九十七號

朕陸軍軍醫學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍醫學校條例

第一條 陸軍軍醫學校ハ在職醫官ヲ召集シ軍陣衛生事項ヲ實驗講究

セシメ並ニ醫官候補生藥劑官候補生ヲ養成スル所トス

第二條 本校ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省醫務局長ノ管理ニ屬ス

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 軍醫監

一人

教官 一等軍醫正若クハ二等軍醫正

三人

藥劑監若クハ一等藥劑官

一人兼職

一等軍醫

五人 内兼職 三人

監事

一人 之教官ヨリ 兼ス

第四條 校長ハ陸軍省醫務局長ニ隸シ教成ノ方法ヲ規畫シ軍紀風紀

ヲ維持シ所屬職員ヲ統督シ校中一般ノ事ヲ總理ス

第五條 校長ハ本校ノ官僚召集醫官及候補生ニ對シ懲罰權及休暇附

與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ

第六條 教官中高級ノ者ハ教務ヲ整理シ教場ノ秩序ヲ保存スルコト

ヲ掌ル校長不在ノトキハ其職務ヲ代理ス

第七條 高級教官ハ諸報告ヲ查閱シテ校長ニ呈シ其委任ノ事項ハ處

分シタル後校長ニ申報スルコトヲ得

第八條 教官ハ教授教育及試験ノ事ヲ掌ル

第九條 監事ハ召集醫官及候補生ノ勤怠容儀品行ヲ監督ス

第十條 第三條ニ掲クル職員ノ外屬若クハ下士若干員ヲ置キ文書ノ

受送試藥ノ出納等ニ從事セシム

第十一條 召集醫官ノ召集ハ陸軍省醫務局長其人員並召集時期ヲ定

メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 召集醫官ノ講究期ハ四箇月以内トシ毎年一回召集スルモ

ノトス

第十三條 召集醫官講究期終レハ校長ハ其成績ヲ醫務局長ニ具申シ

原所管ニ復歸セシム

第十四條 召集醫官ハ通學セシメ修學上所要ノ諸器械及書籍消耗品

ハ之ヲ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十五條 召集醫官ハ其名籍固ヨリ原所管ヲ離ル、コトナシト雖モ

召集中ハ本校ノ管轄ニ屬ス故ニ自己ノ願届等ハ總テ本校附官僚ニ

準シ又原所管ヨリ本人ニ達スヘキ諸件ハ必ス本校長ヲ經由スルモ

ノトス

第十六條 召集醫官ノ旅費ハ本校ニ於テ之ヲ給シ俸給諸給ハ本人ノ所屬部隊ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ本校ニ於テ之カ受授ヲ爲スモ
ノトス

第十七條 召集醫官入校中ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルコトヲ許
サス但疾病等ニテ修學講究ニ堪フル目的ナキ者ハ原所管ニ復歸セ
シムルコトアルヘシ

○ 陸軍重症病馬治療所官制 明治二十一年六月
勅令第五十號

朕陸軍重症病馬治療所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍重症病馬治療所官制

第一條 陸軍重症病馬治療所ハ東京ニ之ヲ置キ府下陸軍部内ノ重症

病馬ヲ治療スル所トス

第二條 陸軍重症病馬治療所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

一三等獸醫 三人

軍吏部下士 二人

第三條 所長ハ第一師團獸醫長ヨリ兼補シ陸軍省總務局獸醫課長ノ
管理ニ屬シ所務ヲ整理ス

第四條 一三等獸醫ハ所長ノ指揮ヲ承ケ病馬ノ治療其他ノ所務ヲ分
掌ス

一三等獸醫ハ一人ヲ本職トシ二人ヲ兼務トス

第五條 軍吏部下士ハ計算簿記ノ事ニ從フ

第六條 第二條ニ掲クル職員ノ外傭員若干ヲ置ク

○軍馬育成所官制 明治二十一年三月 勅令第十五號

朕軍馬育成所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍馬育成所官制

第一條 軍馬育成所ハ軍隊馬匹ノ補充ヲ目的トシ之ヲ育成セシムル所トス

第二條 軍馬育成所ノ名稱及位置左ノ如シ

- 一 三本木軍馬育成所 青森縣上北郡三本木
 - 二 鍛冶谷澤軍馬育成所 宮城縣玉造郡鍛冶谷澤
 - 三 青野軍馬育成所 兵庫縣加東郡青野原
 - 四 福元軍馬育成所 鹿兒島縣谿山郡福元
- 第三條 軍馬育成所ニ左ノ職員ヲ置ク
- 所長 騎兵大尉 一人
 - 監務 騎兵中尉若クハ少尉 一人

軍吏

一人

獸醫

一人

第四條 所長ハ陸軍省騎兵局長ニ隸シ所内ノ事務ヲ總理シ馬匹養成ノ責ニ任ス

第五條 所長ハ懲罰權及所附官僚ノ休暇付與權ヲ有スルコト大隊長ニ同シ

第六條 監務ハ所長ヲ補佐シ馬匹養成ノ事ヲ擔任ス

第七條 第三條ニ掲クル職員ノ外下士及陸軍屬ヲ置ク

○陸軍蹄鐵學舎條例 明治二十一年六月 勅令第四十二號

朕陸軍蹄鐵學舎條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍蹄鐵學舎條例

第一條 陸軍蹄鐵學舎ハ騎兵隊砲兵隊及輜重兵隊所要ノ蹄鐵工下長ヲ教成スル所トス

第二條 本舎ニ左ノ職員ヲ置ク

學舎長 騎兵大尉 一人

教官 騎兵中尉若クハ騎兵少尉 一人

二等獸醫若クハ三等獸醫 一人

軍吏 一人

第三條 學舎長ハ陸軍省騎兵局長ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第四條 學舎長ハ懲罰權及學舎附官僚ノ休暇附與權ヲ有スルコト大隊長ニ同シ

第五條 教官ハ學術ノ教授ヲ分擔ス

第六條 第二條ニ掲クル職員ノ外下士卒若干員ヲ置ク

第七條 學舎ニハ軍醫ヲ附セス在東京奉職ノ軍醫ヲシテ兼掌セシ

第八條 學生ノ修業期限ハ概ネ一箇年トス

第九條 學生ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ告達ス

第十條 近衛都督師團長前條ノ告達ヲ受ルトキハ部下ノ騎兵隊長砲

兵隊長及輜重兵隊長ヲシテ現役殘期一年三箇月以上アル蹄鐵工卒

中ノ志願者ニシテ身體強壯行狀方正勤務勉勵且其學術ニ適當ノ者

ヲ選定セシメ分遣前其名簿ヲ陸軍省騎兵局長ニ送達スヘシ

第十一條 學生ハ舍内ニ居住セシメ所要ノ書籍消耗品等ハ學舎ニ於

テ貸與又ハ支給ス

旅費ハ學舎ニ於テ支給シ被服食料ハ原隊ヨリ支給シ雜具ハ學舎ニ

於テ貸與ス且其俸給ハ前月中ニ原隊ヨリ學舎ニ交付シ學舎ニ於テ

之カ授受ヲナスモノトス

第十二條 學生ノ願届其他業務ニ關スル件ハ總テ學舎長ノ管理ニ屬ス

第十三條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退舍ヲ許サス但疾病其他ノ事故ヲ以テ卒業ノ目途ナキ者ハ退舍歸隊ヲ命シ前役(入舍中ノ時)ヲ通算シ現役ニ服セシム

第十四條 卒業ノ士卒ハ原隊ニ復歸シ更ニ三箇年間現役ニ服セシム其役終ルノ後五箇年間後備役ニ服セシム
卒業ノ士卒ハ該隊ニ於テ缺員アル毎ニ蹄鐵工下長ニ任ス

○

○千住製絨所官制 明治二十一年七月 勅令第五十二號

朕千住製絨所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

千住製絨所官制

第一條 千住製絨所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所用ノ絨類製造ノ事ヲ掌ル

第二條 製絨所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

所長

次長

技術官

屬

第三條 所長ハ一人奏任自一至三等トス陸軍大臣ノ指揮監督ヲ受ケ所中全部ノ事務ヲ掌理ス

第四條 次長ハ一人奏任四等以下トシ所長ノ事務ヲ佐ク

第五條 技術官ハ所長ノ指揮監督ヲ受ケ工事ヲ分掌ス

第六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○千住製絨所長服務規程 二十一年七月 陸令第五百十四號
千住製絨所長服務規程別紙ノ通定ム

千住製絨所長服務規程

第一條 千住製絨所長ハ陸軍所用ノ絨類製造ノ事ヲ掌トリ尙ホ餘力ヲ以テ他ノ官衙或ハ人民需用ノ絨類ヲモ製造セシムルモ

- ノトス
- 第二條 製絨ノ事業ハ益精良ニ至ラシメ軍用ノ地質ハ特ニ堅固ナルヲ目的トス可シ
- 第三條 千住製絨所ノ經費ハ一切作業費出納條例ニ據リ施行ス可シ
- 第四條 家屋倉庫ノ新築増築及ヒ器械ノ新調等ハ其方案ヲ具シ陸軍大臣ノ許可ヲ得タル後事ニ從フ可シ但新築増築ニ係ル工事竣ル時ハ履歴表並ニ之ニ屬スル圖面ヲ添へ陸軍大臣ニ上申スヘシ
- 第五條 總テ不用ニ屬シタル家屋物品等賣却スルニ該リ一ト廉五十圓ヲ超ユルトキハ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ後行フ可シ
- 第六條 左ニ掲クル諸項ハ所長之ヲ專行スルコトヲ得
 - 一 俸給其他成規アル收支
 - 二 製絨用品及ヒ製造品ノ賣買並廳中需用品ノ買辨
 - 三 豫算額内ヲ以テ家屋倉庫ノ修繕及ヒ器械ノ缺損ヲ補ヒ又ハ其修繕
 - 四 不用品ニシテ一ト廉五十圓以下ノ物品及ヒ廢品ノ賣却
 - 五 所員ニ事務ノ命課
 - 六 備員ノ罷免
 - 七 巡視小使給仕定詰夫定員内備人及ヒ解備
 - 八 巡視小使給仕定詰夫懲戒
 - 九 事業上業務ノ爲メ所員ヲ横濱其他近傍へ差遣

- 十 主管ノ事務ニ關シ他ノ官署ニ文書往復
- 十一 備夫職工等負傷者手當金扶助料及ヒ埋葬料成規ニ據リ給與
- 十二 所管ノ備品ヲ内國博覽會共進會等へ出品及ヒ貸與

○臨時砲臺建築部官制 明治十九年十一月 勅令第七十六號

朕臨時砲臺建築部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時砲臺建築部官制

第一條 臨時砲臺建築部ハ東京ニ置キ陸軍省ニ隸シ全國樞要ノ地ニ砲臺ヲ建築スルコトヲ掌ル

第二條 臨時砲臺建築部ニ左ノ職員ヲ置ク

- 部長 一人
- 事務官 若干員
- 技師 若干員

技手

若干員

書記

若干員

第三條 部長ハ陸軍將官ヲ以テ之ニ充テ事務官ハ陸軍上長官士官書記ハ陸軍下士屬ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 部長ハ砲臺建築ノ事務ヲ總理ス

第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ承ケ其事ニ從ヒ書記ハ事務官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 技師技手ハ技術上ノ事ニ任シ又各部ノ工事ニ從事ス

第七條 建設砲臺ノ位置并其制式兵備ノ要領等ヲ陸軍大臣「參謀本部長」協議決定ノ後之ヲ建築部ニ下シ工事ニ從事セシム

第八條 陸軍工兵方面ハ砲臺建築ノ工事ニ就テハ建築部ニ從屬シテ部長ノ指揮ヲ承クルモノトス

第九條 砲臺建築ノ事ニ係リ地方廳其他ニ往復スルハ建築部長ノ名ヲ以テス可シ

二十一年五月陸軍省令第十號ヲ以テ參謀官制制定ニ付參謀本部長トアルハ總テ參謀ト改正セララルノ旨ヲ示ス

○監軍部條例 明治二十年五月勅令第十八號

朕監軍部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監軍部條例

第一條 監軍部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍軍隊練成ノ齊一ヲ規畫セシム

第二條 監軍部ニ監軍一人ヲ置キ大將若クハ中將ヲ以テ之ニ任シ直ニ

天皇陛下ニ隸ス

第三條 監軍部ニ幕僚ヲ置キ幕僚ヲ參謀部及副官部ニ分ツ

第四條 幕僚ニ參謀長一人ヲ置キ少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ補ス

第五條 參謀部ニ少佐大尉各一人副官部ニ少佐大尉各一人ヲ置キ其

下ニ書記五人ヲ附ス

第六條 監軍ノ下ニ將校學校監一人ヲ置キ少將ヲ以テ之ニ補シ騎兵監一人ヲ置キ少將若クハ騎兵大佐ヲ以テ之ニ補シ砲兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監一人ヲ置キ輜重兵中佐ヲ以テ之ニ補ス

第七條 將校學校監ノ下ニ副官二人ヲ置キ中少佐及大尉ヲ以テ之ニ補シ騎兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ騎兵少佐及騎兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ砲兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ砲兵少佐及砲兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ砲兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ工兵少佐及工兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ輜重兵大中尉ヲ以テ之ニ補ス

第八條 將校學校監ハ諸將校學校ノ教育ヲ統轄シ士官學校及幼年學校ヲ管轄ス但陸軍大學校ハ當分ノ内參謀本部ノ管轄ニ屬ス

第九條 戸山學校及教導團ハ直ニ監軍ノ管轄ニ屬ス

第十條 騎兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍乘馬學校ヲ管轄ス(二十一年勅令第三十六號ヲ以テ改正)

第十一條 砲兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ砲兵會議砲兵射的學校ヲ管轄ス

第十二條 工兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ工兵會議ヲ管轄ス

第十三條 輜重兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌ル

第十四條 監軍ハ勅ヲ奉シ檢閱使ト爲リ軍隊ノ檢閱ヲ行フ其法陸軍檢閱條例ニ詳悉ス

○陸軍將校生徒試験委員條例 明治二十年十二月 勅令第八十一號
朕陸軍將校生徒試験委員條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍將校生徒試験委員條例

- 第一條 試驗委員ハ士官學校生徒ノ將校試驗幼年學校生徒ノ終末試驗、士官候補生幼年學校生徒志願者ノ試驗及ヒ一年志願兵志願者ノ學術試験ヲ行フモノニシテ將校學校監ニ隸ス(二十二年勅令第三十一號ヲ以テ改正)
- 第二條 試驗委員ヲ常置スルコト左ノ如シ
委員長 大佐 一名
委員 中少佐 八名 大尉 九名
- 第三條 將校學校監ハ委員ヲシテ各種ノ試験ヲ分擔セシメ委員長ヲシテ之ヲ統監セシム
- 第四條 前條ニ掲クル委員ノ外所要ニ應ジ臨時委員ヲ命ジ委員長ノ下ニ屬セシム
- 第五條 各種試験ノ時期ニ際シ書記トシテ下士若クハ陸軍屬若干名

ヲ試験委員ノ下ニ屬ス

第六條 委員長以下總テ他ニ本職アル者ヲ以テ之ニ兼補スルモノトス

○陸軍士官學校官制 明治二十年六月 勅令第二十五號

朕陸軍士官學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍士官學校官制

- 第一條 陸軍士官學校ハ各兵科ノ士官トナルヘキ候補生ヲ教成スル所トス
- 第二條 陸軍士官學校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長 大佐
次長 中佐若クハ少佐

副官 大尉及中尉
 教官
 中隊長
 中隊附士官
 軍吏
 軍醫
 獸醫

第三條 校長ハ將校學校監ニ隸シ校務ヲ總理ス
 第四條 校長ハ聯隊長ト同一ノ懲罰權ヲ有ス
 第五條 第二條ニ掲クル職員ノ外下士卒若干員ヲ置ク

○陸軍幼年學校官制 明治二十年六月
勅令第二十六號

朕陸軍幼年學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍幼年學校官制

第一條 陸軍幼年學校ハ各兵科ノ士官候補生トナルヘキモノヲ養成
 スル所トス

第二條 陸軍幼年學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長 中佐若クハ少佐
 副官 大尉及中尉
 中隊長
 中隊附士官
 軍吏
 軍醫
 獸醫
 教官

第三條 校長ハ將校學校監ニ隸シ校務ヲ總理ス

第四條 校長ハ聯隊長ト同一ノ懲罰權ヲ有ス
第五條 第二條ニ掲クル職員ノ外下士卒若干員ヲ置ク

○陸軍戸山學校條例 明治二十年十月
勅令第五十四號

朕陸軍戸山學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍戸山學校條例

第一條 陸軍戸山學校ハ隊附將校下士ヲ分遣シ學生ト爲シ步兵戰術射擊體操並ニ劍術ノ原理ヲ研究セシメ且其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ常ニ内外戰術進歩ノ形況ヲ知悉シ步兵ノ教育一般ノ改良ヲ圖ルヲ目的トスル所トス

第二條 本校ニ戰術科學生射擊科學生體操科學生及教導大隊ヲ置ク

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(二十一年勅令第五號)ヲ以テ各項共改正

校長 步兵大佐 一人

次長 步兵中佐若クハ少佐 一人

副官 步兵大尉一人 步兵中尉 一人

教官 步兵少佐三人 步兵大尉十二人 (二十二年勅令第二十號ヲ以テ步兵中尉十二人一等軍醫一人ヲ少佐大尉ノ人員ヲ改ム)

軍吏 二人

軍醫 三人

第四條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第五條 校長ハ懲罰權並ニ校附官僚學生ノ休暇付與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ

第六條 次長ハ校長ヲ補佐シ專ラ教育ノ事ニ任シ兼テ校中ノ庶務及經理事務ヲ監視ス

第七條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬ヲ置ク

第八條 教官ハ各科ノ教授ヲ分擔シ教導大隊ノコトヲ兼攝ス

第九條 各科教官中高級ノ者一名ヲ其科長ト爲ス

第十條 教導大隊ノ大隊長ハ戰術科科長大隊附中隊長及中隊附士官ハ教官ヲ以テ之ヲ兼ネシム但學生ヲ以テ其幹部ノ一部ニ充ツルコトアルヘシ

第十一條 教官ノ下ニ教官補曹長(准士官)及助教曹長一等軍曹二等軍曹若干員ヲ置ク

第十二條 軍吏ノ下ニ書記及卒若干員軍醫ノ下ニ看護長及卒若干員ヲ置ク

第十三條 戰術科ハ步兵戰術活用上ノ教育ヲ完全ナラシムルヲ目的トシ步兵各聯隊ノ中尉ヲ以テ其學生ト爲ス但時宜ニ依リ步兵少佐若クハ大尉及工兵士官ヲ以テ其學生ト爲スコトアルヘシ

第十四條 射擊科ハ射擊教官ヲ育成スルヲ目的トシ步兵中少尉及下士ニシテ其學術ニ適當ト認ムル者ヲ選抜シテ其學生ト爲ス

第十五條 體操科ハ體操及劍術教官ヲ育成スルヲ目的トシ步騎砲工輜重兵科ノ少尉及下士ニシテ體格學術共ニ之ニ適當ト認ムル者ヲ

選抜シテ其學生ト爲ス

第十六條 教導大隊ハ學生訓練ノ用ニ供スルモノトス其下士兵卒ハ步兵各聯隊ヨリ之ヲ分遣セシム

第十七條 戰術科學生射擊科學生及體操科學生ノ學期ハ一年ヲ二期ニ分チ其第一期ハ概ネ九月ニ始リ一月ニ終リ其第二期ハ概ネ二月ニ始リ六月ニ終ルモノトス

劍術學生ノ學期ハ概ネ九月ニ始リ六月ニ終ルモノトス

第十八條 各科學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十九條 學生分遣ノ告達アレハ近衛都督鎮臺司令官ハ部下ノ聯隊長獨立大隊ナレハ大隊長獨立中隊ナレハ中隊長ヲシテ士官下士中身體強壯行狀方正勤務勉勵ノ者ニシテ第十三條乃至第十五條ノ目的ニ適スヘキ者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前途ニ其名簿ニ考科表ヲ添ヘ戸山學校長ニ送達スヘシ

第二十條 學生士官ハ校外ニ其下士ハ校内ニ居住セシム

學生所要ノ兵器書籍器具消耗品ハ貸與スルモノアリ又支給スルモノアリ

其下士ニ在テハ雜具ヲ貸與シ食料ハ原隊ヨリ之ヲ支給セシム

學生ノ旅費ハ士官下士ヲ論セス總テ本校ニ於テ之ヲ支給ス

第二十一條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第二十二條 學生ノ俸給ハ原隊ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受授ヲ爲スモノトス

第二十三條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ヲ以テ卒業ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ例外トス

第二十四條 學生士官ノ乘馬演習ハ調馬隊ニ於テ之ヲ行ハシム

第二十五條 各學期ノ終リニ於テハ學生ニ大試験ヲ施シ以テ其列序ヲ定メ卒業證書ヲ付與シテ歸隊セシム但優等者ニハ別ニ賞狀若ク

ハ賞品ヲ與フルコトアルヘシ

第二十六條 學生下士ノ中學術優等ノ者ヲ選抜シテ員外助教ヲ命シ學生下士ノ教授ヲ補助セシメ之ニ若干ノ增俸ヲ給シ校内ニ居住セシム

員外助教ノ命ヲ受ケタル者ハ每學期ノ終リニ於テ其半数ノミ歸隊セシム

第二十七條 教導大隊ノ下士及兵卒ハ六月若クハ七月ニ於テ其一半ヲ歸隊セシメ十一月ニ於テ之ヲ補充ス

第二十八條 教導大隊ノ下士ハ常備服役尙ホ二箇年以上ノ期アル一二等軍曹ニシテ勤務勉勵身體強壯行狀方正學術優等ノ者ヲ選抜分遣セシム而シテ教導大隊ニ於テ應分ノ教育ヲ受ケ原隊ニ復歸ノ後其教育ヲ隊中ニ及ホスヘキ見込アルモノタルヘシ

第二十九條 教導大隊ノ兵卒ハ常備服役尙ホ一年九箇月ノ期アル上等兵及一二等卒ニシテ勤務勉勵行狀方正身體強壯ノ者ヲ選抜分遣

セシム

第三十條 教導大隊ノ下士兵卒ハ學生分遣中ニ於テハ歸省休暇等一切之ヲ許サス

第三十一條 教導大隊ノ下士兵卒ハ教導大隊ニ編入スト雖モ名籍ハ原隊ニ之ヲ存シ隨テ諸給與ハ原隊ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨シ且武器背囊ハ之ヲ携帶セシムヘシ其旅費消耗品ハ本校ニ於テ之ヲ支給ス
第三十二條 教導大隊ノ下士兵卒ノ被服ニハ本校ノ經費ヲ以テ特別ノ徽章ヲ附着ス

第三十三條 教導大隊ノ内務ハ概ネ歩兵内務書ニ據リ施行スヘシ

○陸軍乘馬學校條例 明治二十一年三月 勅令第十三號

朕陸軍乘馬學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍乘馬學校條例

第一條 陸軍乘馬學校ハ騎兵隊ノ士官下士ヲ分遣シテ學生トナシ本科專門ノ馬術ヲ訓練シ馬學ヲ習修セシムル所トス

第二條 本校ニ厩ヲ置キ所要ノ馬匹ヲ備フ

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 騎兵大中佐一人

副官 騎兵大中尉一人

教官 騎兵少佐一人 騎兵大尉二人 騎兵中尉四人
一等獸醫一人 二等獸醫一人

厩長 騎兵大尉一人

調馬手長 騎兵中少尉二人

軍吏 一人

軍醫 一人

獸醫 二人

第四條 校長ハ騎兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

- 第五條 校長ハ懲罰權並ニ校附官僚學生ノ休暇付與權ヲ有スルコト
聯隊長ニ同シ
- 第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士若干員ヲ置ク
- 第七條 教官ハ學術ノ教授ヲ分擔ス
- 第八條 教官ノ下ニ助教ヲ置キ騎兵曹長同一等軍曹同一等軍曹若干
員ヲ以テ之ニ充ツ
- 第九條 厩長ハ馬匹ノ調教其他校既一切ノ事ヲ統轄ス
- 第十條 調馬手長ハ厩長ニ隸シ馬匹ノ調教ニ任シ其下ニ調馬手ヲ置
キ騎兵曹長同一等軍曹同一等軍曹陸軍屬若干員ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十一條 軍吏ノ下ニ書記若干員軍醫ノ下ニ看護長及看護卒若干員
ヲ置ク
- 第十二條 學期ハ毎年概ネ二月ニ始リ十一月ニ終ルモノトス
- 第十三條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十四條 學生分遣ノ告達アレハ近衛都督鎮臺司令官ハ部下ノ騎兵

- 大隊長ヲシテ士官下士中身體強壯行狀方正勤務勉勵ノ者ヲ選定セ
シメ而シテ入校期十日前ニ其名簿ニ考科表ヲ添ヘ乘馬學校長ニ送
達スヘシ
- 第十五條 第一條ニ掲クル學生ノ外時宜ニ依リ官廨附騎兵科士官下
士及砲兵隊輜重兵隊ノ士官ヲ分遣シテ學生トナスコトアルヘシ
- 第十六條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ
屬ス
- 第十七條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ
事故ニ依リ卒業ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ此限ニアラス
- 第十八條 學期ノ終リニ於テ學生ニ大試験ヲ施行シ以テ其列序ヲ定
メ卒業證書ヲ付與シ歸隊セシム但優等ノ者ニハ別ニ褒賞ヲ與フル
コトアルヘシ
- 第十九條 學生ノ中學術優等ノ者若干員ヲ選拔シ次ノ學期ノ終リ迄
修學セシムルコトアルヘシ

第二十條 學生士官ハ校外ニ其下士ハ校内ニ居住セシム
第二十一條 學生所要ノ兵器馬匹馬具書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第二十二條 學生ノ俸給ハ原所管ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受授ヲ爲スモノトス

第二十三條 學生ノ旅費ハ士官下士ヲ論セス總テ本校ニ於テ之ヲ支給ス

第二十四條 學生下士ニ在テハ雜具ヲ貸與シ被服食料ハ原所管ヨリ之ヲ支給ス

○砲兵會議條例明治三十一年五月
勅令第三十八號

朕砲兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砲兵會議條例

第一條 砲兵會議ハ砲兵監ニ隸シ武器彈藥裝具材料器械及其用法ヲ調査議定シ且常ニ外國砲兵ノ事項ヲ研究スル所トス

第二條 會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長 砲兵大佐 一

事務官 砲兵少佐 二 砲兵大中尉 五

第三條 議長ハ會議諸般ノ事務ヲ總理シ議事ヲ整理シ而シテ其管掌ノ事ニ就テハ監ニ對シ擔保ノ責ニ任ス

第四條 事務官ハ考案ノ起草物件ノ試験ニ從事シ且經理及庶務ヲ分擔セシム

第五條 事務官ノ下ニ砲兵上等監護、砲兵監護、砲兵科諸工長及屬若干名ヲ置ク

第六條 會議ニ議員ヲ置キ之ヲ分ツテ一部ト爲ス

第七條 第一部議員ハ砲兵科佐官ヲ以テ之ニ補ス

但此議員ハ本職アル者ヲ以テ兼補スルモノトス

第八條 第二部議員ハ議事上要スルニ方リ各本職アル參謀官諸兵科監督部軍醫部獸醫部ノ上長官並ニ陸軍技師ヲ以テ之ニ補ス

但此議員ハ其議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第九條 議事ニ當リ議長不在ナルトキハ其議席ニ限り當該議員中高級ノ者議長ノ代理ヲ爲スヘシ

第十條 凡ソ會議ノ議題ハ砲兵監ヨリ下付スルモノ或ハ會議ノ立案ヨリ成ルモノトス

第十一條 議題ハ事ノ性質ニ因リ陸軍大臣或ハ參軍又ハ監軍ヨリ發スルモノニシテ各其出ダス所ヲ異ニスト雖モ之ヲ下付スルノ順序ハ陸軍大臣參軍ハ監軍ニ移シ監軍ハ監ニ付シ監之ヲ議長ニ下ス

第十二條 試験ノ爲メ材料職工又ハ模範等ノ製造ヲ要スルトキハ議長直接ニ砲兵工廠提理ニ就キ之ヲ求ムルコトヲ得但該費用ハ會議ヨリ辨償スルモノトス

第十三條 物件ノ試験又ハ模範等ヲ製造スル爲メ別途費用ヲ要スルトキハ其理由ヲ悉シ費用ノ豫算ヲ添ヘテ之ヲ監ニ具申スヘシ

第十四條 物件試験等ノ爲メ兵隊若クハ人馬ヲ要スルトキハ其理由ヲ悉シテ之ヲ監ニ具申スヘシ

第十五條 試験ノ事ニ就キ砲兵射的學校教導中隊ヲ要スルトキハ議長直接ニ校長ト協議シ之ヲ使用スルコトヲ得

○工兵會議條例 明治二十一年五月 勅令第三十九號

朕工兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工兵會議條例

第一條 工兵會議ハ工兵監ニ隸シ工具裝具材料器械及其用法並ニ築城ニ係ハル事項ヲ調査議定シ且常ニ外國工兵ノ事項ヲ研究スル所

トス

第二條 會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長 工兵大佐 一

事務官 工兵少佐 二 工兵大中尉 四

第三條 議長ハ會議諸般ノ事務ヲ總理シ議事ヲ整理シ而シテ其管掌ノ事ニ就テハ監ニ對シ擔保ノ責ニ任ス

第四條 事務官ハ考案ノ起草物件ノ試験ニ從事シ且經理及庶務ヲ分擔セシム

第五條 事務官ノ下ニ工兵上等監護、工兵監護、工兵曹長、工兵軍曹及屬若干名ヲ置ク

第六條 會議ニ議員ヲ置キ之ヲ分ツテ二部ト爲ス

第七條 第一部議員ハ工兵科佐官ヲ以テ之ニ補ス

但此議員ハ本職アル者ヲ以テ兼補スルモノトス

第八條 第二部議員ハ議事上要スルニ方リ各本職アル參謀官諸兵科

監督部軍醫部獸醫部ノ上長官並ニ陸軍技師ヲ以テ之ニ補ス

但此議員ハ其議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第九條 議事ニ當リ議長不在ナルトキハ其議席ニ限り當該議員中高級ノ者議長ノ代理ヲ爲スヘシ

第十條 凡ソ會議ノ議題ハ工兵監ヨリ下付スルモノ或ハ會議ノ立案ヨリ成ルモノトス

第十一條 議題ハ事ノ性質ニ因リ陸軍大臣或ハ參軍又ハ監軍ヨリ發スルモノニシテ各其出タス所ヲ異ニスト雖モ之ヲ下付スルノ順序ハ陸軍大臣參軍ハ監軍ニ移シ監軍ハ監ニ付シ監之ヲ議長ニ下ス

第十二條 試験ノ爲ノ材料職工又ハ模範等ノ製造ヲ要スルトキハ議長直接ニ工兵方面提理ニ就キ之ヲ求ムルコトヲ得但該費用ハ會議ヨリ辨償スルモノトス

第十三條 物件ノ試験又ハ模範等ヲ製造スル爲メ別途費用ヲ要スルトキハ其理由ヲ悉シ費用ノ豫算ヲ添ヘテ之ヲ監ニ具申スヘシ

第十四條 物件試驗等ノ爲メ兵隊若クハ人馬ヲ要スルトキハ其理由ヲ悉シテ之ヲ監ニ具申スヘシ

○陸軍砲兵射的學校條例 明治二十年十二月 勅令第七十一號

朕陸軍砲兵射的學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵射的學校條例

第一條 陸軍砲兵射的學校ハ砲兵隊ノ大中尉及下士ヲ分遣シテ學生トナシ射擊術及砲兵用法ヲ訓練シ且其演習ニ關スル教則ヲ一定セラシメ砲兵ノ射擊術及戰術ヲ研究シ砲兵ノ教育一般ノ改良ヲ圖ルヲ目的トスル所トス

第二條 學生ノ訓練ニ供スル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置ク

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 砲兵大中佐一人

副官 砲兵大中尉二人

教官 砲兵少佐一人 砲兵大尉二人
砲兵中尉三人

軍吏 一人

軍醫 一人

獸醫 一人

第四條 校長ハ砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第五條 校長ハ懲罰權並校附官僚學生ノ休暇付與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ

第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士若干員ヲ置ク

第七條 教官ハ學術ノ教授ヲ分擔シ教導中隊ノ中隊長及中隊附士官ヲ兼ネシム

第八條 教官ノ下ニ助教ヲ置キ砲兵曹長同一等軍曹同一等軍曹及火工下長若干員ヲ以テ之ニ充テ教導中隊ノ中隊附ヲ兼ネシメ校内ニ

居住セシム

第九條 軍吏ノ下ニ書記若干員軍醫ノ下ニ看護長及看護卒若干員ヲ置ク

第十條 學期ハ毎年概ネ十二月ニ始リ翌年三月ニ終ルモノトス

第十一條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 學生分遣ノ告達アレハ近衛都督鎮臺司令官六部下ノ砲兵聯隊長ヲシテ大中尉及下士中身體強壯行狀方正勤務勉勵ニシテ其學術ニ適當ト認ムル者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前ニ其名簿ニ考科表ヲ添ヘ砲兵射的學校長ニ送達スヘシ

第十三條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十四條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ニ依リ卒業ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ此限ニ在ラス

第十五條 學期ノ終リニ於テ試験ヲ施行シ以テ其列序ヲ定メ卒業證

書ヲ付與シ歸隊セシム但優等ノ者ニハ別ニ褒賞ヲ與フルコトアルヘシ

第十六條 學生士官ハ校外ニ其下士ハ校内ニ居住セシム

第十七條 學生所要ノ兵器彈藥書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十八條 學生ノ俸給ハ原隊ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受授ヲ爲スモノトス

第十九條 學生ノ旅費ハ士官下士ヲ論セス總テ本校ニ於テ之ヲ支給ス

第二十條 學生下士ニ在テハ雜具ヲ貸與シ食料ハ原隊ヨリ之ヲ支給ス

第二十一條 學生分遣中所要ノ乘馬ハ調馬隊ヨリ之ヲ貸與ス

第二十二條 教導中隊ノ兵卒ハ常備服役尙ホ一箇年以上ノ期アル一等卒ニシテ身體強壯行狀方正勤務勉勵技藝熟達ノ者ヲ近衛鎮臺ノ砲兵各聯隊ヨリ選拔分遣シ毎年七月ニ於テ之ヲ交換セシムルモノ

トス

第二十三條 教導中隊ノ兵卒ハ學生分遣中ニ在テハ歸省休暇等一切之ヲ許サス

第二十四條 教導中隊ノ兵卒ハ教導中隊ニ編入スト雖モ名籍ヲ原隊ニ存シ隨テ諸給與ハ原隊ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨シ且背囊及刀ハ之ヲ携帶セシムヘシ其旅費消耗品ハ本校ニ於テ之ヲ支給ス

第二十五條 教導中隊ノ下士兵卒ノ被服ニハ本校ノ經費ヲ以テ特別ノ徽章ヲ附着ス

第二十六條 教導中隊ノ内務ハ概ネ砲兵内務書ニ據リ施行スヘシ

○陸軍及海軍教官

明治十九年十月 勅令第六十八號

朕茲ニ陸軍及海軍諸學校ニ教官ヲ置クコトヲ裁可ス

陸軍及海軍教官

第一條 陸軍及海軍諸學校ニ武官教官ノ外文官教官ヲ置ク左ノ如シ
教授 奏任
助教 判任

第二條 教授ノ官等俸給ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依リ助教ノ官等俸給ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル
武官ヲ以テ教官ニ充ツルトキハ本條ノ限ニアラス

第三條 教授助教ノ人員ハ其需用ニ從ヒ陸軍大臣若クハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

勅令第六號及第三十六號ハ共ニ第十九類ニ載ス

○海軍省

沿革略記

明治五年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ海軍省ヲ置ク○同年同月晦日元ト兵部省中海軍武官並兵學

寮ヲ管ス○同年三月七日海軍省無號達ヲ以テ翻譯局ヲ設ケ
 譯官ヲ置キ等級ヲ定ム○同年同月二十日海軍省無號達ヲ以
 テ水路局中測量生ヲ置キ俸給ヲ定ム○同年同月二十三日海
 軍省無號達ヲ以テ造船局ノ外附屬ノ名目ヲ廢シ等外吏ヲ置
 シ○同年同月二十五日海軍省無號達ヲ以テ水路局ニ附屬ヲ
 置ク○同年四月海軍省乙第三十四號達ヲ以テ翻譯局ヲ廢シ
 其事務ヲ秘書局ニ合ス○同年五月海軍省乙第七十號達ヲ以
 テ水兵本部所轄ノ水夫ヲ造船局ニ屬ス○同年六月海軍省乙
 第八十號達ヲ以テ會計局ニ附屬ヲ置ク○同年八月海軍省乙
 第一百號ヲ以テ軍艦乘組員ノ官等ヲ改正ス○同年十月海軍省
 乙第二百五十五號ヲ以テ橫須賀造船所橫濱製作所ヲ屬セラ
 レシ旨ヲ達シ主船寮ノ管轄ト爲ス○同年同月第三百五號ヲ以
 テ海軍省職制官等ヲ改正シ本省ニ秘史、軍務、會計ノ三局ヲ置
 キ及主船水路、兵學、軍醫、四寮機關、造兵、武庫、三司水兵本部
 裁判所、提督府ト爲ス○同年同月海軍省乙第二百五十六號達
 ヲ以テ水路局ヲ廢シ水路寮ヲ置キ乙第二百五十七號達ヲ以
 テ海軍病院ヲ廢シ海軍軍醫寮ヲ置キ乙第二百五十八號達ヲ
 以テ造船局中武庫掛ヲ廢シ武庫司ヲ置キ乙第二百五十九號
 達ヲ以テ糾問掛ヲ廢シ海軍裁判所ヲ置ク○同年同月海軍省
 乙第二百六十號達ヲ以テ主船寮ニ附屬ヲ置ク○同年同月海
 軍省乙第二百七十號達ヲ以テ造船局ヲ廢シ主船寮ヲ本省中
 ニ置キ乙第二百七十一號達ヲ以テ橫須賀造船所橫濱製作所

元造船局所轄ノ艦船ヲ管セシム○同年十一月海軍省乙第二
 百七十六號達ヲ以テ海軍軍醫寮中ニ病院ヲ置ク○同年同月
 海軍省乙第二百八十號達ヲ以テ橫濱製作所ヲ橫濱製造所ト
 改稱ス○同年同月海軍省乙第二百八十八號達ヲ以テ浦賀造
 船局出張所ヲ主船寮出張所ト改ム○同年同月海軍省乙第三
 百五號達ヲ以テ橫須賀ニ提督府ヲ置ク○六年一月海軍省甲
 第十四號達ヲ以テ十二等以下ノ譯官ヲ置ク○同年同月海軍
 省乙第二十四號達ヲ以テ主船寮所轄ノ諸工水夫掛ヲ提督
 府ニ屬ス○同年五月第五百五十四號ヲ以テ海軍武官官等ヲ改
 正ス○同年同月第五百五十七號ヲ以テ海軍中少尉ヲ委任ト爲
 ス等級ハ舊ニヨル○同年同月海軍省甲第六號達ヲ以テ海
 軍權曹長ヲ廢シ曹長以下ノ等級ヲ定ム○同年同月海軍省甲
 第九號達ヲ以テ譯官ヲ廢ス○同年六月第二百三十三號達
 ヲ以テ海軍省官等ヲ改正シ秘史、軍務、會計ノ三局主船、水路、兵
 學、軍醫ノ四寮造兵、武庫ノ二司水兵本部、裁判所、提督府ト爲ス
 ○同年八月第二百八十八號達ヲ以テ海軍武官官等ヲ改正ス
 ○同年同月海軍省甲第六十七號達ヲ以テ海軍少尉試補ヲ
 少尉補ト改稱ス○同年九月海軍省甲第八十七號達ヲ以テ
 機關大少監大中少機關士ヲ主船寮ニ屬ス○同年十一月第三
 百九十四號ヲ以テ軍醫、秘書、司計、機關科中少尉相當ノ官等
 以テ委任トス○同年十二月五日橫濱製鐵所ヲ大藏省ニ屬セ
 シム○七年一月十二日海軍省號外達ヲ以テ造兵所ヲ廢シ其

事務ヲ武庫司ニ屬ス○同年同月二十八日陸軍所屬ノ鹿兒島器械所ヲ管セシム○同年二月四日海軍省無號達ヲ以テ鹿兒島器械所ヲ改メテ製造所ト稱シ武庫司ノ管轄ト爲ス○同年四月二十七日海軍機關科中機關士補ヲ置ク○同年五月第十九號布告ヲ以テ海軍部中樂隊次長ヲ廢シ樂隊等級ヲ改正ス○同年同月海軍省甲第五十三號達ヲ以テ秘書軍務ノ二局ヲ廢シ六課ヲ置ク○同年八月十四日假リニ提督府ヲ鹿兒島ニ設ク○同年九月二十日海軍省號外達ヲ以テ水雷製造局ヲ兵學寮中ニ置ク○八年五月第七十五號布告ヲ以テ造兵武庫ノ二司ヲ廢シ尋テ海軍省^三第六十五號達ヲ以テ兵器局ヲ置キ其事務ヲ管セシム○同年十月七日海防局ヲ置キ海陸軍兩省ニ隸屬ス○九年七月第六十九號達ヲ以テ海軍樂隊官等ヲ改正ス○同年同月海軍省^三第六十七號達ヲ以テ鹿兒島製造所ヲ改メテ鹿兒島造船所ト稱シ主船寮ニ屬ス○同年同月海軍省^三第七十號達ヲ以テ水夫ヲ改メテ水兵ト稱ス○同年同月第八十三號達ヲ以テ東海西海鎮守府ヲ置ク○同年同月百十三號布告ヲ以テ海軍文武官官等ヲ改正ス○同年九月海軍省丙第十一號達ヲ以テ橫須賀造船所中ニ業生工手巡吏鹿兒島造船所ニ工手ヲ置キ等級月俸ヲ定ム○同年同月第九十五號達ヲ以テ海軍省職制章程ヲ更定シ省務ヲ支分シ軍務會計主船水路醫務兵器ノ六局ト爲ス○同年同月海軍省丙第四十七號達ヲ以テ芝新錢座海兵隊屯營ヲ東海鎮守府所轄トシ水

兵屯所ト改稱ス○同年十一月海軍省丙第四十九號達ヲ以テ會計局其他諸課廢置分合及所轄ヲ更定ス○同年十二月海軍省丙第七十四號達ヲ以テ長崎海軍出張所ヲ本省直管トシ兵庫海軍用所ヲ主船局所轄トス○同年同月海軍省丙第七十七號達ヲ以テ橫須賀水兵屯集所ヲ東海鎮守府ノ所轄トス○十年一月第三號達ヲ以テ諸寮並大少丞以下ヲ廢シ更ニ書記官屬官ヲ置ク○同年同月第四號達ヲ以テ文官四等以下ノ官等月給ヲ改ム○同年同月第十五號達ヲ以テ海軍技術官并裁判所官等ヲ更定シ技術官ヲ技監大中小少匠司師五等工長五等ニ分テ裁判官主理書記ト爲シ各五等ニ分ツ裁判事以上ハ舊ニ依ル○同年同月海軍省丙第十七號達ヲ以テ海軍本病院ヲ醫務局所轄トス○同年九月海軍省丙第九十二號達ヲ以テ橫須賀水兵屯集所ヲ東海水兵本營ト改稱シ浦賀水兵屯集所ヲ東海水兵分營ト改稱ス○同年十月海軍省丙第一百八十八號達ヲ以テ新錢座水兵假屯集所ヲ廢シ東海水兵假分營ヲ置ク○同年十一月海軍省丙第二百二十二號達ヲ以テ兵學校ニ次長ヲ置ク○十二年二月海軍省丙第二十四號達ヲ以テ鹿兒島造船所ヲ長崎出張所所轄トス○同年同月第五號達ヲ以テ海軍文武官官等表中海兵部ヲ廢ス○同年同月海軍省甲第一號布達ヲ以テ舊主船寮ノ事務ハ造船所及主船局ニ舊水路寮ノ事務ハ水路局ニ舊兵學寮ノ事務ハ兵學校ニ舊軍醫寮ノ事務ハ醫務局ニ舊武庫司ノ事務ハ兵器局ニ舊水兵本部舊提督府ノ事務ハ鎮守

府ノ管掌トス○同年六月海軍省丙第七十八號達ヲ以テ兵學校橫須賀分校ヲ兵學校附屬機關學校ト改稱ス○同年十月十九日內務省所轄橫濱製鐵所ヲ海軍省ノ管轄ニ附ス○十二年六月海軍省丙第四十八號達ヲ以テ東海鎮守府所轄東海水兵假分營ヲ廢ス○同年十月海軍省丙第九十二號達ヲ以テ兵學校教員等級ヲ定ム○同年同月海軍省丙第九十八號達ヲ以テ目黒火藥庫ヲ廢シ火藥製造所ヲ設ケ兵器局ノ所轄トス○同年同月海軍省丙第九十九號達ヲ以テ兵器局ニ業生ヲ置ク○十三年五月海軍省丙第五十號達ヲ以テ橫須賀ニ海軍用所ヲ置キ章程ヲ定ム○同年六月海軍省丙第五十七號達ヲ以テ海軍本病院ヲ東京海軍病院ト改稱ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ海軍省職制及事務章程ヲ追加改正ス○十四年四月第三十一號達ヲ以テ海軍省職制及事務章程第二章第七條第一條ヲ改正ス○同年五月第四十八號達ヲ以テ規程局ヲ置ク○同年七月第六十六號達ヲ以テ海軍機關學校ヲ置ク○同年十月海軍省丙第五十三號達ヲ以テ長崎海軍出張所所轄唐津海軍石炭用所ヲ主船局ノ所管トス○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム○十五年三月海軍省丙第二十一號達ヲ以テ東海鎮守府所轄東海水兵本營ヲ水兵屯營ト改稱シ東海水兵分營ヲ水兵練習所ト改稱ス○同年六月第三十三號達ヲ以テ海軍武官官等表ヲ改正ス○同年八月海軍省丙第五十五號達ヲ以テ海軍卒准卒

職名ヲ改正ス○同年十月海軍省乙第六號達ヲ以テ鎮守府司令ヲ鎮守府長官ト改稱ス○同年十二月海軍省丙第一百號達ヲ以テ海軍軍樂隊中學生ヲ置キ等級ヲ定ム○十六年二月海軍省丙第十三號達ヲ以テ水雷局ヲ置ク○同年八月廿四日無號達ヲ以テ教官ヲ置キ名稱等級ヲ定ム○同年十二月第五十八號達ヲ以テ技術官名稱等級ヲ改ム○十七年一月海軍省丙第三號達ヲ以テ調度局ヲ置キ統計課ヲ內局ニ屬ス○同年同月海軍省丙第十二號達ヲ以テ神戸ニ小野濱海軍造船所ヲ設置シ主船局所管ニ附ス○同年同月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス○同年二月海軍省丙第十八號達ヲ以テ主船局所轄橫須賀兵庫唐津ノ三海軍用所ヲ調度局所轄ニ附ス○同年同月海軍省丙第二十一號達ヲ以テ軍務局ヲ廢シ更ニ軍事部ヲ置ク○同年同月第二十一號達ヲ以テ工手監護ヲ置キ等級ヲ定ム○同年三月海軍省丙第五十一號達ヲ以テ兵器局并造船所業生工手及造船所巡吏ヲ廢シ丙第五十二號達ヲ以テ水路局附屬ヲ廢ス○同年四月廿九號達ヲ以テ海軍裁判所ヲ廢シ同月海軍省丙第六十三號達ヲ以テ東京軍法會議并東京監獄署ヲ設置ス又丙第六十四號達ヲ以テ東海鎮守府刑事課監囚課ヲ廢シ同府ニ鎮守府軍法會議并鎮守府監獄署ヲ設置ス○同年五月海軍省丙第八十六號達ヲ以テ規程局ヲ廢ス○同年七月第六十四號達ヲ以テ武官官等表中へ追加ス○同年十二月海軍省丙第六十號達ヲ以テ醫務局

ヲ廢ス○同年同月海軍省丙第六十九號達ヲ以テ橫須賀海軍用所ヲ廢ス○同年同月海軍省丙第七十三號達ヲ以テ水兵屯營ヲ橫須賀屯營ト改稱ス○同年同月海軍省丙第七十七號達ヲ以テ內局ヲ廢ス○十八年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ海軍大臣ヲ置ク○十九年二月海軍省丙第十六號達ヲ以テ長崎海軍出張所ヲ廢シ同所ニ橫須賀鎮守府武庫及倉庫ノ分局ヲ置キ丙第十七號達ヲ以テ兵庫海軍用所ヲ橫須賀鎮守府倉庫兵庫分局ト改稱ス○同年同月勅令第二號ヲ以テ海軍省官制ヲ定ム○同年四月勅令第二十四號ヲ以テ海軍條例ヲ定ム○同年同月勅令第二十五號ヲ以テ鎮守府官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十六號ヲ以テ海軍水路部官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十七號ヲ以テ海軍官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十八號ヲ以テ醫學校官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十九號ヲ以テ會計検査部官制ヲ定ム○同年同月勅令第三十號ヲ以テ會計検査部官制ヲ定ム○同年同月勅令第三十一號ヲ以テ兵器製造所官制ヲ定ム○同年同月勅令第三十二號ヲ以テ火藥製造所官制ヲ定ム○同年同月勅令第三十七號ヲ以テ海軍武官官等ヲ定ム○同年七月勅令第五十二號ヲ以テ武官官等表ヲ改正ス○同年七月勅令第五十八號ヲ以テ海軍諸學校ニ教官教官ヲ置ク○二十年七月勅令第六十三號ヲ以テ海軍諸學校ニ教官教官ヲ置ク○二十年七月勅令第六十五號ヲ以テ主理錄事ノ官等俸給ヲ定ム○同年十月勅令第七十二號ヲ以テ海軍兵器製造所官制第三條ヲ改正ス○

海軍條例

○海軍條例 明治十九年四月 勅令第二十四號 朕海軍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

二十一年二月勅令第三號ヲ以テ海軍督買部海軍會計検査部ヲ廢シ海軍省會計局ニ検査課ヲ置キ又同局中艦費課ヲ廢シ其事務ヲ整理課ニ屬セシム○同年五月勅令第六號ヲ以テ海軍參謀本部條例ヲ定ム○同年六月勅令第四十四號ヲ以テ海軍兵學校官制ヲ定ム○同年七月勅令第五十五號ヲ以テ海軍大學校官制ヲ定ム○二十二年二月勅令第十五號ヲ以テ海軍大學校官制第二條ヲ改正ス○同年同月勅令第十六號ヲ以テ海軍大學校官制ヲ改正ス○同年同月勅令第十七號ヲ以テ海軍軍樂練習所官制ヲ定ム○同年三月勅令第二十五號ヲ以テ海軍官制及海軍參謀本部條例ヲ廢シ參謀本部條例ヲ定ム○同年同月勅令第三十號ヲ以テ海軍省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第四十號ヲ以テ水路部條例中ヲ改正ス

第一條 凡ソ事軍令ニ關スル者ハ「參謀本部長」奏聞參畫シ、親裁ノ後海軍大臣之ヲ奉行ス

第二條 戰時ニ在テ 親裁ノ軍令ハ直ニ鎮守府司令長官艦隊司令長官若クハ特命司令官ニ下シ帷幕ト相通報シテ間斷ナカラシム

第三條 海軍ノ軍政ハ海軍省官制ニ依リ海軍大臣之ヲ掌ル

第四條 海軍省ニ將官會議造船會議兵器會議ヲ置ク

第五條 海軍省ハ海軍兵學校機關學校水路部「督買部」衛生部軍醫學校會計検査部兵器製造所火藥製造所ヲ管轄ス

第六條 帝國ノ海岸及海面ヲ分チテ五海面區トナスコト左ノ如シ
第一海軍區

陸中陸奥國界ヨリ紀伊國南牟呂東牟呂郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面

第二海軍區

紀伊國南牟呂東牟呂郡界ヨリ石見長門國界ニ至リ又筑前國遠賀

二十一年勅令第三號ヲ以テ督買部會計検査部ヲ廢ス

宗像郡界ヨリ九州東海岸ニ沿ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面并内海

第三海軍區

筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州西海岸ニ沿ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及壹岐對馬沖繩諸島ノ海岸海面

第四海軍區

石見長門國界ヨリ羽後陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐佐渡ノ海岸海面

第五海軍區

北海道陸奥ノ海岸海面及津輕海峽

第七條 各海軍區ノ軍港ニ鎮守府ヲ置キ其軍區ヲ管轄セシム
鎮守府ノ名稱ハ其所在ノ地名ニ依ル

第八條 鎮守府司令長官ハ管内ニ於テ軍令ヲ主掌シ軍紀風紀訓練ヲ
董督シ軍政ヲ管理ス

第九條 各軍港ニ司令官ヲ置キ命ヲ鎮守府司令長官ニ承ケ港内ノ守備其他諸般ノ事ヲ掌ラシム

第十條 艦隊ハ大艦隊中艦隊小艦隊ノ三種ニ區別ス

第十一條 艦隊司令長官及司令官ハ艦隊ヲ統率シテ環海ヲ守衛シ攻守ノ役ニ服ス

第十二條 艦船ハ各鎮守府及各艦隊ニ分屬ス

○

○鎮守府官制 明治十九年四月勅令第二十五號

朕鎮守府官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府官制

第一條 鎮守府ニ參謀部軍醫部主計部造船部兵器部建築部軍法會議監獄署ヲ置ク

第二條 鎮守府管内ニ屯營水雷營病院武庫倉庫ヲ配置ス
第三條 鎮守府ニ左ノ職員ヲ置ク

司令長官 一人 將官

參謀部

參謀部長 一人 大佐或中佐

參謀 二人 少佐及大尉

司令長官傳令使 一人 大尉或中尉

司令長官秘書 一人 主計少監

司令長官秘書補 三人以内 主計及主計補

文庫主管 一人 尉官

測器試驗所主管 一人 同上

軍醫部

部長 一人 軍醫大監或軍醫中監

部員 若干人 軍醫少監及軍醫

病院長	一人	軍醫監
主計部		
部長	一人	主計大監或主計中監
計算課長	一人	主計少監或大主計
人員課長	一人	大主計或中主計
材料課長	一人	同上
衣糧課長	一人	同上
給與課長	一人	同上
課員	若干人	主計及主計補
中央倉庫主管	一人	大主計或中主計
中央倉庫副主管	一人	主計
造船部		
部長	一人	大佐或中佐
次長	一人	匠司 <small>ヲ兼ネシム</small> 部内一科ノ長

造船科長	一人	匠司
造船科主幹	三人以内	同上
機械科長	一人	同上
機械科主幹	三人以内	同上
兵器部		
部長	一人	佐官
次長	一人	少佐或大尉
主幹	二人以内	尉官
武庫主管	一人	同上
水雷庫主管	一人	同上
建築部		
部長	一人	佐官
主幹	三人以内	匠司
軍法會議		

判士長

海軍治罪法ニ依リ之ヲ置ク

判士

同上

主理

同上

監獄署

署長

一人

大尉

警查長

三人

尉官

第四條 司令長官ハ其所屬ノ艦船軍人軍屬ヲ管轄シ軍港要港ノ防禦管内ノ警保艦船ノ製造修理兵器軍需品ノ貯藏配賦及兵員ノ招募徵集訓練ヲ掌ル

第五條 司令長官ハ其港内ニ旗艦ヲ置キ左港ノ艦船ヲ指揮ス

第六條 司令長官ハ平時ニ於テ麾下艦船ノ管外航海及例外行軍例外演習等ノ軍令ニ關スルモノハ海軍大臣ニ申報シ又軍人軍屬ノ進退黜陟轉換撰任及會計給與等ニ關スルモノハ海軍大臣ノ區處ヲ承クヘシ
第七條 司令長官ハ其管内ニ疑ハシキ艦船アルトキハ其搜索警戒ノ

爲ノ麾下ノ艦船ヲ管内ニ巡航セシムルコトヲ得但定例巡航外ニ涉ルトキハ海軍大臣ノ區處ヲ承クヘシ

第八條 司令長官ハ他管ノ艦隊又ハ艦船其港内ニ入港スルトキハ港内一般ニ係ル事項ニ就キ之ヲ指揮スヘシ

第九條 司令長官ハ管内騷擾ノ警アルトキハ先ツ情狀ヲ海軍大臣ニ申報シテ其區處ヲ承クヘシ但事火急ニシテ兵力ヲ要シ地方長官ヨリ出兵ヲ要求スルトキハ之ニ應シ狀ヲ具シテ海軍大臣ニ急報シ仍ホ比隣鎮守府ニ通報スヘシ

第十條 司令長官ハ戰時若クハ事變ニ際シテハ其港内ニアル他管ノ艦船其他軍人ヲ以テ其港ノ守衛ニ供スルコトヲ得

第十一條 軍政ニ關スル重要ノ事項ハ司令長官臨時軍政會議ヲ開キ其議長ト爲リ之ヲ審議決定スヘシ

第十二條 軍政會議ハ軍港司令官造船部長兵器部長建築部長主計部長ヲ以テ組織ス但時宜ニ依リ參謀長又ハ軍醫部長ヲ列セシム

第十三條 參謀長ハ司令長官ノ職務ヲ補佐シ專ラ其機務ニ參シ軍醫部主計部其他各官廨ノ職員ヲ監視ス

第十四條 參謀長ハ司令長官不在中特ニ委任セラレタル事件ハ司令長官ノ名ヲ以テ命令ヲ出スコトヲ得

第十五條 參謀長ハ鎮守府所屬ノ病院監獄等ノ紀律ヲ監督ス

第十六條 參謀長ハ文庫及測器試験所ヲ管理ス

第十七條 參謀長ハ前諸條ニ掲クル職務ノ外左ノ事務ヲ掌ル

一、軍港ノ守衛警保及造船部兵器部建築部ノ警察並門衛ニ關スル事項

二、海軍所屬砲臺ノ守衛及哨營等ニ關スル事項

三、管内沿岸ノ警報ニ關スル事項

四、海圖水路誌航海日誌ニ關スル事項

第十八條 參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ參謀部ノ事務ヲ分掌ス

第十九條 司令長官傳令使ハ差使及命令傳達ヲ掌リ又參謀部ノ事務

ヲ分掌ス

第二十條 司令長官秘書ハ機密文書ヲ掌リ府内ノ庶務ヲ整理シ官印ヲ監守ス

第二十一條 司令長官秘書補ハ秘書ノ命ヲ承ケ文書往復等ノ事務ニ服ス

第二十二條 文庫主管ハ參謀長ノ命ヲ承ケ圖書ノ保存出納ヲ掌ル

第二十三條 測器試験所主管ハ參謀長ノ命ヲ承ケ測器ノ試験ヲ掌ル

第二十四條 軍醫部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、鎮守府所屬ノ艦船營及諸官廨ノ醫務衛生上ニ關スル事項

二、軍港内ノ衛生ニ關スル事項

三、軍人ノ體格調査ニ關スル事項

四、恩給及賑恤金ニ係ル診斷書ニ關スル事項

五、斷訟醫事ノ紀事

六、藥品醫療器械ニ關スル事項

- 七、糧食及飲料ノ検査ニ關スル事項
- 八、看護手看病夫ノ教育ニ關スル事項
- 九、醫務衛生ニ係ル報告統計ニ關スル事項
- 第二十五條 軍醫部長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス
- 第二十六條 軍醫部長ハ鎮守府一般ノ醫務衛生及軍醫官以下ヲ監督ス
- 第二十七條 部員ハ各所ニ派出シ治療及調劑ノ事ヲ掌ル
- 第二十八條 病院長ハ軍醫部長ノ命ヲ承ケ院内ノ紀律及患者ノ治療ヲ掌ル
- 第二十九條 病院長ノ下ニ軍醫少監以下若干人ヲ置キ治療及調劑ノ事ヲ掌ラシム
- 第三十條 醫務衛生ニ關スル重要ノ事項ハ軍醫部長司令長官ノ命ヲ承ケ臨時衛生會議ヲ開キ其議長ト爲リ之ヲ審議決定スヘシ
- 第三十一條 衛生會議ハ病院長艦船營軍醫長及部員若干名ヲ以テ組

織ス

- 第三十二條 主計部ニ計算課人員課材料課衣糧課給與課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第三十三條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、鎮守府ニ屬スル軍事費鎮守府所掌ノ營繕費下士卒ノ家族扶助金及鎮守府收入金ノ豫算調査ニ關スル事項
 - 二、兵器ノ修理ニ係ル經費金ノ豫算調査ニ關スル事項
 - 三、支出額仕譯書ノ調整ニ關スル事項
 - 四、各部ニ於テ製造シタル器具物品ノ價格調査ニ關スル事項
 - 五、鎮守府及所屬諸官廨ノ準備金管理ニ關スル事項
 - 六、鎮守府及所屬諸官廨ノ金錢出納ニ關スル事項
 - 七、下士卒家族扶助金ノ支給ニ關スル事項
 - 八、第一項ノ收支決算書ノ調整ニ關スル事項
 - 九、鎮守府及所屬諸官廨ノ金錢出納ニ係ル報告統計ノ整理ニ關ス

ル事項

第三十四條 計算課ハ其課員ヲ造船部兵器部建築部ニ派出シ左ノ事務ノ掌理セシム

- 一、職工ノ出場退場ノ検査ニ關スル事項
- 二、職工ノ名簿整頓ニ關スル事項
- 三、職工ノ賃錢計算并其支給ニ關スル事項
- 四、職工ノ増減ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項

第三十五條 計算課ハ其課員ヲ病院及監獄署ニ派出シ左ノ事務ヲ掌理セシム

- 一、病院及監獄署ノ金錢出納ニ關スル事項
- 二、病院及監獄署ノ庶務
- 三、藥品醫療器械ノ出納ニ關スル事項
- 四、囚人ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項

第三十六條 人員課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、鎮守府及所屬諸官廨ノ人員調査ニ關スル事項
- 二、下士卒ノ名簿履歷簿調整ニ關スル事項
- 三、下士卒ノ出入ニ關スル事項
- 四、徵兵募兵ニ關スル事項
- 五、豫備兵後備兵及海員ニ關スル事項
- 六、下士卒ノ人員ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項

第三十七條 材料課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、材料物品ノ購買運搬供給出納ニ關スル事項
 - 二、材料物品ノ保存方法ニ關スル事項
 - 三、各部貯藏ノ材料物品ノ價額調査ニ關スル事項
 - 四、材料物品ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第三十八條 衣糧課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、被服糧食ノ員數調査ニ關スル事項
 - 二、被服糧食ノ準備ニ關スル事項

- 三、被服糧食ノ運搬供給出納ニ關スル事項
 - 四、被服糧食ノ支給ニ關スル事項
 - 五、被服糧食ノ出納ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第三十九條 給與課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、俸給日給其他金錢給與ノ例規ニ關スル事項
 - 二、藥品醫療器械及患者ノ給與ニ關スル事項
 - 三、囚人ノ給與ニ關スル事項
 - 四、職工ノ賃銀ニ關スル事項
 - 五、府内ノ用度ニ關スル事項
- 第四十條 主計部長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス
- 第四十一條 主計部長ハ鎮守府一般ノ主計官以下ヲ監督ス
- 第四十二條 課長ハ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ整理ス
- 第四十三條 課員ハ課長ノ命ヲ承ケ課務ヲ分掌ス
- 第四十四條 主計部ハ中央倉庫ヲ所轄シ各部各官廨艦船營一般ノ需

- 用ニ供スル爲メ普通ノ材料物品ヲ貯藏配付セシム
- 第四十五條 中央倉庫主管ハ主計部長ノ命ヲ承ケ倉庫ヲ管守シ材料物品ノ保存出納ヲ掌ル
- 第四十六條 副主管ハ主管ヲ助ケ其主務ヲ整理ス
- 第四十七條 造船部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、艦船及其機關ヲ新製改造修理スル事
 - 二、所屬ノ諸工場諸機械ヲ管理スル事
 - 三、艦材圓材等ヲ貯蓄保存シ及所用ノ料材ヲ檢查スル事
 - 四、船臺ニ於テ製造中ノ艦船ヲ管守スル事
 - 五、所管倉庫ノ材料物品ノ保存出納ニ關スル事項
 - 六、職工ヲ教育スル事
 - 七、兵器ヲ修理スル事
 - 八、艦船ノ新製改造修理ニ係ル概算書ヲ調整スル事
 - 九、造船ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項

第四十八條 兵器部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、兵器ノ貯蔵保存配賦出納ニ關スル事項
- 二、砲銃水雷彈藥ノ試験ニ關スル事項
- 三、火工ニ關スル事項
- 四、大砲水雷ノ備裝ニ關スル事項
- 五、兵器ノ修理ニ係ル概算書ヲ調整スル事
- 六、兵器ノ修理ニ係ル報告統計ヲ整理スル事

第四十九條 建築部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、官廨兵營學校病院官舎等ノ建築修理及其主管ニ關スル事項
- 二、船渠船臺及埠頭ノ築造修理ニ關スル事項
- 三、海軍ニ屬スル燈臺浮標電信其他水陸ノ工事ニ關スル事項
- 四、港内ノ浚渫ニ關スル事項
- 五、官廨造修簿ヲ記注シ及之ヲ管守スル事
- 六、鎮守府所屬地ノ「地券」ヲ管守スル事

七、所管倉庫ノ材料物品ノ保存出納ニ關スル事項

- 八、建築修理ニ係ル仕様帳及概算書ノ調整ニ關スル事項
- 九、建築修理ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項

第五十條 造船部兵器部建築部ノ長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第五十一條 造船部ノ各科長ハ部長ノ命ヲ承ケ科務ヲ整理ス

第五十二條 造船部各科及兵器部建築部ノ主幹ハ部長ノ命ヲ承ケ各分掌ノ工業ヲ擔任ス

第五十三條 武庫水雷庫ノ主管ハ兵器部長ノ命ヲ承ケ兵器水雷及其屬具ノ保存出納ヲ掌ル

第五十四條 監獄署長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第五十五條 警查長ハ署長ノ命ヲ承ケ警查ヲ指揮シ監獄ノ巡視警戒ヲ掌ル

第五十六條 各軍港ニ軍港司令部ヲ置キ其部下ニ豫備艦部水雷部航

海部ヲ置キ其職員ヲ定ムルユト左ノ如シ

軍港司令部

軍港司令官

一人

少將或大佐

軍港副官

一人

大尉

軍港司令官傳令使

一人

大尉或中尉

豫備艦部

豫備艦總理

一人

大佐或中佐

豫備艦副總理

一人

大尉

豫備艦機關長

一人

機關監

豫備艦船具庫主管

一人

尉官

水雷部

水雷司令

二人

佐官

水雷副司令

二人

大尉

航海部

部長

一人

豫備艦總理ヲ以テ之ニ充ツ

部員

二人

少佐及大尉

倉庫主管

一人

豫備艦船具庫主管ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條

軍港司令官ハ艦船營兵員及海軍所屬ノ砲臺ヲ指揮シ軍

港ノ守備ヲ掌ル

第五十八條

軍港司令官ハ軍紀風紀ヲ維持シ所屬軍人軍屬ノ訓練教

育ヲ監督ス

第五十九條

軍港司令官ハ鎮守府管轄ノ左ノ艦船ヲ指揮ス

一、常備艦船

二、練習艦

三、儀裝中ノ艦船

四、豫備艦船

五、水雷船

第六十條

軍港司令官ハ其港内ニ在ル艦船ニ港内規則ヲ遵守セシム

ヘシ

第六十一條 軍港司令官ハ諸般ノ法律命令ヲ麾下ニ布達シ又麾下艦船營長ノ上申及報告ヲ點檢シ鎮守府司令長官ニ進達ス

第六十二條 軍港司令官ハ麾下ノ艦船ヲ點檢シ其現狀性質並ニ乗員ノ景況ヲ詳知シ又常ニ艦船ヲ整頓準備シ若シ役務ニ適セサルコトヲ發見スルトキハ速ニ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第六十三條 軍港司令官ハ麾下ノ艦船ヲ各所ニ配置スルトキハ發航ノ前歸著ノ後及艦船新ニ麾下ニ屬スルトキハ之ヲ點檢シ其詳細ヲ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第六十四條 軍港司令官自ラ點檢ヲ行フ能ハサルトキハ豫備艦總理ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第六十五條 軍港司令官ハ麾下將校以下服務ノ程度ヲ觀察シ其黜陟轉換等ノ事ニ就テ意見アルトキハ之ヲ鎮守府司令長官ニ申告スヘシ

第六十六條 軍港副官ハ司令長ノ命ヲ承ケ軍港司令部ノ庶務ヲ整理シ文書ノ往復受附等ノ事ヲ掌ル

第六十七條 軍港司令官傳令使ハ差使及命令傳達ヲ掌リ又軍港司令部ノ事務ヲ分掌ス

第六十八條 豫備艦總理ハ軍港司令官ノ命ヲ承ケ豫備艦船ヲ管轄シ其守衛保存及就任準備ノ事ヲ總理ス

第六十九條 豫備艦副總理ハ總理ヲ輔佐シ其主務ヲ整理ス

第七十條 豫備艦機關長ハ豫備艦ノ機關ニ係ル事ヲ整理シ機關官以下ヲ監督ス

第七十一條 豫備艦船具庫主營ハ總理ノ命ヲ承ケ豫備艦ニ屬スル器具物品ノ準備保存ヲ掌ル

第七十二條 水雷司令ハ軍港司令官ノ命ヲ承ケ攻撃水雷及防禦水雷ニ關スル事項并ニ水雷艇隊及布設水雷ノ指揮ヲ掌ル

第七十三條 水雷副司令ハ司令ヲ輔佐シ其主務ヲ整理ス

第七十四條 航海部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、新艦ノ索具ヲ裝置スル事
- 二、所管倉庫ノ諸具ノ保存出納ニ關スル事項
- 三、桅檣掛脫ニ關スル事項
- 四、消防隊ヲ監督シ及消防具ヲ監視スル事
- 五、航海用信號及信號所管理ニ關スル事項
- 六、港内規則ノ維持ニ關スル事項
- 七、港内艦船ノ錨地轉換及繫泊ニ關スル事項
- 八、艦船出入渠ニ關スル事項
- 九、繫船用錨鎖ノ配置及其檢查ニ關スル事項
- 十、海軍所屬ノ浮標礁標及目標ノ管理ニ關スル事項
- 十一、軍港内ノ水路嚮導ニ關スル事項
- 十二、難破船救助ニ關スル事項

第七十五條 航海部長ハ軍港司令官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第七十六條 部員ハ部長ヲ助ケ各分任ノ事項ヲ整理ス

第七十七條 倉庫主管ハ部長ノ命ヲ承ケ艦船附屬具等ノ保存出納ヲ掌ル

第七十八條 第三條第五十六條ニ掲クル職員ノ外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

第七十九條 作業費ニ屬スル職員ハ此官制ニ依ラス

○第二第三海軍區鎮守府位置明治十九年五月勅令第三十九號

朕茲ニ第二海軍區及第三海軍區鎮守府ノ位置ヲ定ムルコトヲ裁可ス

第二海軍區及第三海軍區鎮守府ノ位置ヲ定ムルコト左ノ如シ但其府開廳マテハ横須賀鎮守府ヲシテ第二第三海軍區ヲ管轄セシメ第四及第五海軍區鎮守府ノ位置ヲ定ムルマテハ其軍區ヲ横須賀鎮守府ノ管

轄トス

- 一 第二海軍區安藝國安藝郡吳港
- 一 第三海軍區肥前國東彼杵郡佐世保港

○海軍省官制 明治二十二年三月
勅令第二十九號

朕海軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省官制

- 第一條 海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス
- 第二條 海軍省職員ハ武官ヲ以テ之ニ補ス其文官ヲ任用スルトキハ各省通則ニ依ル
- 第三條 海軍省ニ總務局ヲ置カス次官ハ大臣官房ニ於テ省務ヲ整理ス

ス

第四條 海軍大臣官房ニ祕書官二人ヲ置キ其一人ハ本職アル者ヲ以テ兼務セシム

第五條 海軍大臣官房ニ通則ニ掲クル職員ノ外主事一人副主事一人ヲ置ク

第六條 主事ハ次官ノ命ヲ受ケ官房ノ事務ヲ掌ル副主事ハ主事ヲ助ク

第七條 海軍大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外總務局文書課往復課ノ所掌ニ屬スル事項ヲ掌ラシム

第八條 海軍大臣官房ニ記録課ヲ屬置シ通則ニ掲クル總務局記録報告兩課ノ所掌ニ屬スル事務ヲ掌ラシム

第九條 海軍省ニ書記官參事官ヲ置カス

第十條 海軍省各局ニ次長ヲ置カス各課ニ課次長ヲ置キ課長ヲ助ケ課務ヲ分掌セシム

第十一條 海軍省中左ノ諸局ヲ置ク

第一局

第二局

會計局

第十二條 第一局ニ於テハ武官教官主理ノ任敘考撰徵兵募兵教育訓練軍紀風紀ニ關スル事項俸給手當旅費被服糧食病院監獄ニ關スル事項ヲ掌リ第一課第二課第三課軍法課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
第一局軍法課ノ長次長ハ第二條ニ依ラス東京軍法會議ノ主理ヲシテ兼務セシム

第十三條 第二局ニ於テハ艦船兵器ノ造修兵器彈藥艦船需用品ノ準備供給土地家屋ニ關スル事項ヲ掌リ第一課第二課第三課第四課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十四條 會計局ハ通則ニ掲クルモノ、外鎮守府艦隊其他海軍諸部ノ會計經理本省ニ於テスル出納及海軍財産ノ調査ニ關スル事項ヲ掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十五條 海軍省會計局ニ検査課ヲ置カス海軍會計検査ノ法ハ別ニ定ムル所ニ依ル又通則ニ掲クル出納課ノ所掌ニ屬スル事務ハ會計局第三課ニ於テ掌理セシメ用度課ノ所掌ニ屬スル事務ノ中地所建物ニ關スル事務ハ第二局第四課ニ於テ其他ハ會計局第二課ニ於テ掌理セシム

○小野濱造船所官制十九年七月令第二十一號
小野濱造船所官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 小野濱造船所ハ海軍省艦政局ノ管理ニ屬シ作業費ヲ以テ艦船機關及其屬具ヲ製造修繕シ并ニ之ヲ改造修理スル所トス(三十二年閣令第十一號ヲ以テ造船所ハ)

第二條 小野濱造船所ニ製造科及計算課ヲ置ク
第三條 小野濱造船所ニ左ノ職員ヲ置ク(二十一年閣令第十一號ヲ以テ各項共改正)

- 所長 一人 技監
- 製造科長 一人 技監若クハ技士
- 製造科主幹 五人以内 技士
- 製造科工場長 若干人 技手
- 計算課長 一人 主計少監若クハ大主計

- 主庫 一人 屬
- 第四條 所長ハ艦政局長ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス
 - 第五條 製造科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、艦船機關及其屬具ヲ製造艦裝シ并ニ之ヲ改造修理スル事
 - 二、前項ニ係ル費用ノ概算書ヲ調整スル事
 - 三、購入ス可キ材料ヲ検査シ及貯藏ノ材料ヲ調査スル事
 - 四、各工場及諸機械ヲ管理スル事
 - 五、艦船及其屬具ヲ管理スル事
 - 六、本所所屬ノ水陸諸標等ヲ管理スル事
 - 七、艦船ヲ繫維シ又ハ之ヲ堀内ニ出入スル事
 - 八、本所所屬ノ船臺及諸建物ノ建築修繕其他土木工事ニ關スル事
 - 九、前項ニ係ル仕樣帳并ニ其概算書ヲ調整スル事
 - 十、本所所屬ノ土地建物ヲ管理スル事
 - 第六條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、作業費金ノ收支出納及豫算決算ヲ整理スル事
 - 二、艦船機關及其屬具ノ製造艦裝并ニ改造修理ニ關スル費用ノ概算書ヲ調整スル事
 - 三、建築修繕ニ關スル費用ノ概算書ヲ調整スル事
 - 四、材料物品ノ購買賣却ニ關スル事
 - 五、材料物品ノ出納簿ヲ調査スル事
 - 六、工夫以下ノ出場退場ヲ調査シ及其賃銀ヲ支給スル事

- 七、(二十一年閣令第十一號ヲ以テ本項削除) 本所所屬ノ地券ヲ管守スル事
 - 第八條 倉庫ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、材料物品ヲ貯藏シ其供給出納ヲ爲ス事
 - 二、購入スヘキ物品ヲ検査シ及貯藏ノ物品ヲ調査スル事
 - 第九條 科長課長主庫ハ所長ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ整理ス
 - 第十條 主幹ハ科長ヲ助ケ主務ノ事業ヲ分擔ス
 - 第十一條 (二十一年閣令第十一號ヲ以テ削除) 工場長ハ科長主幹ノ命ヲ承ケ主務ノ工事ヲ分擔ス(二十一年閣令第十一號ヲ以テ主幹ノ下又ハ工場總長ヲ六字ヲ削除ス)
 - 第十二條 所長ニ判任官若干名ヲ專屬セシメ左ノ事務ヲ掌ラシ
 - 一、所長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付ニ關スル事
 - 二、官印ヲ監守スル事
 - 三、監護定人足ヲ支配スル事(二十一年閣令第十一號ヲ以テ)
 - 四、所内ノ警護ヲ監督スル事
 - 五、所内一般ノ報告統計ヲ調整スル事
 - 六、他ノ主管ニ屬セサル事務ニ關スル事
 - 第十三條 第三條ニ掲クル職員ノ外軍醫一人看護手一人ヲ置キ又屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク(二十年閣令第二十號ヲ以テ改正)
- 横須賀造船所官制(十九年五月三十五號)
 横須賀造船所官制左ノ通定ム

橫須賀造船所官制

- 第一條 橫須賀造船所ハ横須賀鎮守府ノ管理ニ屬シ作業費ヲ以テ艦船機關及其屬具ヲ製造修理スル所トス
- 第二條 横須賀造船所ニ造船科機械科艦裝科建築科計算課倉庫寮舎ヲ置ク
- 第三條 横須賀造船所ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 所長 一人 大中佐
 - 次長 一人 技師所内一科ノ長ヲ兼テシム
 - 所長專屬員 十二人 屬
 - 造船科長 一人 技師
 - 造船科主幹 三人 技師
 - 造船科屬員 四人 屬一人技手三人
 - 造船科工場長 五人 技手
 - 造船科工場掛 十九人以内 技手
 - 機械科長 一人 技師
 - 機械科主幹 三人 技師
 - 機械科屬員 四人 屬一人技手三人
 - 機械科工場長 七人 技手
 - 機械科工場掛 十五人以下 技手
 - 艦裝科長 一人 少佐或大尉
 - 艦裝科主幹 一人 大中尉
 - 艦裝科屬員 二人 判任武官或技手

- 艦裝科工場長 一人 技手
- 艦裝科工場掛 一人 技手
- 建築科長 一人 技師
- 建築科屬員 二人 屬
- 建築科工場長 二人 技手
- 建築科工場掛 四人 技手
- 計算課長 一人 技手
- 計算課員 一人 主計少監或大主計
- 計算課屬員 十五人 大主計
- 主庫 一人 屬
- 倉庫屬員 九人 屬
- 寮舎長 一人 屬
- 寮舎屬員 二人 屬
- 第四條 所長ハ横須賀鎮守府司令長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ總理ス
- 第五條 次長ハ所長ヲ助ケ所務ヲ整理ス
- 第六條 造船科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 作業費ヲ以テ艦船及其屬具ヲ新製改造修理スル事
 - 二 所屬ノ工場及諸機械ヲ管理スル事
 - 三 所内船臺ニ在ル艦船ヲ管理スル事
 - 四 本科ノ所用ニ屬スル購入材料ヲ検査シ貯蓄材料ヲ調査スル事
 - 五 作業費ヲ以テ新製改造修理スル艦船ノ入費概算書ヲ調査スル事

整スル事

第七條

機械科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 作業費ヲ以テ汽機汽罐及其屬具ヲ製造修理スル事

二 所屬ノ工場及諸器械ヲ管理スル事

三 本科ノ所用ニ屬スル購入材料ヲ検査シ貯蓄材料ヲ調査スル事

四 作業費ヲ以テ新製改造修理スル汽機汽罐其屬具ノ入費概算書ヲ調整スル事

第八條

艦裝科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 作業費ヲ以テ製造修理スル艦船ヲ艦裝スル事

二 所内ノ海面及諸浮標等ヲ管理スル事

三 船具及所屬諸船艇諸器械ヲ管理スル事

四 修履艦船ヲ繫維シ所内ノ船渠ニ艦船ヲ出入スル事

五 作業費ヲ以テ製造修理スル艦船ノ艦裝ニ係ル入費概算書ヲ調製スル事

第九條

作業費ヲ以テ製造修理スル艦船ノ兵器及其搭載ニ關スル事業ハ各其種類ニ依リ造船機械艦裝ノ三科ニ於テ分擔ス

第十條

建築科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 作業費ヲ以テ船渠船臺土地家屋ヲ建築修繕シ其他土木ノ工事ヲ爲ス事

二 作業費ニ屬スル土地建造物及所屬工場諸器械ヲ管理ス

ル事

三 作業費ニ屬スル建築修理ノ仕様帳ヲ調整スル事

四 本科ノ所用ニ屬スル購入材料ヲ検査シ貯蓄材料ヲ調査スル事

五 作業費ニ屬スル土地ノ地券ヲ管守スル事

六 作業費ニ屬スル建築修理ノ豫算決算ヲ計算スル事

第十一條

計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 興業費營業費收入金ノ出納及豫算精算ノ整理ニ關スル事項

二 海軍艦船ノ製造修理ニ關スル入費概算書ヲ統理スル事

三 材料需用物品ノ買辦賣却ニ關スル事項

四 倉庫貯蓄品ノ出納簿ヲ調査スル事

五 職工ノ出場退場ヲ調査シ及賃銀ヲ支給スル事

第十二條

倉庫ニ於テハ材料及需用物品ヲ貯藏シ其供給出納ヲ掌ル

第十三條

費舍ニ於テハ修業工夫ヲ教育ス

第十四條

科長課長主庫費舍長ハ造船所長ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ整理ス

第十五條

各科主幹計算課員ハ各其長ヲ助ケ其主務ノ事業ヲ分擔ス

第十六條

所長專屬員ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 所内ノ庶務

- 二 監護定人足ヲ支配スル事
- 三 所内取締ノ事
- 四 所内一般ノ報告統計ヲ整理スル事
- 第十七條 各科計算課倉庫貯舎ノ屬員ハ各其長又ハ主幹ノ命ヲ承テ其主務ニ從事ス
- 第十八條 各科工場長工長掛ハ科長又ハ主幹ノ命ヲ承テ主務ノ工事ヲ分擔ス
- 唐津石炭用所官制海軍省令第四十三號
明治十六年二月丙第十六號達唐津石炭用所章程ヲ廢シ同所官制左ノ通定ス
- 唐津石炭用所官制
- 第一條 唐津石炭用所ハ横須賀鎮守府ノ管理ニ屬シ海軍所屬ノ石炭山ヲ管シ作業費ヲ以テ石炭ヲ採掘シ之ヲ運輸スル所トス
- 第二條 唐津石炭用所ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 所長 一人 委任三等或四等ノ機關官主計官
 - 屬員 三人 屬
- 第三條 所長ハ鎮守府司令長官ノ命ヲ承テ所務ヲ總理ス
- 第四條 屬員ハ所長ノ命ヲ承テ左ノ事項ヲ分擔ス
 - 一 炭山ノ測量採掘方ノ監視炭質代價及其納拂ノ調査炭庫ノ管守運送船炭山稼人ノ支配及所内ノ管轄
 - 二 作業費及收入金ノ出納整理豫算決算及需用物品ノ買辦供給

三 諸公文ノ取扱給仕小使ノ支配及所中ノ雜務

○海軍參謀部條例明治二十二年三月 勅令第三十號

朕海軍參謀部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍參謀部條例

- 第一條 海軍大臣ハ各省官制ニ掲クルモノ、外帷幕ノ機務ニ參シ出師作戰海防ノ計畫ニ任スルモノトス
- 第二條 海軍大臣ノ下ニ海軍參謀部ヲ置キ軍事ノ計畫ヲ掌ラシム
- 第三條 海軍參謀部ニ長一人ヲ置キ將官ヲ以テ之ニ補シ部務ヲ總理セシム
- 第四條 海軍參謀部ニ第一課第二課第三課ヲ置キ部務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課 作戰出師準備海上運輸ノ計畫

第二課 海岸防禦

第三課 諜報

第五條 課長ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ第一課第三課ニ課員四人ヲ置キ一人ハ少佐三人ハ大尉ヲ以テ之ニ補シ第二課ニ課員二人ヲ置キ一人ハ少佐二人ハ大尉ヲ以テ之ニ補ス

第六條 部長ハ臨時甲課員ニ乙課ノ事務ヲ兼務セシムルコトヲ得

第七條 海軍參謀部ニ大臣傳令使部長傳令使各一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補シ大臣部長ニ專屬セシメ又部長ノ命ヲ受ケ課務ヲ助ケシム

第八條 此條例ニ掲クルモノ、外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

○水路部條例 明治二十一年六月 勅令第四十九號

朕海軍水路部官制ヲ廢シ水路部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水路部條例

第一條 水路部ハ水路ヲ測量シ兵要及一般ノ海圖ヲ調製シ水路誌ヲ編纂シ圖誌ノ配備其他航海ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ル所トス(二十年勅令第四十號ヲ以テ圖誌科ノ下測器ノ下測器ノ二字ヲ削ル)

第二條 水路部ニ測量科圖誌科計算課ヲ置ク(二十二年勅令第四十號ヲ以テ圖誌科ノ下測器ヲ削ル)

第三條 水路部ニ左ノ職員ヲ置ク

- | | | |
|------|----|----|
| 部長 | 大佐 | 一人 |
| 測量科長 | 佐官 | 一人 |
| 圖誌科長 | 少佐 | 一人 |
| 測量班長 | 少佐 | 三人 |

(二十二年勅令第四十號ヲ以テ本項削除)

- 圖誌科係
 - 大尉 二人
 - 測量士 尉官或ハ技士 九人
 - 測量助手 上等技工 若干人
 - 計算課長 屬 一人
 - 製圖手 技手 若干人
- 第四條 部長ハ海軍參謀部長ニ隸シ部事ヲ整理シ其責ニ任ス(二十二年勅令第四十號ヲ以テ參謀本部長トアルヲ參謀部長ト改ム)
- 第五條 部長ハ其名ヲ以テ水路告示ヲ發シ及外國海軍水路部ト直接通信スルコトヲ得
- 第六條 測量科長ハ左ノ事項ヲ掌ル
 - 一 各班ヲ部署シ測量教令ヲ下タスノ事
 - 二 各班測量原圖ノ精査及保管ニ關スル事項
 - 三 各班水路記事ノ調査ニ關スル事項
 - 四 測量經費豫算ニ關スル事項

- 五 測量ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項
- 第七條 測量科長ハ須要ナル方面ノ測量ニハ班長以下ヲ指揮シテ之ニ從事ス
- 第八條 測量班長ハ各班ニ長トシテ一方面ノ測量事業ヲ主幹シ測量原圖ヲ調製シ其水路記事及報告書ノ記述ニ從事ス
- 第九條 測量士ハ各班ニ分屬シテ其業ニ服ス
- 第十條 測量士ハ時宜ニ依リ一方面ノ測量ニ主幹タラシムルコトアル可シ
- 第十一條 測量助手ハ各班ニ分屬シ班長ノ命ヲ承ケテ測量士ヲ助ク
- 第十二條 圖誌科長ハ左ノ事項ヲ掌ル
 - 一 測量原圖又ハ外國ノ海圖ニ依リ海圖及航海ニ必要ナル圖類ヲ調整刊行スル事
 - 二 水路誌燈臺表其他水路ニ緊要ノ書類ヲ編述又ハ翻譯シテ刊行スル事

- 三 水路告示ヲ起案スル事
- 四 内外諸圖書ヲ調査シ及圖誌ヲ增補又ハ改正スル事
- 五 圖誌ノ購買準備及拂下ニ關スル事項
- 六 圖誌ヲ各鎮守府ニ配賦シ及新舊圖誌ヲ交換スル事
- 七 外國ト圖誌ヲ交換スル事
- 八 圖誌ヲ保管スル事
- 九 圖誌ノ經費豫算ニ關スル事項
- 十 圖誌ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項
- 第十三條 圖誌科僚ハ科長ノ命ヲ承ケ圖誌ニ關スル事業ヲ分掌ス
- 第十四條 製圖手ハ科僚ニ屬シテ其業ニ服ス
- 第十五條 (二十二年勅令第四十號ヲ以テ削除)
- 第十六條 計算課長ハ左ノ事項ヲ掌ル
 - 一 經費金收入金ノ豫算書決算書ノ調製ニ關スル事項
 - 二 經費金收入金ノ出納ニ關スル事項

三 水路部内ノ庶務及物品ノ保管ニ關スル事項

第十七條 第三條ニ掲クル職員ノ外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

○海軍大學校官制 明治二十一年七月勅令第五十五號

朕海軍大學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍大學校官制

第一條 海軍大學校ハ海軍將校ニ高等ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條 海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク(二十二年勅令第十五號ヲ以テ各項共改正)

- 校長 一人 中將若クハ少將
- 次長 一人 大佐
- 副官 二人 大尉
- 教頭 一人 大佐次長ヲ以テ兼補ス

教官

十五人

少佐大尉四人 内陸軍工兵少佐若クハ大尉一人
機技部上長官大機關士大技士
四人教授七人

軍醫長

一人

大軍醫

軍醫

一人

大軍醫若クハ少軍醫

主計長

一人

大主計

主計

二人

大主計若クハ少主計

教官ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

第三條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ總理ス

第四條 次長ハ校長ヲ佐ケ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ其他校長ノ命スル事務ニ服ス

第六條 教頭ハ學術教授ノ事ヲ整理ス

第七條 教官ハ各科ノ教授ヲ擔任ス

第八條 主計ハ校内ノ會計給與ヲ掌ル

第九條 第二條ニ掲クル職員ノ外判任官及卒若干人ヲ置ク

○海軍主計學校官制 明治二十二年二月勅令第十六號

朕海軍主計學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍主計學校官制

第一條 海軍主計學校ハ海軍大學校ニ屬シ少主計候補生ヲ學生トナ

シ主計官ニ必要ナル學術ヲ授クル所トス

第二條 海軍主計學校ノ事務ハ總テ海軍大學校ニ於テ管理ス

第三條 海軍主計學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

一人

主計監

教官

四人

教授

監事

三人

主計監大主計

教官ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

第四條 校長ハ大學校長ノ命ヲ承ケ學生ノ軍紀風紀ヲ維持シ且校務ヲ整理ス

第五條 教官ハ各科ノ教授ヲ擔任ス

第六條 監事ハ校長ノ命ヲ承ケ學生ヲ監督シ其事務ヲ掌ル

第七條 第三條ニ掲ケル職員ノ外判任官及卒若干人ヲ置ク

○海軍軍樂練習所官制 明治二十二年二月 勅令第十七號

朕海軍軍樂練習所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍軍樂練習所官制

第一條 海軍軍樂練習所ハ海軍大學校ニ屬シ軍樂員ヲ養成シ軍樂ヲ

講究スル所トス

第二條 海軍軍樂練習所ノ事務ハ總テ海軍大學校ニ於テ管理ス

第三條 海軍軍樂練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人 大尉

教官 無定員 軍樂師若クハ軍樂手

第四條 所長ハ海軍大學校長ノ命ヲ承ケ部下ヲ統率シ所内ノ事務ヲ整理ス

第五條 教官ハ軍樂手軍樂生及軍樂生志願ノ者ニ軍樂ヲ教授ス

第六條 教官タル軍樂師ハ練習中ノ軍樂手以下ヲ分轄ス

○海軍兵學校官制 明治二十一年六月 勅令第四十四號

朕海軍兵學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍兵學校官制

第一條 海軍兵學校ハ海軍將校ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍兵學校ニ航海練習艦ヲ屬シ實地練習ノ用ニ供ス

第三條 海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 一人 少將
- 次長 一人 大佐
- 副官 二人 大尉
- 教頭 一人 大佐
- 砲術教官 九人 少佐一人 大尉八人
- 水雷術教官 三人 少佐一人 大尉二人
- 運用術教官 九人 少佐一人 大尉八人
- 航海術教官 六人 少佐一人 大尉五人
- 機關術教官 十人 機關少監二人 大機關士九人
- 普通學教官 十四人 教授

生徒隊司令官 一人 少佐

生徒隊副官 一人 大尉教官ヲ以テ兼補ス

生徒分隊長 若干人 大尉教官ヲ以テ兼補ス

軍醫長 一人 軍醫少監

軍醫 二人 大軍醫一人 少軍醫一人

主計長 一人 主計少監

主計 一人 大主計又ハ少主計

教官ノ數ハ生徒ノ數ニ應シ海軍大臣適宜之ヲ減スルコトヲ得

第四條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ總理シ航海練習艦ヲ統轄ス

第五條 次長ハ校長ヲ佐ケ其事務ヲ調理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第六條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ其他校長ノ命スル事務ニ服ス

第七條 教頭ハ學術教授ノ事ヲ整理ス

第八條 教官ハ各科ノ教授ヲ擔任ス

第九條 生徒隊司令官ハ生徒各分隊ヲ統率シ其軍紀風紀ヲ維持シ專
ラ體育ノ事ヲ掌ル

第十條 生徒隊副官ハ生徒隊司令官ニ屬シ該官ノ命スル事務ニ服ス

第十一條 生徒分隊長ハ生徒隊司令官ノ指揮ヲ受ケ生徒分隊ヲ統ヘ
其事務ヲ掌ル

第十二條 軍醫長ハ校内ノ醫務衛生ヲ掌ル

第十三條 軍醫ハ軍醫長ヲ佐ケ其主務ニ從事ス

第十四條 主計長ハ校内ノ會計給與ヲ掌ル

第十五條 主計ハ主計長ヲ佐ケ其主務ニ從事ス

第十六條 第三條ニ掲クル職員ノ外各科ノ助教トシテ準士官下士若
干人其他判任官及卒若干人ヲ置ク

第十七條 航海練習艦艦長以下ノ職員軍醫官主計官ヲ除クハ總テ本校ノ教官

ヲ以テ之ニ充ルモノトス

第十八條 本校ノ準士官及下士卒ハ航海練習艦ノ乗員ヲ以テ之ニ充
ルモノトス

○海軍機關學校官制明治二十年七月
勅令第三十五號

朕海軍機關學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍機關學校官制

第一條 海軍機關學校ハ機關師ト爲ルヘキ機關手及機關手ト爲ルヘ
キ火夫ヲ教育スル所トス

第二條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 大佐或ハ機關大監

教授長 少佐或ハ機關少監

教授 尉官或ハ機關士
 部長 教授ヲ以テ之ニ兼補ス
 軍醫
 主計

第三條 校長ハ横須賀鎮守府司令長官ニ隸シ校務ヲ總理ス

第四條 教授長ハ教授ヲ指揮シ教務ヲ擔任ス

第五條 教授ハ教授長ノ指揮ヲ承ケ學術ノ教授ヲ掌ル

第六條 部長ハ部員ヲ統率シ且其事務ヲ掌ル

第七條 軍醫ハ校内ノ醫務衛生ヲ掌ル

第八條 主計ハ校内ノ會計及庶務ヲ掌ル

第九條 第二條ニ掲クル職員ノ外判任官及卒若干人ヲ置ク

○司法省 附刑法事務局 刑法官 刑部省 彈正台

沿革略記

明治元年二月五日刑法事務局ヲ置キ職制ヲ定メ督正
 權輔正權判事等ヲ置ク○同年閏四月二十一日刑法律
 務局ヲ廢シ更ニ刑法官ヲ建テ監察鞠獄捕亡ノ三司ヲ管ス本
 官ニ正副知官事正權判官事等ヲ置キ三司ニ知司事正權判司
 事等ヲ置キ其職制ヲ定ム○同年十月十八日刑法官支衙ヲ東
 京ニ置ク是日會計局所管ノ舊評定所ヲ本官ニ屬ス○同年同
 月某日小監察ヲ監察司ニ置ク○二年五月二十二日監察司ヲ
 廢ス京都監察司舊ノ如シ是日彈正臺ヲ置キ尹弼大少忠大少
 疏史生巡察彈正ノ職員ヲ設ケ等級ヲ定ム○同年七月八日刑
 法官ヲ廢シ更ニ刑部省ヲ置キ卿大少輔正權大少丞正權大少
 錄大中少判事大中少解部連部長同助長連部等ノ職員ヲ設ケ
 職制ヲ定ム是日彈正台職制ヲ定メ尹弼正權大少忠大少疏大
 少巡察巡察屬等ヲ置キ京都ニ出張所ヲ設ケ尋テ八月二十日
 官位相當ヲ更定シ彈正台ニ大少弼ヲ置ク○同年同月二十七日
 日京都留守刑部省ヲ廢ス○同年同月某日彈正台職務條則ヲ
 定ム○同年八月十七日刑部省所管ノ京都監察司ヲ廢ス○同
 年九月八日彈正台彈例ヲ定ム○同年十一月五日刑部省中ニ
 逮部司ヲ置キ職員ヲ正火少佐伍長逮部トス○同年十二月二
 日刑部省中ニ囚獄司ヲ置ク○同年同月八日東京府所屬ノ囚
 獄ヲ刑部省ニ屬ス○三年二月二十八日彈正台彈例ヲ停止ス

○同年四月二十九日彈正台大少巡察ニ權官ヲ設ケ定員ヲ定ム○同年五月十日彈正台彈例ヲ改正ス○同年七月十三日神主等ノ訴訟事務ヲ刑部省ノ管理トス○同年同月二十五日京都出張彈正台ヲ廢ス○四年正月二十三日彈正台中權大疏、權少疏ヲ置ク○同年二月九日彈正台京攝巡察出張所ヲ大坂ニ移シ彈正台出張所ト改稱ス○同年七月九日刑部省并彈正台ヲ廢シ更ニ司法省ヲ置キ舊刑部省ノ囚獄司ヲ假ニ本省ニ屬ス尋テ七月十日職制ヲ定ム○同年八月十日官制ヲ改定シ本省ニ囚獄司ヲ置キ卿、大少輔、大中少判事、正權管事、大中少解部、正權大中少錄ヲ本省ニ正權正、正權大中少令史ヲ司ニ置ク○同年同月十八日囚獄司ヲ廢シ東京府所屬ノ聽斷獄事務ヲ本省ノ管理トス是日捕亡囚獄ノ事務ヲ地方官ニ屬ス○同年九月十四日大藏省ノ聽訟事務ヲ本省ノ管理トス○同年同月二十七日明法寮ヲ置ク○同年十月廿四日判事解部ノ等級ヲ改メ管事ヲ廢ス○五年五月第百六十五號ヲ以テ大少丞ヲ置キ等級ヲ定ム○同年八月三日假ニ職制并事務章程ヲ定ム是日第二百十八號ヲ以テ官等ヲ改メ正權大中少檢事、檢部ヲ置キ明法寮ニ正權頭、正權助、正權大中少法官、正權大中少屬ヲ置ク○同年同月二十日東京府所屬ノ選卒ヲ本省ノ管理トス○同年同月第二百四十三號ヲ以テ警報寮ヲ置キ職員ヲ正權頭、正權助、正權大中少屬、正權大少警視、警部ト爲ス○同年十月第三百十四號ヲ以テ警保寮中ニ巡查ヲ置キ等級ヲ定ム○同年

十一月二十四日職務定制第六十七條中ヲ改正ス○同年十二月十日職制第四十六條ヲ取消ス○六年一月三十一日事務章程中ニ司法官吏犯罪處分ノ條ヲ追加ス○同年十二月十四日職務定制第四十四條ヲ改正ス○七年一月九日警保寮ヲ內務省ニ屬ス○同年同月十日職制中新設內務省職制章程ニ牴觸スル條件ヲ取消ス○同年同月第十四號達ヲ以テ檢事職制章程ヲ定メ正權大中少檢事ノ職員ト爲ス○八年五月第七十一號布告ヲ以テ明法寮ヲ廢ス○同年同月四月司法省并檢事職制章程ヲ更定ス○同年同月第七十二號布告ヲ以テ司法省檢事官等ヲ改ム○同年同月第七十三號布告ヲ以テ正權大中少判事及解部ヲ廢シ更ニ判事七等判事補四級ヲ置キ官等ヲ定ム○十年一月第四號達ヲ以テ正權大少丞以下ヲ廢シ更ニ書記官屬官ヲ置ク○同年同月第四號達ヲ以テ四等官以下等級ヲ改メ官等ヲ十七等ニ分ツ○同年三月第三十二號達ヲ以テ本省職制章程ヲ改定シ卿、補、書記官、屬ト爲シ又檢事職制章程ヲ定メ檢事長、檢事、檢事補ノ職員ト爲ス○同年六月第四十六條達ヲ以テ一等判事以下四級判事補迄并大檢事以下四級檢事補迄ヲ廢シ更ニ判事、判事補、檢事長、檢事、檢事補ヲ置ク○十二年十二月第五十六號達ヲ以テ檢事長ヲ廢シ更ニ勅任檢事ヲ置ク○十三年十二月第六十號達ヲ以テ職制并事務章程ヲ改定ス○十四年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム○十六年十二月第六十五號

達ヲ以テ判事、檢事、判事、補檢事、補相當官ヲ定ム。○十七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス。○十八年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ司法大臣ヲ置ク。○十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム。○二十年十二月勅令第六十一號ヲ以テ司法省官制中ヲ改正ス。

○司法省官制 明治十九年二月勅令第二號節錄

司法省

憲法參看第一類ニ據ス

- 第一條 司法大臣ハ司法ニ關スル行政、司法、警察及恩赦ニ關スル事務ヲ管理シ大審院以下ノ諸裁判所ヲ監督ス
- 第二條 司法大臣官房ニ秘書官二人ヲ置ク（二十年勅令第六十號ヲ以テ改正）
- 第三條 司法省總務局ニ書記官五人ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外職員課ヲ置ク職員課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル（二十年勅令第六十一號ヲ以テ各項共改正）
- 一、所部官吏ノ進退身分ニ關スル事項

- 二、裁判所附屬吏員及代言人ノ身分ニ關スル事項
- 三、請願ニ關スル事項
- 四、判事、檢事巡回會同ニ關スル事項
- 第四條 總務局文書課ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル（二十年勅令第六十一號ヲ以テ本條改正各項追加）
 - 一、裁判所ノ構成權限ニ關スル事項
 - 二、判任官普通試驗及代言人試驗ニ關スル事項
 - 三、外國文書翻譯ノ事
- 第五條 司法省參事官ハ十五人ヲ以テ定員トス
- 第六條 司法省中左ノ諸局ヲ置ク
 - 民事局
 - 刑事局
 - 會計局
- 第七條 民事局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル（二十年勅令第六十一號ヲ以テ各項共改正）

- 一、民法訴訟法ニ關スル事項及其施行ニ關スル起案
 - 二、民事ニ關スル法律命令并裁判ノ執行ヲ監査スル事
 - 三、行政裁判ニ關スル事項
- 第八條 刑事局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、刑法治罪法ニ關スル事項及其施行ニ關スル起案
 - 二、死刑執行再審ノ訴非常上告特赦減刑復權假出獄免幽閉監視假免ニ關スル事項
 - 三、刑事ニ關スル法律命令并裁判ノ執行ヲ監査スル事
 - 四、軍事裁判ニ關スル事項
 - 五、刑事裁判費用ニ關スル事項
- 第九條 會計局ハ通則ニ掲クルモノ、外大審院及諸裁判所ノ豫算并決算ノ事ヲ掌ル

○裁判所

沿革略記 明治二年七月八日大中少判事大中少解部ヲ置ク○四年八月十日官制ヲ改メ更ニ大中少判事大中少解部ノ官等ヲ定ム○同年十月廿四日判事解部ノ等級ヲ改ム○同年十二月二十六日司法省中ニ東京裁判所ヲ置ク○五年二月三日東京開市場裁判所ヲ設ク○同年八月第二百十八號ヲ以テ裁判所ヲ區分シテ臨時裁判所司法省裁判所出張裁判所府縣裁判所各區裁判所ノ五種トシ司法省裁判所以下ノ職制ヲ定ム○八年五月第七十三號布告ヲ以テ正權大中少判事及解部ヲ廢シ更ニ一等判事ヨリ七等判事マテ一級判事補ヨリ四級判事補マテヲ置キ官等ヲ定ム○同年四月第五十九號布告ヲ以テ大審院ヲ置ク○同年五月第九十一號布告ヲ以テ大審院諸裁判所職制章程並巡回裁判規則判事職制通則ヲ定ム○同年同月第九十二號布告ヲ以テ上等裁判所ヲ東京大坂長崎福島ノ四ヶ所ニ置キ全國ヲ四區ニ分チ東京上等裁判所以下ノ四上等裁判所ヲシテ管轄セシム○同年八月第百廿七號布告ヲ以テ福島上等裁判所ヲ宮城ニ移ス○九年一月十七日府縣裁判所判事長ノ等級ヲ廢ス○同年四月司法省第四十七號達ヲ以テ糾問判事職務假規則ヲ設ク○同年九月第百十四號布

告ヲ以テ府縣裁判所ヲ改テ地方裁判所ヲ二十三ヶ所ニ置キ
 全國ヲ二十三區ニ分テ之ヲ管轄セシム尋テ第一百五號ヲ以
 テ各上等裁判所管轄ヲ更定ス○同年同月司法省第六十六號
 達ヲ以テ區裁判所ヲ置キ區裁判所假規則ヲ設ク○十年二月
 第十九號布告ヲ以テ大審院諸裁判所職制章程ヲ改定シ巡回
 裁判規則并判事職制通則ヲ廢ス○同年五月司法省丙第十號
 達ヲ以テ糾問判事職制規則第五章中ヲ改ム○同年六月第
 四十六號達ヲ以テ一等判事以下四級判事補マテヲ廢シ更ニ
 判事判事補ヲ置キ官等俸給ヲ定メ第四十七號達ヲ以テ大審
 院諸裁判所大中小少屬ヲ廢シ更ニ屬官十等ヲ置キ官等月俸ヲ
 定ム○同年七月第五十四號達ヲ以テ判事ノ等級ヲ廢ス○同
 年十二月第七十三號布告ヲ以テ琉球藩ヲ大阪上等裁判所ノ
 管轄トス○十一年九月第二十三號布告ヲ以テ札幌裁判所ヲ
 置キ宮城上等裁判所ノ管轄トス○十二年五月第十七號布告
 ヲ以テ小笠原島ヲ東京上等裁判所ノ管轄トス○十三年七月
 第三十七號布告ヲ以テ治罪法制定ニヨリ刑事裁判所ヲ高等
 法院大審院重罪裁判所控訴裁判所輕罪裁判所違警罪裁判所
 ノ制ト爲ス○同年八月司法省丁第十七號達ヲ以テ區裁判所
 假規則第八條ニ但書ヲ追加ス○十四年十月六日上等裁判所
 地方裁判所ノ制ヲ廢シ更ニ全國ニ控訴裁判所七ヶ所始審裁
 判所九十ヶ所治安裁判所百八十ヶ所ヲ置キ各裁判所ノ管轄
 區畫ヲ定ム○同年同月第五十六號布告ヲ以テ小笠原島裁判

事務ヲ當分東京府出張所ニ屬シ東京控訴裁判所ノ管轄トシ
 第五十七號布告ヲ以テ伊豆七島裁判事務中民事百圓以下勸
 解並ニ違警罪ヲ當分該島吏ヘ委任シ其他東京始審裁判所ノ
 管轄トス○同年同月第九十二號達ヲ以テ大審院諸裁判所屬
 ヲ廢シ更ニ書記ヲ置ク○同年十二月第七十六號布告ヲ以テ
 始審裁判所七ヶ所ヲ廢シ重罪裁判所ノ管轄區畫ヲ定メ第七
 十九號布告ヲ以テ北海道及沖繩縣縣裁判事務ヲ其管轄ニ屬シ
 北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ管轄ト
 ス○十五年三月第十八號布告ヲ以テ從前ノ治安裁判所三所
 ヲ廢シ更ニ治安裁判所三所ヲ置ク○同年六月第二十八號布
 告ヲ以テ始審裁判所二所ヲ增置シ治安裁判所四所ヲ廢シ更
 ニ七所ヲ置ク○同年十二月第七十一號布告ヲ以テ治安裁判
 所五所ヲ廢ス○十六年一月第二號布告ヲ以テ始審裁判所本
 廳四十九所ヲ廢シ支廳四十七所ヲ置キ治安裁判所三所ヲ增
 置ス○十九年五月勅令第四十號ヲ以テ裁判所官制ヲ定ム○
 二十年十二月勅令第六十二號ヲ以テ裁判所官制第二條及第
 二十三條ヲ改正ス

○裁判所官制 明治十九年五月
勅令第四十號
朕裁判所ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
裁判所官制

第一 職員

第一條 本令中裁判所トアルハ治安裁判所始審裁判所重罪裁判所控
訴院大審院及高等法院ヲ總稱ス

裁判官トアルハ裁判所ノ長局長評定官判事及判事試補ヲ總稱シ檢
察官トアルハ檢事長檢事及檢事試補ヲ總稱ス

第二條 治安裁判所始審裁判所控訴院大審院ニ左ノ職員ヲ置ク(二十年
令第六十二號ヲ
以テ各項共改正)

治安裁判所

- 判事 若干員 奏任五等又ハ六等
- 判事試補 若干員
- 檢事 若干員 奏任五等又ハ六等

二十年開令第二十六號ヲ
以テ始審裁判所檢事ノ職
ヲ裁任官六等ノ檢事ヲ以
テ之ヲ行ハシムルコトヲ
得トス

檢事試補 若干員

勸解吏 判任

書記 判任

始審裁判所

長 一人 奏任一等乃至四等

判事 若干員 奏任現任長ノ次等以下五等乃至ル

判事試補 若干員

檢事 若干員 奏任二等乃至五等

檢事試補 若干員

書記 判任

控訴院

長 一人 勅任一等又ハ二等

評定官 若干員 奏任一等乃至四等

東京控訴院ニ限り勅任二等ノ評定官ヲ置クコトヲ得

檢事長 一人 勅任二等又ハ奏任一等
 檢事 若干員 奏任二等乃至四等
 書記官 一人 奏任四等
 書記 判任
 大審院
 長 一人 勅任
 局長 三人 勅任二等
 評定官 若干員 勅任二等又ハ奏任一等乃至二等
 檢事長 一人 勅任二等
 檢事 若干員 奏任一等乃至三等
 書記官 一人 奏任四等
 書記 判任
 第三條 第十七條ニ指定スル局長勅任ノ評定官ヲ以テ之ニ充ツルノ外ハ奏任一等ノ評定官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 重罪裁判所及高等法院ノ職員ハ治罪法ノ定ムル所ニ依ル
 第五條 裁判所ノ職員中定員ヲ限ラサルモノハ判任官ヲ除クノ外事務ノ繁簡ニ應シ司法大臣ノ閣議ヲ經テ定ムル所ニ依ル
 第六條 試補ノ規則ハ別ニ定ムル所ニ依ル
 第七條 治安裁判所管轄區域内ニ執行吏ヲ置ク判任トス
 第八條 裁判官及檢察官トナルノ資格ハ別ニ試驗法ノ定ムル所ニ依ル
 第九條 刑法第二編第四章第一節乃至第六節第九章第二節第二百八十四條乃至第二百八十七條第三編第二章第一節乃至第六節ニ掲クル重輕罪ヲ犯シテ有罪ナリトノ言渡ヲ受ケ其言渡ノ確定シタルモノハ裁判官及檢察官タルコトヲ得ス
 第十條 大審院長局長評定官控訴院長檢事長及始審裁判所ノ長ヲ除クノ外裁判官及檢察官ノ任所ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル
 第十一條 新ニ裁判官ニ任セラル、モノハ治安裁判所ニ於テ其職務

ニ服シ治安裁判所裁判官又ハ檢察官ニシテ一年以上其職務ニ服シタルモノハ始審裁判所裁判官ニ任スルコトヲ得

裁判官檢察官ニシテ五年以上其職務ニ服シタルモノハ控訴院裁判官ニ任スルコトヲ得

裁判官檢察官ニシテ十年以上其職務ニ服シタルモノハ大審院裁判官ニ任スルコトヲ得

第十二條 裁判官ハ刑事裁判又ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其意ニ反シテ退官及懲罰ヲ受クルコトナシ

第二 分課及職務

第十三條 裁判所ノ權限及裁判官ノ所掌ハ訴訟法治罪法及其他法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 治安裁判所裁判官ノ分課ハ訴訟事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ從ヒ一周年毎ニ所轄始審裁判所長ノ定ムル所ニ依ル但治安裁判所ノ便宜ニ依リ其管轄ノ區域内ニ於テ臨時分課外ノ職務ヲ行フ

コトアルヘシ

第十五條 治安裁判所裁判官ハ司法大臣ノ命ニ依リ其裁判所所在地外ニ於テ期日ヲ定メ法廷ヲ開クコトアルヘシ

第十六條 始審裁判所裁判官ノ分課ハ一周年毎ニ始審裁判所長ノ上申ニ依リ訴訟事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ從ヒ所轄控訴院長ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 控訴院ハ民事刑事ノ類別ニ依リ須要ニ從ヒ數局ヲ置ク各局中ノ分課ハ一周年毎ニ控訴院長ノ上申ニ從ヒ事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ從ヒ大審院長ノ定ムル所ニ依ル局長及局員ヲ定限スルモ亦同シ但控訴院長ヲシテ院中一局ノ長ヲ兼テシメ自餘ノ局長ハ遞次上席ノ評定官ヲシテ之ヲ兼テシム

第十八條 第十六條第十七條ニ指定シタル分課ハ其分掌ノ偏重ナルトキ又ハ其主任ニ缺員若クハ引續キ差支アルトキニアラサレハ定期間之ヲ變更スルコトヲ得ス但前年ニ審理ヲ始メ未タ終結セサル

事件ハ從來ノ主任裁判官ヲシテ終結セシムルコトヲ得

第十九條 大審院ニ民事第一局民事第二局及刑事第一局刑事第二局
ヲ置ク民事第一局ハ上告事件ノ受理ノ受理ヲ審判シ民事第二局ハ
受理シタル事件ヲ審判シ刑事第一局ハ刑法ニ關スル上告事件ヲ審
判シ刑事第二局ハ諸罰則ニ係ル上告事件ヲ審判ス

民事第二局ノ長ハ大審院長ヲシテ之ヲ兼テシメ評定官ハ司法大臣
ノ上奏ニ依リ其各局分任ヲ命ス

第二十條 治安裁判所裁判官差支アルトキ其職務ヲ代理スヘキモノ
ハ一周年毎ニ所轄始審裁判所長ノ豫メ定ムル所ニ依ル若シ其裁判
所ニ於テ代理スルモノナキトキハ最近ノ治安裁判所裁判官ヲシテ
代理セシム

第二十一條 始審裁判所長差支アルトキハ上席ノ判事之ヲ代理ス
判事中差支アルトキ其職務ヲ代理スヘキ順序ハ一周年毎ニ裁判所
長ノ豫メ定ムル所ニ依ル若シ其裁判所ノ判事中代理スルモノナキ

トキハ所轄治安裁判所ノ裁判官ヲシテ臨時代理セシム

第二十二條 控訴院長差支アルトキハ上席評定官之ヲ代理ス
評定官中差支アルトキハ其職務ヲ代理スヘキ順序ハ一周年毎ニ院
長ノ豫メ定ムル所ニ依ル若シ其院ノ評定官中代理スルモノナキト
キハ所轄始審裁判所裁判官ヲシテ代理セシム

第二十三條 大審院長差支アルトキハ上席ノ局長之ヲ代理ス(二十年
六十二號ヲ以
テ各項共改正)

局長中差支アルトキハ其局上席ノ評定官之ヲ代理ス各局評定官中
其職務ヲ代理スヘキ順序ハ一周年毎ニ院長ノ豫メ定ムル所ニ依ル
若シ其院ノ評定官中代理スルモノナキトキハ最近ノ控訴院裁判官
ヲシテ代理セシム

第二十四條 治安裁判所判事始審裁判所長控訴院長及大審院長ハ司
法大臣ノ指揮ヲ承ケ其職務ヲ整理シ及司法ニ關スル行政ヲ掌理ス

第二十五條 大審院長ハ其院及控訴院ヲ監督シ控訴院長ハ其院及所

轄裁判所ヲ監督シ始審裁判所長ハ其裁判所及所轄治安裁判所ヲ監督ス

第二十六條 控訴院及大審院ノ局長ハ其局ノ所掌ニ屬スル裁判事務ヲ指揮ス

第二十七條 治安裁判所ヲ除クノ外裁判所ニ檢事局ヲ置キ檢察官ヲシテ治罪法及訴訟法ニ定ムル職務ノ外司法ニ關スル事項及司法ノ行政ニ關スル事項ニ付監督ノ職務ヲ行ハシム其處務ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

治安裁判所ニ於テハ別ニ檢事局ヲ置カス檢事試補ヲシテ其所轄ニ屬スル檢察事務ヲ掌ラシム但檢事試補ヲ置カサルノ治安裁判所ニ於テハ警察官郡區長戸長ヲシテ檢察事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十八條 各檢事局ノ管轄ハ其所在裁判所ノ管轄區域ニ依ル

第二十九條 檢察官ハ其職務上其所在裁判所ニ從屬セサルモノトス

第二十條 檢察官ニハ裁判官ノ職務ヲ行ハシムヘカラス又其職務ヲ

監督セシムヘカラス

第三十一條 檢察官差支アリテ止ムヲ得サル場合ニ於テハ裁判所長ハ司法大臣ノ認可ヲ承ケテ裁判官中ヨリ臨時代理ヲ命スルコトアルヘシ

第三十二條 大審院檢事長ハ所屬檢事及控訴院檢事長ヲ監督シ控訴院檢事長ハ所屬檢事及所轄内ノ檢事及司法警察官ヲ監督ス

第三十三條 檢察官ハ職務上其所屬長官ノ命令ニ服從スヘシ司法警察官ノ檢事ノ助官トナリタルトキモ亦同シ

第三十四條 始審裁判所檢事局ニハ檢事長ヲ置カス上席檢事ヲ以テ之ニ充テ始審裁判所及其所轄内ニ在ル治安裁判所ノ檢察事務ヲ指揮シ其局所掌ノ事務ヲ掌理セシム

第三十五條 控訴院檢事長ハ其局所轄ノ事務ヲ掌理シ其局及其所轄ノ檢察官ヲ指揮ス

第三十六條 大審院檢事長ハ其局ノ檢事ヲ指揮シ及其局所轄ノ事務

ヲ掌理ス

第三十七條 控訴院及大審院ノ書記官ハ書記ヲ指揮監督シテ文書記
録會計ノ事務ヲ掌ル

第三十八條 裁判所ノ書記ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ訴訟法治罪法及
其他法律命令ノ定ムル所ニ依リ文書記録會計ニ従事ス

始審裁判所以上ノ裁判所ニ於テハ檢事局ニ書記ヲ置ク其職務ハ前
項ニ同シ

第三十九條 執行吏ハ治罪法訴訟法及其他法律命令ノ定ムル所ニ依
リ文書ノ送達及判決命令ノ執行ヲ掌ル

第三 執務及休暇

第四十條 治安裁判所及始審裁判所ノ審理判決ハ裁判官一人ニテ之
ヲ行ヒ控訴院ノ審理判決ハ主任局長ヲ合セテ裁判官三人大審院ノ
審理判決ハ主任局長ヲ合セテ五人合議列席シテ之ヲ行フ

第四十一條 裁判ヲ爲スニハ前條ニ指定シタル主任裁判官ノ外列席

スルコトヲ得ス但審問數日ニ涉ルヘキトキハ其裁判所中自餘ノ裁
判官ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

第四十二條 裁判所ノ會議及議決ハ之ヲ公行セズ其狀況及結果ハ一
切之ヲ漏洩スルコトヲ許サス

第四十三條 合議列席シテ審理判決ヲ行フ場合ニ於テハ主任局長其
會議ノ長トナリテ議事ヲ整理シ訴件ノ要點ニ就テ問議ヲ提出シ列
席員ヲシテ各意見ヲ述ヘシム其問議ノ事項及提出ノ方法順序又ハ
決議ノ査定ニ關シ各員ノ間ニ異見ヲ生スルトキハ列席員ノ最多數
ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第四十四條 決議ノ際各員異見ヲ述フルノ順序ハ各其任官ノ前後ニ
依リ後任ノ裁判官ヨリ始メ局長ヲ最後トス任官ノ同日ニ係ルトキ
ハ年少ヨリ始ム但專任ヲ命シタル事件ニ關シテハ其專任裁判官ヨ
リ之ヲ始ム

第四十五條 凡ソ裁判ハ過半數ノ議決ニ依リ之ヲ行フ

金額ニ關シ裁判官ノ意見ニ説以上ニ分レ其説各過半数ニ至ラサル
トキハ過半数ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ノ意見ニ合算
ス

刑事ニ關シ有罪無罪ノ問議ヲ除クノ外其意見ニ説以上ニ分レ各過
半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨ
リ順次利益ナル意見ニ合算ス

第四十六條 大審院ニ於テ裁判前例ニ違ヘル裁判ヲ爲サントスルト
キ又ハ司法大臣ノ諮問ニ應シ司法制度ニ關スル意見ヲ提出セント
スルトキハ總會議ヲ開クコトヲ得

總會議ハ院中ノ裁判官三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ開キ院長其會議ノ
長トナリテ其議事ヲ整理シ其議決ハ最多數ニ依ル若シ可否同數ナ
ルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十七條 治安裁判所及始審裁判所ハ裁判上ノ處分ニ關シ互ニ補
助ノ囑托ニ應スヘキモノトス

第四十八條 檢察官其職務ヲ行フニ付必要ナル場合ニ於テハ互ニ補
助ノ囑托ニ應スヘキモノトス

第四十九條 書記又ハ執行吏他ノ裁判所ノ管轄内ニ於テ其職務上ノ
處分ヲ爲スノ必要ナル場合ニ於テハ互ニ補助ノ囑托ニ應スヘキモ
ノトス

第五十條 裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始リ九月十日ニ終ル

第五十一條 休暇中ハ左ノ事件ニ限り裁判ス

一、刑事

二、差押事件

三、身代限ニ關スル事件

四、家宅ノ貸渡使用明渡及借家人ノ借宅ニ現存スル物品引留ニ付
家主ト借家人トノ間ニ生スル事件

五、爲換事件

六、養料ノ請求

七、既ニ着手シタル建築ノ繼續ニ關スル事件

以上事件ノ外ト雖モ原告若クハ被告ノ申立ニ由リ別段ノ至急ヲ要スルモノト裁判所ニ於テ認定シタルトキハ之ヲ裁判スルコトアルヘシ

前諸項ノ事件ヲ裁判スル爲ニ裁判所長ハ休暇中臨時主任ノ局又ハ委員ヲ定ムヘシ

○裁判所處務規程十九年七月八號
司法省令丙第八號
裁判所處務規程別冊ノ通相定ム

(別冊)

裁判所處務規程

裁判官

第一條 各裁判所ハ一年間各局又ハ各裁判官ノ每週開クヘキ訟廷ノ日割ヲ豫定シ廳内公衆ノ知り得ヘキ場所ニ之ヲ揭示スヘシ

開廷ノ期日ニハ當日裁判スヘキ事件ヲ引續キ審理判決スヘシ
第二條 訴訟人喚出ノ時刻及審判ノ順序ハ訴訟人ノ便宜ヲ計リ各裁判官之ヲ定ムルコトヲ得

第三條 各裁判所ニハ訟廷出勤簿ヲ設ケ裁判官ヲシテ開廷ノ時刻前之ニ押印セシメ局長又ハ裁判所長直ニ之ヲ調査シテ後檢印シ若シ欠勤者アルトキハ欠勤ノ理由及其結果ヲ出勤簿ニ記入ス但シ其抄録ハ裁判所ノ長毎月之ヲ司法大臣ニ進達スヘシ
第四條 裁判官文書ヲ受ケタルキハ直ニ其處分方ヲ文書ノ餘白又ハ別紙ニ記載シ之ヲ書記ニ下附スヘシ
文書ノ處分一時ニ結了シ能ハサルキハ後日提出ノ期限ヲ豫定シテ之ヲ書記ニ下附スヘシ
第五條 裁判書其他重要ナル文書ノ原按ハ裁判官自ラ之ヲ作ルヘシ
第六條 裁判官差支アルキ之ヲ代理スヘキ者ヲ豫定スルコトハ其事務ニ妨ケナキヲ要スルヲ以テ成ルヘク差支アル者ト同日ニ訟廷ヲ開カサル裁判官ヲ撰ヒ置クヘシ
第七條 裁判官ノ分課ハ事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ依リ之ヲ定ムト雖モ事務ノ繁閑ニ從ヒ甲局ノ裁判官ヲシテ乙局ノ事務ヲ兼掌セシムルヲ得
第八條 各裁判所(治安裁判)ニ於テハ其廳ノ行政事務ニ關シ裁判官總會議ヲ開クコトアルヘシ但檢事長又ハ上席檢事ハ其會議ニ出席シテ意見ヲ述フヘシ
總會議ハ過半數ノ裁判官出席スルニ非レハ之ヲ開クコトヲ得ス其會議ハ裁判所ノ長ヲ以テ議長トス
第九條 總會議ニ於テ議スヘキ事項左ノ如シ

一 廳内ノ執務細則ヲ設定變更スルコト
 一 裁判區畫ノ變更ニ關シ司法大臣ニ意見ヲ述フルコト
 一 法律及諸規則ノ執行ニ關シ檢察長又ハ上席檢事ヨリ請求アリタル事項ヲ議決スルコト
 一 司法大臣ヨリ諮問ニ付シタル法律ノ草按ニ付意見ヲ述ルコト
 一 裁判所附屬吏員ノ組合ヨリ提出シタル意見ヲ審査スルコト
 第十條 控訴院ニ於テハ所轄裁判所ノ一般ニ遵守スヘキ司法省令及訓令ノ施行細則ヲ議定スル爲メ臨時總會議ヲ開クコトアルヘシ

第十一條 控訴院ハ毎年九月十五日(休假日)ニ於テ總會議ヲ開キ前年八月ヨリ其年ノ七月迄一年間所轄裁判所ノ執リタル裁判事務ノ成績ニ關スル檢察長ノ報告ヲ聽キ匡正スヘキ弊害アレハ相當ノ處分ヲ評決スヘシ

第十二條 控訴院長始審裁判所長ハ十二月初旬ニ於テ總會議ヲ開キ其應翌年中各裁判官ノ分課代理ノ順序及開廷ノ日割ヲ豫定スル爲メ其意ヲ詢フヘシ

第十三條 控訴院始審裁判所ノ裁判官ニ欠員アルキハ十日以内ニ控訴院長其候補者二名又ハ三名ヲ指定シテ司法大臣ニ具申スヘシ

書記(會計事務)ニ欠員アルトキハ控訴院長檢察長ト協議連署スヘシ若シ該書記ハ各自ニ候補者ヲ指定シテ具申スヘシ

裁判所官制

(二十二年司法省令第一號)
 始審裁判所ノ裁判官ニ欠員アルキ其候補者ヲ指定スルニハ豫メ其裁判所長ニ書記(會計事務)ノ候補者ヲ指定スルニハ其裁判所長及上席檢事ニ諮問スヘシ(二十二年司法省令第一號)
 第十四條 治安裁判所ニ缺員アルトキハ十日以内ニ裁判官ニ付テハ所轄裁判所長書記(會計事務)ニ付テハ上席檢事ト協議連署シ候補者二名又ハ三名ヲ指定シテ所屬控訴院長ニ具申スヘシ
 書記(會計事務)ニ付テハ檢察長ト協議連署シテ具申スヘシ(二十二年司法省令第一號)
 第十五條 前二條ノ場合ニ於テ裁判所ノ指定シタル候補者ノ取捨ハ司法大臣ノ權内ニアリトス

第十六條 控訴院長ハ檢察長ト協議シ司法大臣ノ名義ヲ以テ其應及所轄裁判所判任官吏(會計事務)ノ増俸及轉勤ヲ攝行スルコトヲ得大審院長ノ其應書記ニ於ケルモ亦同シ但シ始審裁判所及治安裁判所判任官吏ニ付テハ控訴院長豫メ始審裁判所長又ハ上席檢事ニ諮問スヘシ(二十二年司法省令第一號)
 始審裁判所判任官(會計事務)ニ付テハ其管内限リノ轉勤ハ裁判所長又ハ上席檢事之ヲ控訴院長又ハ檢察長ニ具申スルコトヲ得(二十二年司法省令第一號)
 前各項ノ場合ニ於テハ攝行ノ後直ニ司法大臣ニ具申スヘシ

第十七條 裁判所ノ長ハ所轄裁判所裁判事務ノ整理ヲ觀察スル

爲メ其他必要ノ場合ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ得管内ニ出張又ハ巡回スルヲ得但シ出張ニ付認可ヲ得ルノ暇ナキハ出張ノ後直ニ司法大臣ニ報告スヘシ

第十八條 控訴院書記官ハ會計收支命令ノ事ヲ掌リ及會計事務ヲ勘査スヘシ(二十年司法省令第一號)控訴院書記官ト改メ

控訴院書記官ハ一定ノ期限内ニ其院及所轄裁判所ノ豫算表決算表ヲ司法大臣ニ提出スヘシ(二十年司法省令第一號)控訴院書記官ト改メ

第十九條 控訴院長ハ必要ナル場合ニ於テハ書記(會計事務ヲ掌ル)所轄裁判所ニ出張セシメ又ハ所轄裁判所ノ書記ヲ招喚スルヲ得(二十年司法省令第一號)

第二十條 裁判所ノ長ハ各其主掌ニ係ル諸表ノ調製ヲ管理シ司法大臣ニ進達スヘシ

第二十一條 裁判所ノ長ハ其廳ノ印章ヲ調製シ其印影ヲ司法省ニ進達スヘシ但治安裁判所ノ判事ハ所屬始審裁判所長ノ許可ヲ得テ調製スヘシ

第二十二條 裁判所ノ長ハ其廳經費定額内ニテ雇員ヲ使用スルヲ得但治安裁判所判事ハ所屬始審裁判所長ノ許可ヲ得テ之ヲ使用スヘシ

第二十三條 控訴院長ハ其廳及所轄裁判所ノ職員勅任官ニ對シ司法大臣ノ名義ヲ以テ除服出仕ヲ命シ及例規ノ賜暇ヲ許否スルコトヲ得

第二十四條 始審裁判所長ハ其廳及所轄治安裁判所職員(檢察官ヲ除ク)ノ考績ニ付毎年八月所屬控訴院長ニ報告ヲ爲ス可シ但シ書記以下ニ付テハ上席檢事ト協議スヘシ(二十年司法省令第一號)

控訴院ノ長ハ其廳及所轄裁判所職員(檢察官及會計專任ノ考績ニ付)毎年九月司法大臣ニ報告ヲ爲スヘシ但シ書記以下ニ付テハ檢事長ト協議スヘシ(二十年司法省令第一號)

第二十五條 始審裁判所長ハ檢事ノ意見ヲ詢ヒ毎年其廳裁判官中ヨリ豫審掛ヲ指名シ司法大臣ニ具申スヘシ

第二十六條 始審裁判所長ハ治安裁判所所在地外ニ法廷ヲ開クヲ必要ト認ムルトキハ司法大臣ニ具申スヘシ

第二十七條 始審裁判所長治安裁判所判事ハ書記(會計事務ヲ掌ル)分任ヲ定メ書記數名アルキハ一名ヲ書記長ニ命スルコトヲ得(二十年司法省令第一號)

第二十八條 裁判所ト中央官廳トノ間ニ往復スル文書ハ總テ司法大臣ヲ經由スヘシ

第二十九條 始審裁判所長治安裁判所判事ヨリ司法大臣ニ申稟報告スヘキモノハ總テ監督上官ヲ經由スヘシ但特別ナル場合ハ直ニ司法大臣ニ申稟報告スルヲ得

第三十條 第三條第二十條ニ定メタル裁判所長ノ職務ニ關スル規則ハ治安裁判所判事ニモ亦之ヲ適用ス

第三十一條 裁判所官吏ノ事務取扱ニ對スル抗告ハ其監督上官

之ヲ判定シ最終ノ抗告ハ司法大臣之ヲ判定ス

檢察官

第三十二條 檢事ハ檢事長ノ代理者タルヲ以テ其特別委任ヲ俟
タスシテ各自其本務ヲ行フコトヲ得但シ檢事數名アル時ハ檢事
長ハ裁判所ノ事務分課法ニ依リ檢事ノ分任ヲ定ムルコトヲ得

第三十三條 檢事ニ分任シタル事件ト雖モ被告人ノ身分又ハ事
件ノ性質ニ依リ重大ナルモノハ檢事長自ラ之ヲ取扱フヘシ若
シ自ラ取扱フコト能ハサル場合ニ於テハ特別ノ注意ヲ要ス
又左ニ記載スル書類ノ原接及正本ニハ檢事長ノ署名捺印ヲ要
スルモノトス

一重罪公訴狀

一 告訴發ヲ受ケタル事件ニ付起訴ヲ爲リ、ルノ通知書

一 監督上官ニ差出スヘキ書類

一 上訴再審哀訴ニ關スル書類

一 特赦ノ上申書

一 檢事ノ處分ニ對スル抗告ノ判定書

一 中央官廳及地方廳トノ往復書類

第三十四條 控訴院檢事長ハ管内代言人ノ取締上必要ト認ムル
規則ヲ設ケ之ヲ告達スルコトヲ得

始審裁判所上席檢事ハ管内代言人ヲ監督シ其能否ニ付隨時控
訴院檢事長ニ報告ヲ爲シ控訴院檢事長ハ之ヲ司法大臣ニ報告
スヘシ其名簿ニ變更アルキモ亦同シ

第三十五條 檢事其所在地外ニ臨檢スヘキ時ハ檢事長ノ許可ヲ
受クヘシ

第三十六條 控訴院檢事長ハ司法大臣ノ命令又ハ認可ヲ得テ管
内ヲ巡視シ法律命令ノ執行ニ關スル利弊ヲ監査スヘシ

又檢事長ハ必要ナル場合ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ得隨時管内
ニ出張シ又ハ管内ノ檢事ヲ招喚スルコトヲ得但シ時機急迫ニシ
テ認可ヲ得ルノ暇ナキ時ハ出張又ハ招喚ノ後速ニ其旨ヲ具申
スヘシ

第三十七條 檢察官ハ其監督上ノ職務ニ付隨時司法大臣ニ機密
報告ヲ爲スヘシ

第三十八條 始審裁判所上席檢事ハ毎年八月其所在裁判所及治
安裁判所ノ前一箇年間取扱ヒタル事務ノ舉否及其弊害ヲ匡正
スルノ方法ヲ所屬控訴院檢事長ニ具申スヘシ

第三十九條 控訴院檢事長ハ毎年九月十五日ニ開クヘキ總會議
ノ席ニ於テ管内裁判所ノ前一箇年間取扱ヒタル事務ノ舉否及
其弊害ヲ匡正スルノ方法ヲ演說スヘシ

第四十條 前條演說ノ筆記ハ九月下旬ニ之ヲ司法大臣ニ進達シ
及ヒ所轄裁判所ニ送致スヘシ

第四十一條 第四條第十三條第十四條第二十條第二十一條第二
十二條第二十三條第二十四條第二十八條第二十九條第三十一
條ニ定メタル規則ハ檢察官ニモ亦之ヲ適用ス
第三十三條第三十五條第三十六條ニ定メタル檢事長ノ職務ハ

始審裁判所上席檢事ニモ亦之ヲ適用ス

附則

第四十二條

始審裁判所支廳ノ上席判事ハ本規程ニ照準シ其廳及管内ノ行政事務ニ付キ本廳長ノ代理ヲ爲シ其上席檢事ハ本廳上席檢事ノ職務ヲ行フモノトス但控訴院長檢事長又ハ司法大臣ニ進達スヘキ文書ハ本廳ヲ經由スヘシ

○裁判所官制ニ依リ職員就任迄從來ノ職員ヲ用フ司法省令甲第一號

裁判所官制ニ依リ相當ノ職員就任スル迄ハ一時從來ノ職員ヲシテ其事務ヲ取扱ヘシム

○文部省 附大學校 大學

沿革略記

明治元年三月十九日學習院ヲ開ク○同年六月二十六日醫學所ヲ江戸ニ置ク○同年同月廿九日昌平校ヲ復興ス○同年八月二日昌平校並醫學所ヲ東京府ニ屬ス○同年同月十七日大學寮代ヲ開設ス○同年九月十二日開成所ヲ復興ス○同年同月十六日皇學所漢學所ヲ京都ニ置ク○同年十月十九日昌平校ヲ行政官ニ屬ス○同年十二月十日昌平開成二校並醫學校ニ教授ヲ置キ又皇學所ノ規則ヲ定ム○同年同月二十五日醫學所ヲ昌平校ノ所轄トス○二年二月某日醫學所ヲ改メテ醫學校兼病院ト稱ス○同年三月二十日府縣學校取調局ヲ昌平校ニ設ケ史料編輯、國史校正局ヲ和學所ニ置ク○同年五月十日東京府所屬ノ病院ヲ昌平校ニ屬ス○同年六月十四日府縣學校取調局ヲ罷ム○同年同月十五日昌平校ヲ改メテ大學校ト稱シ開成醫學ノ二校ヲ屬ス○同年七月八日大學校官職ヲ大少監、大中少博士、大中少助教等ト定ム○同年八月二十日官位相當ヲ更定シ大學校ニ別當及正權大少丞ヲ置ク○同年九月二日京都皇學所漢學所ヲ廢ス○同年十月二十九日國史編輯局ヲ大學校ニ置ク○同年十一月五日大學校中大少主簿官位相當ヲ改メ權大少主簿ヲ置ク○同年同月十二日大學校ノ職員ヲ別當、大少監、正權大少丞、正權大少主簿ト定ム○同年十二月十七日大學校ヲ大學ト改メ開成所ヲ大學南校醫學校ヲ大學東校ト稱ス○同年同月二十二日國史編輯局ヲ廢ス○三年二月十日天文曆道ヲ大學ニ管セシム○同年

同月二十八日大阪醫學校病院並長崎病院ヲ大學東校ニ管セ
 シム○同年三月十二日大學寮長ヲ改メテ舍長ト稱ス○同年
 四月三日大阪洋學所並化學所ヲ大學南校ニ屬ス○同年七月
 十二日學制ヲ改正シ假リニ大學本校ヲ閉ツ○同年八月十四
 日天文曆道局ヲ星學局ト改稱ス○同年十月十八日造幣局所
 轄ノ大阪醫學所ヲ管ス○同年同月二十四日大阪洋學所ヲ改
 メテ開成所ト稱シ理學所ヲ開成所ノ分局ト爲ス○同年閏十
 月九日箱館病院ヲ大學東校ニ屬ス○同年同月二十七日京都
 星學局ノ支局ヲ廢ス○四年六月三日高知藩ノ病院ヲ大學東
 校ニ屬ス○同年七月十八日大學ヲ廢シテ文部省ヲ置キ東南
 二校ヲ管ス○同年同月廿一日東南兩校ノ大學ノ二字ヲ省キ
 單ニ東校南校ト稱セシム○同年同月廿四日大中小博士大中
 少教授正權大中小助教ノ教員ヲ置キ官位相當ヲ定ム○同年
 八月四日大史局所管書籍新刻事務ヲ管ス○同年同月七日文
 部卿職制ヲ定ム○同年同月十日文部省官制ヲ定メ卿大少輔
 大少丞正權大中小少錄及大中小少博士大中小少助教ノ
 職員ト爲ス○同年同月十九日東京府中小學並洋學所ヲ管ス
 ○同年九月十八日大少監ヲ置キ官等ヲ定メ又編輯寮ヲ置キ
 二等寮ト爲ス○同年十一月十四日長崎縣所屬ノ病院ヲ管ス
 ○同年同月二十三日長崎廣運館ヲ管ス○同年同月二十五日
 各府縣ノ學校ヲ直轄ス○五年正月第十六號ヲ以テ文部省官
 等ヲ改正シ編輯寮ニ正權頭正權助正權大中小少屬ト爲ス○同

年同月二十八日博物館ヲ設ク○同年六月文部省號外達ヲ以
 テ博物館中書籍館ヲ置ク○同年八月文部省第十六號ヲ以テ
 東校ヲ改テ醫學校第一大ト稱シ南校第一大及大坂開成所第
 二大長崎廣運館第六大ヲ以テ並ニ第一中學ト爲ス○同年九
 月第二四十六號ヲ以テ文部省中大中小少博士以下ノ教官ヲ
 廢シ更ニ大中小學ニ大中小少教授大中小少助教ノ教官ヲ置キ一
 等ヨリ五等ニ至ル學士ノ稱號ヲ定ム○同年九月第二百六十
 二號ヲ以テ編輯寮ヲ廢シ大中小少督學ヲ置ク○同年十月文部
 省第三十三號ヲ以テ第一大學區督學局本部ヲ置ク○同年同
 月第三百二十二號ヲ以テ文部省附屬ノ外國語學所ヲ管セシム
 十九日博物館書籍ノ二館并博物館小石川藥園ヲ博覽會事務局
 ニ合ス○同年五月五日外務省附屬ノ外國語學所ヲ管セシム
 ○同年七月文部省第九十五號ヲ以テ督學局ヲ本省ニ置ク○
 同年八月第二百九十六號ヲ以テ大少監ヲ廢シ更ニ大中小少視
 學書記ヲ置キ又教員ノ等次學位ノ稱號ヲ改テ博士學士得業
 生ノ三級ト爲ス○七年六月十三日海外留學生監督吏員ヲ置
 ク○八年二月九日復テ博物館書籍二館博物館及小石川藥園ヲ
 管セシム○同年五月第八十四號布告ヲ以テ六年八月所定教
 員ノ等級ヲ廢シ更ニ本省直轄官立學校教員ノ等次ヲ定ム○
 同年六月第一號布告ヲ以テ督學局官等ヲ改メ大中小少督學
 大中小少視學大中小少書記ト爲ス○同年二月二十八日衛生准刻
 ノ事務ヲ內務省ニ屬ス○同年十二月第二百號布告ヲ以テ督

學局ノ官等ヲ改定シ更ニ權大中少書記ヲ置ク○同年同月第
二百十七號達ヲ以テ職制章程ヲ定メ職員ヲ卿大少輔正權大
少丞正權大中少錄等及大中少督學視學書記ト爲ス○十年一
月第三號達ヲ以テ各省中諸寮並大少丞以下ヲ廢シ更ニ書記
官屬官ヲ置キ等級ヲ定ム○同年同月第四號達ヲ以テ四等官
以下ノ等級ヲ改メ官等十七等ニ分ツ○同年同月第十五號達
ヲ以テ督學局ヲ廢ス○同年二月二日文部省ヨリ東京博物館
ヲ教育博物館ト改稱セシ旨ヲ報告ス○同年四月文部省第二
號布達ヲ以テ東京開成學校東京醫學校ヲ合併シテ東京大學
ト改稱シ同省第三號布達ヲ以テ東京英語學校ヲ東京大學豫
備門ト改稱シテ大學ニ附屬ス○同年四月十八日小石川植物
園ヲ東京大學ニ屬ス○同年八月第五十八號達ヲ以テ官立學
校教員等次ヲ廢シ更ニ東京大學ニ教授助教并員外教授ヲ置
キ東京豫備門其他各學校ニ訓導助訓ヲ置ク○十三年一月第
七號達ヲ以テ職制章程ヲ改正シ職員ヲ卿大少輔正權大少書
記官屬十等ト爲ス○十三年七月文部省第一號布達ヲ以テ東
京府書籍館ヲ管シ東京圖書館ト改稱ス○同年十二月第六十
號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ改正シ官立學務地方學務編輯
報告會計ノ五局ヲ管ス○十四年三月第廿四號達ヲ以テ內記
局ヲ置ク○同年六月第五十一號達ヲ以テ十年第五十一號達
ヲ廢シ更ニ官立學校圖書館教育博物館職制及職員名稱等級
ヲ定メ職員ヲ總理長教授助教諭助教諭訓導書記ト爲ス

又第五十二號達ヲ以テ府縣立町村立學校職員名稱并准官等
ヲ定ム○同年八月六日教育博物館ヲ東京教育博物館ト改稱
ス○同年十一月十五日文部省ニ於テ官立學務地方學務內記
ノ三局ヲ廢シ更ニ專門學務普通學務庶務ノ三局及內記課ヲ
置キ事務掌理ヲ定ム○同年同月第九十四號達ヲ以テ從前ノ
事務章程ヲ廢シ更ニ諸省事務章程通則ヲ定ム○十五年一月
第八號達ヲ以テ府縣立學校書記ノ准官等ヲ定ム○同年同月
第九號達ヲ以テ東京大學ニ幹事ヲ置キ職制俸給ヲ定ム○十
七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正
ス○同年十月第九十二號達ヲ以テ東京大學ニ副總理ヲ置キ
職制俸給ヲ定ム○十八年五月文部省第一號告示ヲ以テ農商
務省所轄東京商業學校ヲ管ス○同年十二月第六十九號達ヲ
以テ各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ文部大臣ヲ置ク○同年同月第
七十號達ヲ以テ工部大學校ヲ管セシム○十九年二月勅令第
二號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年三月勅令第九號ヲ以テ帝國大
學ノ職員官等ヲ定ム○同年四月勅令第三十五號ヲ以テ高等
師範學校高等中學校東京商業學校ノ官制ヲ定ム○同年十月
勅令第六十五號ヲ以テ尋常師範學校官制ヲ定ム○二十年十
月勅令第五十號ヲ以テ文部省官制中ヲ改正ス○同年同月勅
令第五十一號ヲ以テ高等師範學校中學校東京商業學校
官制中東京商業學校トアルヲ高等商業學校ニ改メ其下ニ東
京職工學校東京高等女學校東京美術學校東京音樂學校東京